

緒言

一 關西樞要地としての廣島、名勝靈城としての嚴島には、四時行旅の足跡を絶たず、牙籌を劃策するの客、風光を愛翫するの人、朝に雲集し夕に霞散す、この書編纂の目的は、此地の地理景勝を案内し、此地商工の状態を紹介せんと欲するに外ならず

而して其の間章も名利の考慮を存せるにあらず、由來我廣嶋は地勢上交通繁劇にして、人の集散するもの夥く、歴史上由緒沿革甚だ豊富なるに拘らず、從來之が案内的記述に缺くる所あるもの、是れ予をして

自ら揣らざる、此著のらしめし所以なり

予れは元廣陵の二井蛙、自家の事は隣人によく知られ、我里の事は却つて他郷の人能く之を認む、豈予れ克く郷里を識ると誇らんや、然れども世人に貢獻せんとするの志に於て、敢て餘人に譲らざるを自認するものあり

予が本書の編纂を計畫せしは昨夏の交にありしも、予元操觚の未班に従事し、材料蒐集事實調査の餘暇少く、漸く書稿を起せしは今春櫻



花の交にあり、従つて書すれば従つて印刷に附し、今纔に梓を脱するを得たり、こゝを以て或は杜撰あらんを恐る、且印刷校合の疎漏あるを免れず、偏に大方の叱正を望まずんばあらず。

一本書中演劇場以下數項は、尾山勝田君、精透なる觀察を以て、特に本書のために助筆の勞に執らされしところに係る、記して以て氏の勞を謝す

一文中統計的の文字は、總て各所の調査に據りたるものにして、其の期間一定ならずと雖も、現況を知るの目的なれば可成最近のものを撰びたるあり

一場所の記述の案内的方針に據りて、概ね市街の順路より進めたり一而して要する所は、現在及將來にありと雖も、古きを温ねて新しき知るの要もあれば、今日全くその形體を存せざるものをも、之を収録するに怠らず

一名鑑の順序も亦概ね市街順に依りて作りたるあり

明治三十三年五月下浣
双木軒に於て 編者 謹識

廣島繁昌記目次

廣島の地誌	一
廣島の市街	五
廣島の繁昌	一〇
交通機關	二二
廣島の名所	二五
最東部	二五
東部	四七
中央部	五四
中嶋部	七七
西部	八三
最西部	九六
廣島の四季	一〇八
勸工場	一二三
演劇場	一二四
寄席	一三三

廣 島 案 内

藝妓社會	一三四
遊廓	一三六
旅宿及料理業	一三八
嚴島案内	
嚴島の地理	一
官公署學校	二
嚴嶋神社	五
神社案内	七
寺院	七
名所舊跡	一
御山案内	二
嶋巡案内	三
神社寶物	三
年中行事	四
演劇場	五
物産	五
旅人宿及料理屋	五
附記	六
繁昌記附録	〇八
目次終	〇八

GANDENOMARUTEKISU

高麗參 鹿茸 燕窩 鮑魚 魚翅 海參 燕窩 鮑魚 魚翅 海參

新製 滋補 強身 健胃 助消化 增進 食慾 補血 強精 壯陽 益氣 養神 寧心 安眠 止咳 化痰 平喘 祛風 除濕 活血 通絡 止痛 消腫 散瘀 解毒 消食 健脾 開胃 潤肺 生津 止渴 利尿 通便 驅蟲 殺菌 消炎 止痛 止血 生肌 收斂 固脫 止汗 止瀉 止嘔 止吐 止喘 止渴 止汗 止瀉 止嘔 止吐 止喘 止渴

明 船 丸 鐵 透

行發製監堂廣大村野橋下徑原橋阪天洲本
坐廣大村野町塔的市島廣縣島廣元貴森

小瓶 價金 壹圓

三瓶 價金 壹圓

此藥 凡 弱 症 均 有 效 驗 野 村 大 廣 堂 主 人 啟

健大と弱男の對談
 ◎健大と弱男の對談
 健大「君は、どうして弱くなったのか？」
 弱男「僕も、よくわかりません。最近、だんだん力がなくなりました。食事も美味しくありません。夜もよく眠れません。どうしてこんな状態になったのか、教えてください。」
 健大「それは、君の生活習慣が原因かもしれません。まず、食生活を見直してください。栄養バランスの取れた食事を摂ることが大切です。また、適度な運動をすることも、体を強くするのに役立ちます。睡眠も、十分な量を確保してください。ストレスを溜め込まないように、リラックスすることも大切です。」
 弱男「ありがとうございます。でも、仕事で忙しいので、なかなか難しいです。何か、簡単にできる方法はないでしょうか？」
 健大「そうですね。忙しい中でも、ちょっとした運動や、食生活の改善だけでも効果があります。例えば、通勤の途中で歩く、エレベーターを降りて階段を使う、など、簡単な運動を取り入れるだけでもいいですよ。また、食生活では、野菜や果物を積極的に摂り、タンパク質も十分に摂ってください。睡眠は、できるだけ早く寝て、十分な睡眠をとってください。」
 弱男「ありがとうございます。でも、仕事で忙しいので、なかなか難しいです。何か、簡単にできる方法はないでしょうか？」
 健大「そうですね。忙しい中でも、ちょっとした運動や、食生活の改善だけでも効果があります。例えば、通勤の途中で歩く、エレベーターを降りて階段を使う、など、簡単な運動を取り入れるだけでもいいですよ。また、食生活では、野菜や果物を積極的に摂り、タンパク質も十分に摂ってください。睡眠は、できるだけ早く寝て、十分な睡眠をとってください。」

廣告

本會社ハ從來量衡器製作修覆販賣營業仕居候處創立以來各地販賣者諸君ノ御引立ニ依リ日増ニ隆盛ニ赴キ候段深ク感謝之至リニ御座候就テハ其御厚誼ニ報ユル爲メ今回度器モ併セテ製作修覆販賣開業仕隨テ社名モ左記之通改稱仕候猶倍々勉強全良ノ器物ヲ製出シ廉價ト正實ヲ旨トシ博ク御高需ニ應セントス舊倍御眷顧之程奉願上候敬具

廣島縣廣島市鍛冶屋町百四十二番屋敷

商標  廣島度量衡株式會社

(廣島量衡株式會社改之)

●金庫は東京竹内善次郎製特約
●大阪日之出商會製
●人力車は御自用並學業用種々

金庫

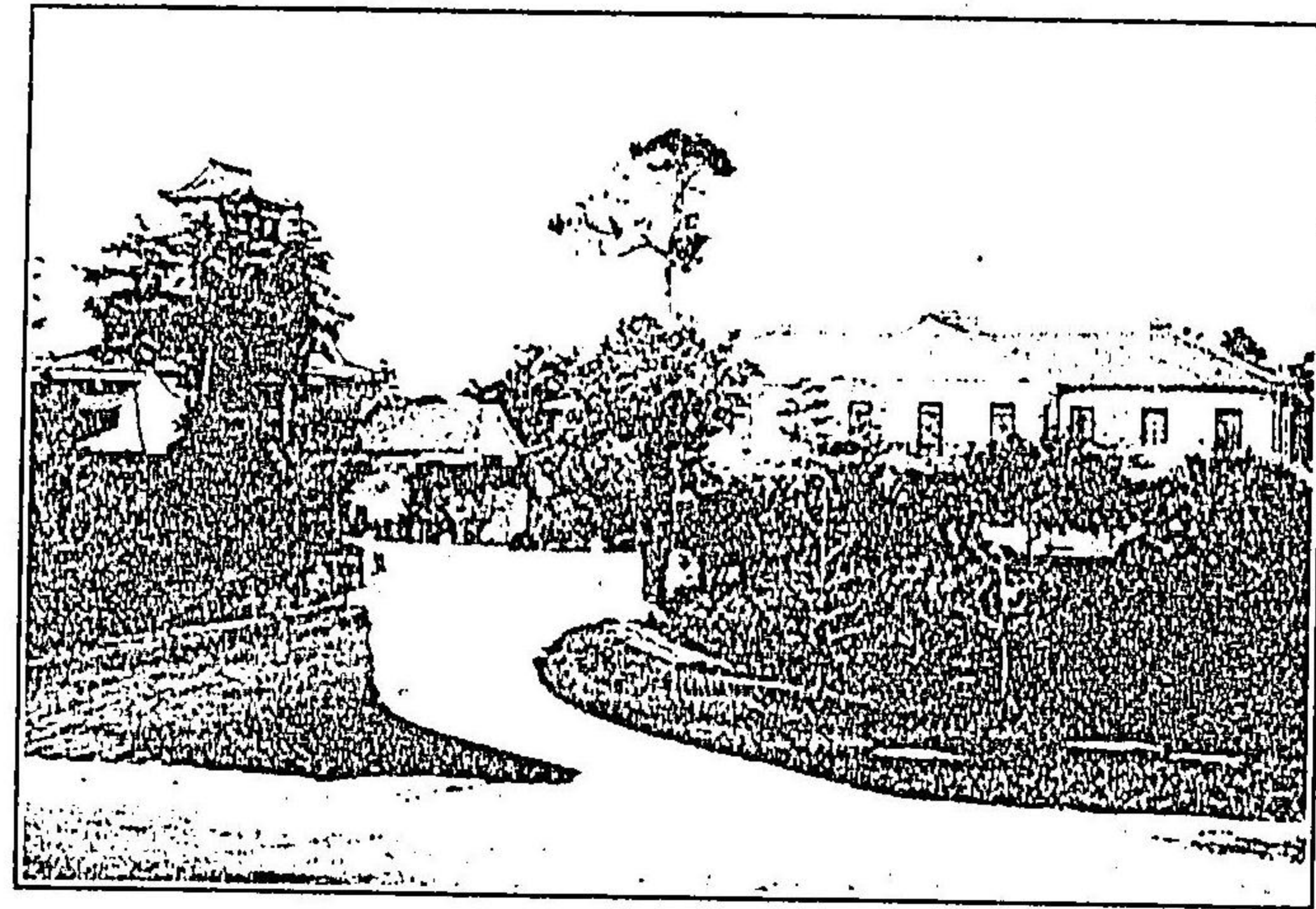
人力車

廣島市天神町

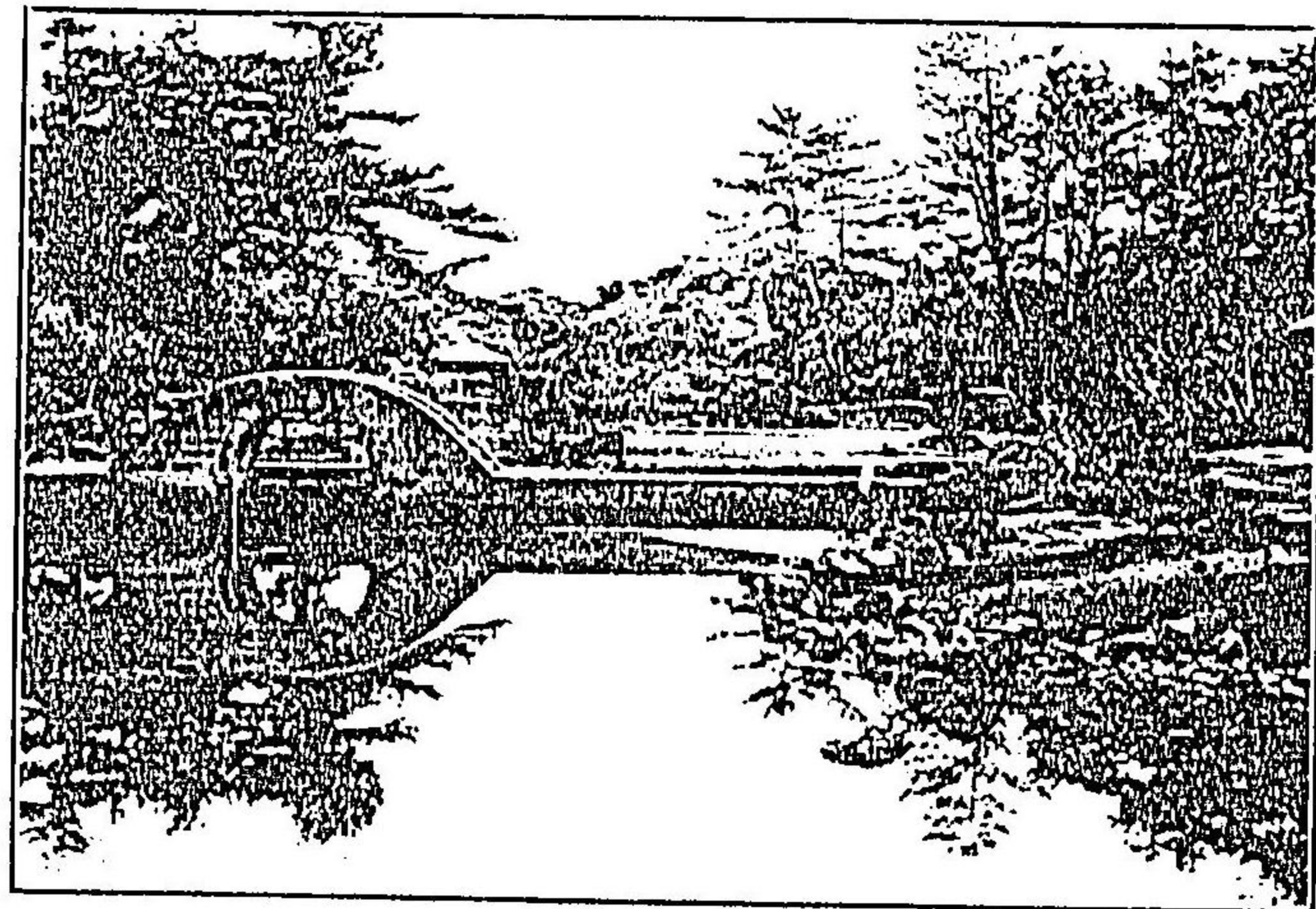
熊平商店

籐小車

●籐小供車は品物丈夫直段廉價
●貯金通葉書入等販賣
●專賣特許秘密通竹善錠



園 守 天 崇 本 大 舊



園 景 縮

小川一眞製版印刷



齒科治療

診察時間

午前八時ヨリ正午マデ
午後三時ヨリ五時マデ
一夜间ハ診察セズ

本院ハ無痛的手術ヲ望
マル、人ニハカタホリシス
及ヒ局所薬液麻醉及全
身麻醉ヲ施シテ手術ス
ヘシ

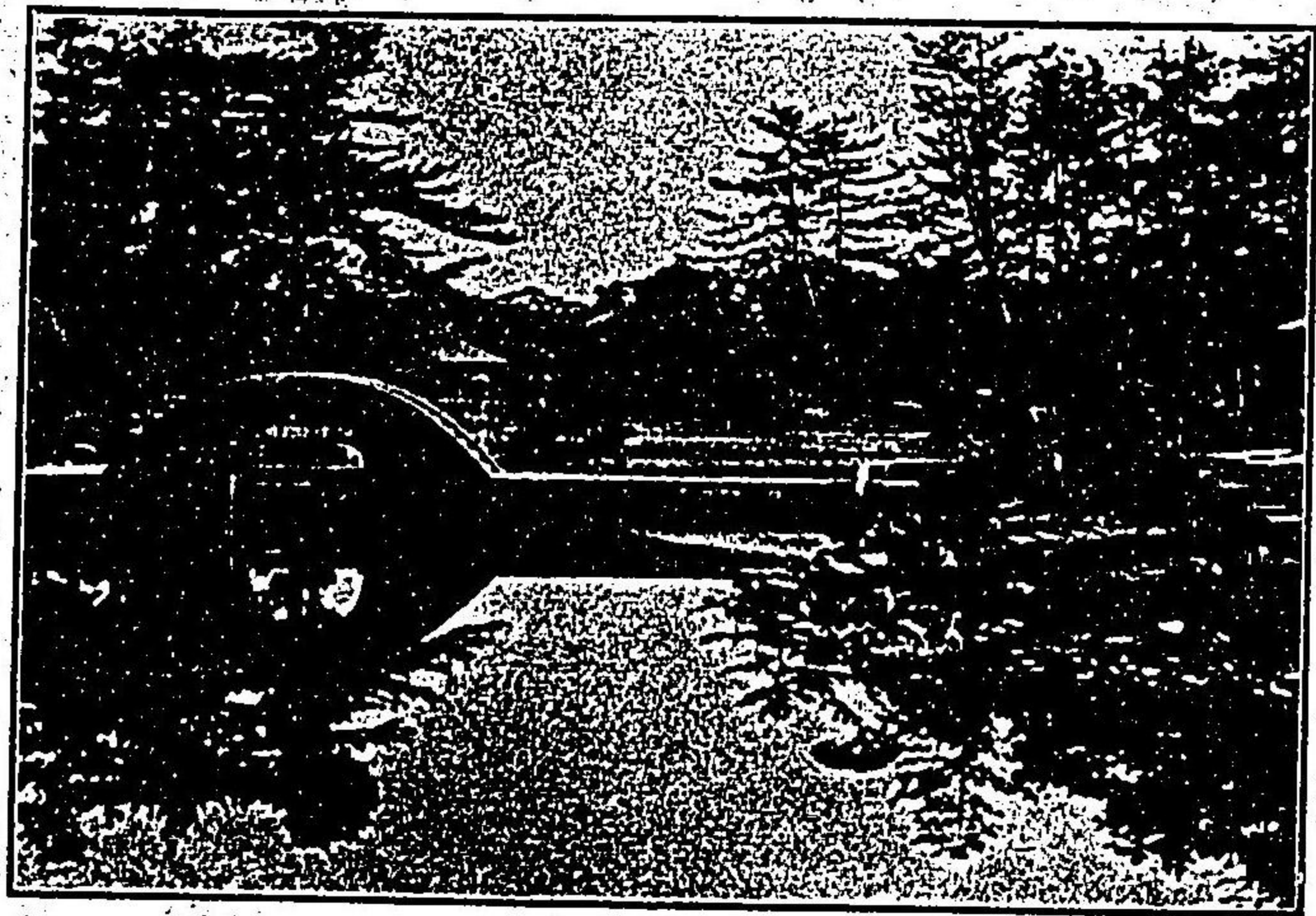
廣島市中島本町慈仙寺鼻

熊谷醫院



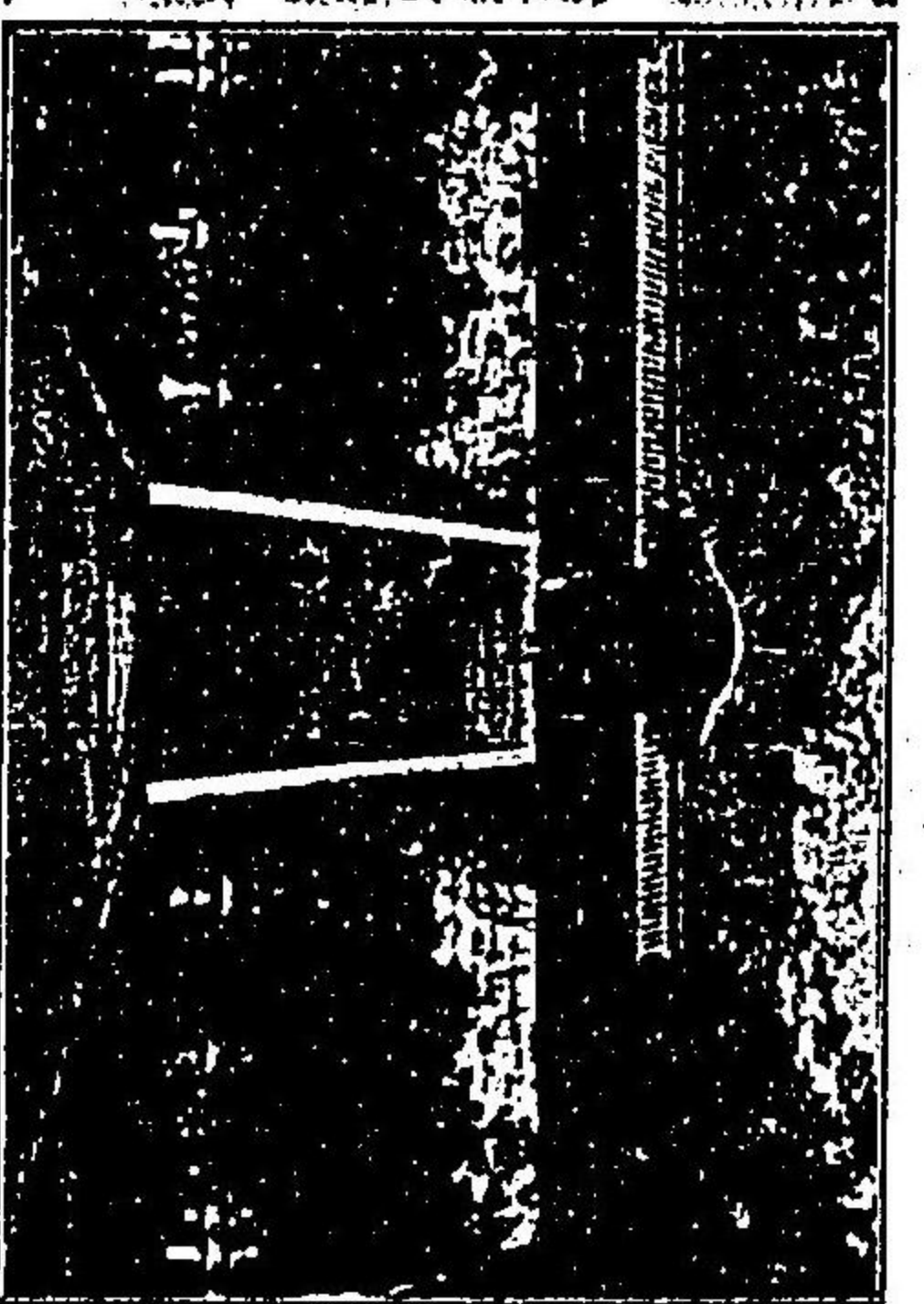


舊大本營天守閣

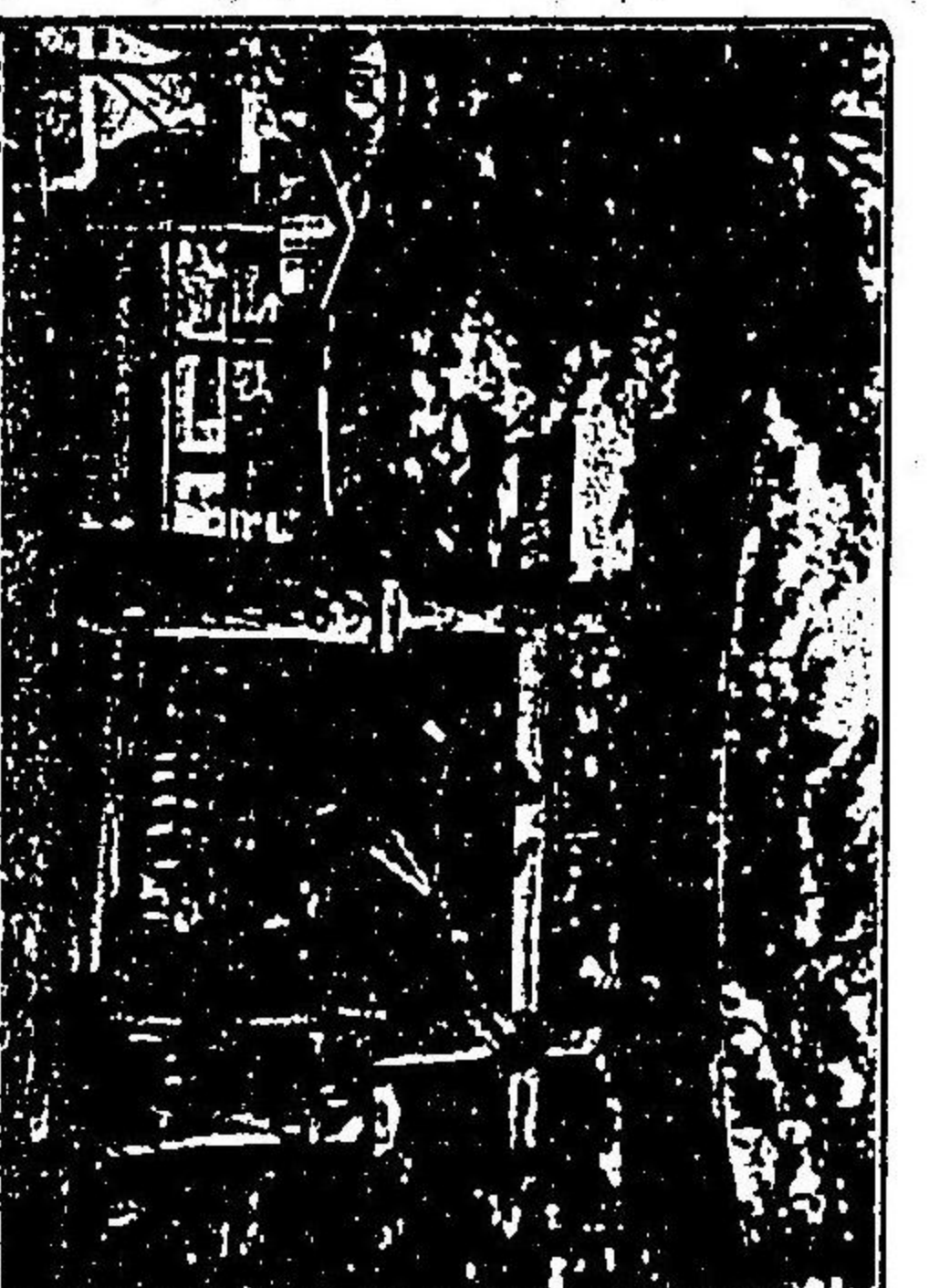


縮景園

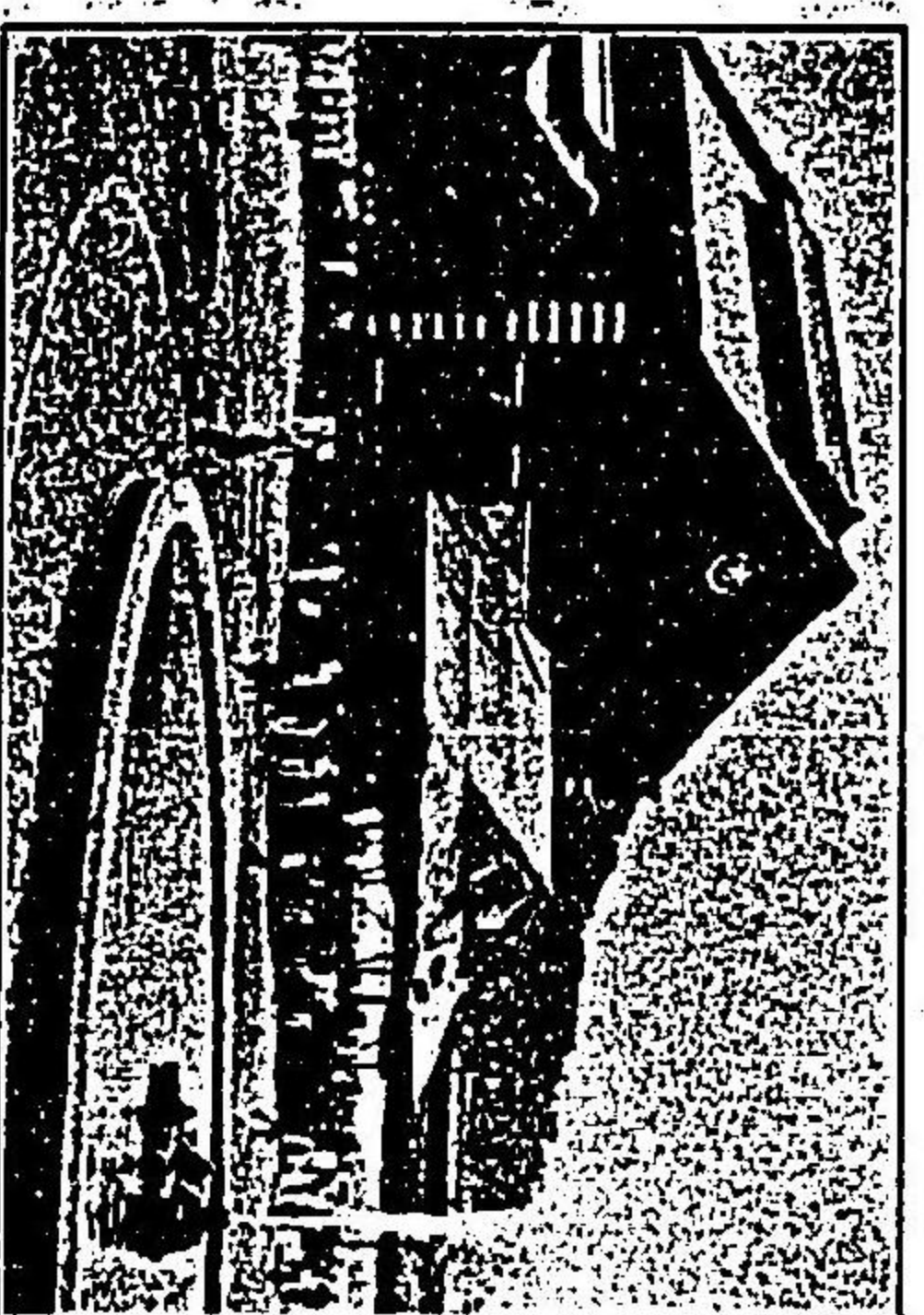
小川一眞製版印刷



宮 照 東



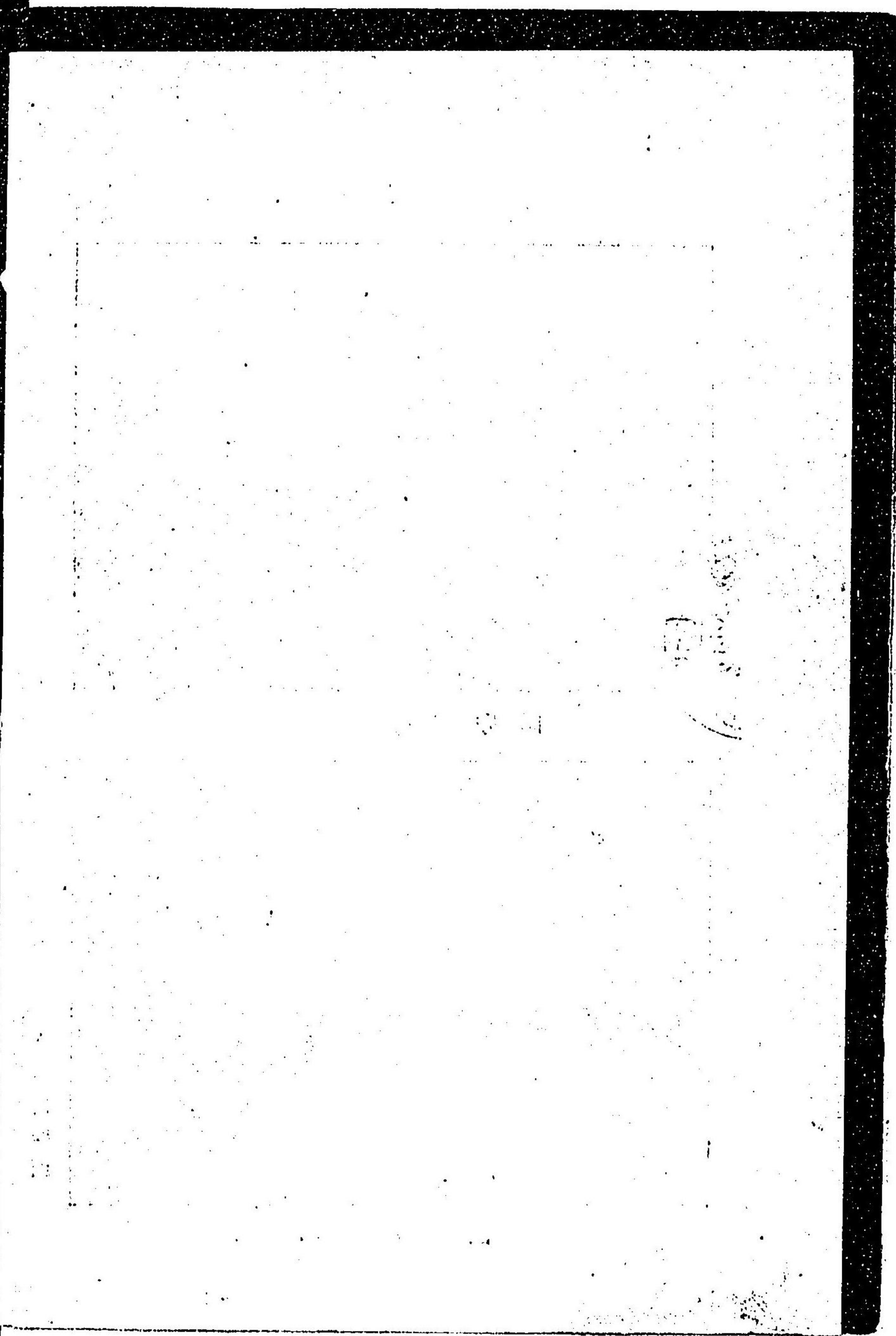
社 神 津 饒

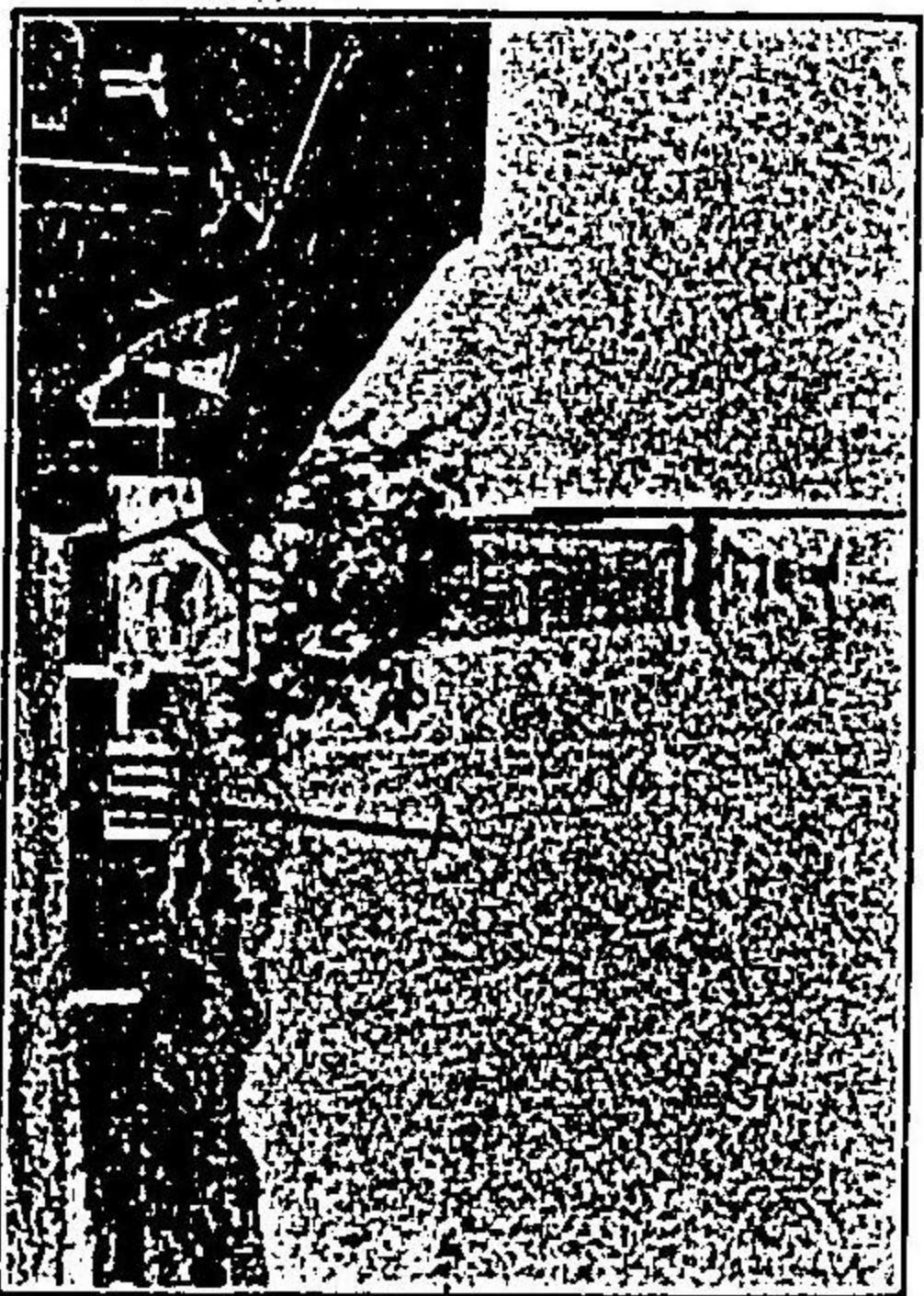


地 源 水 道 水

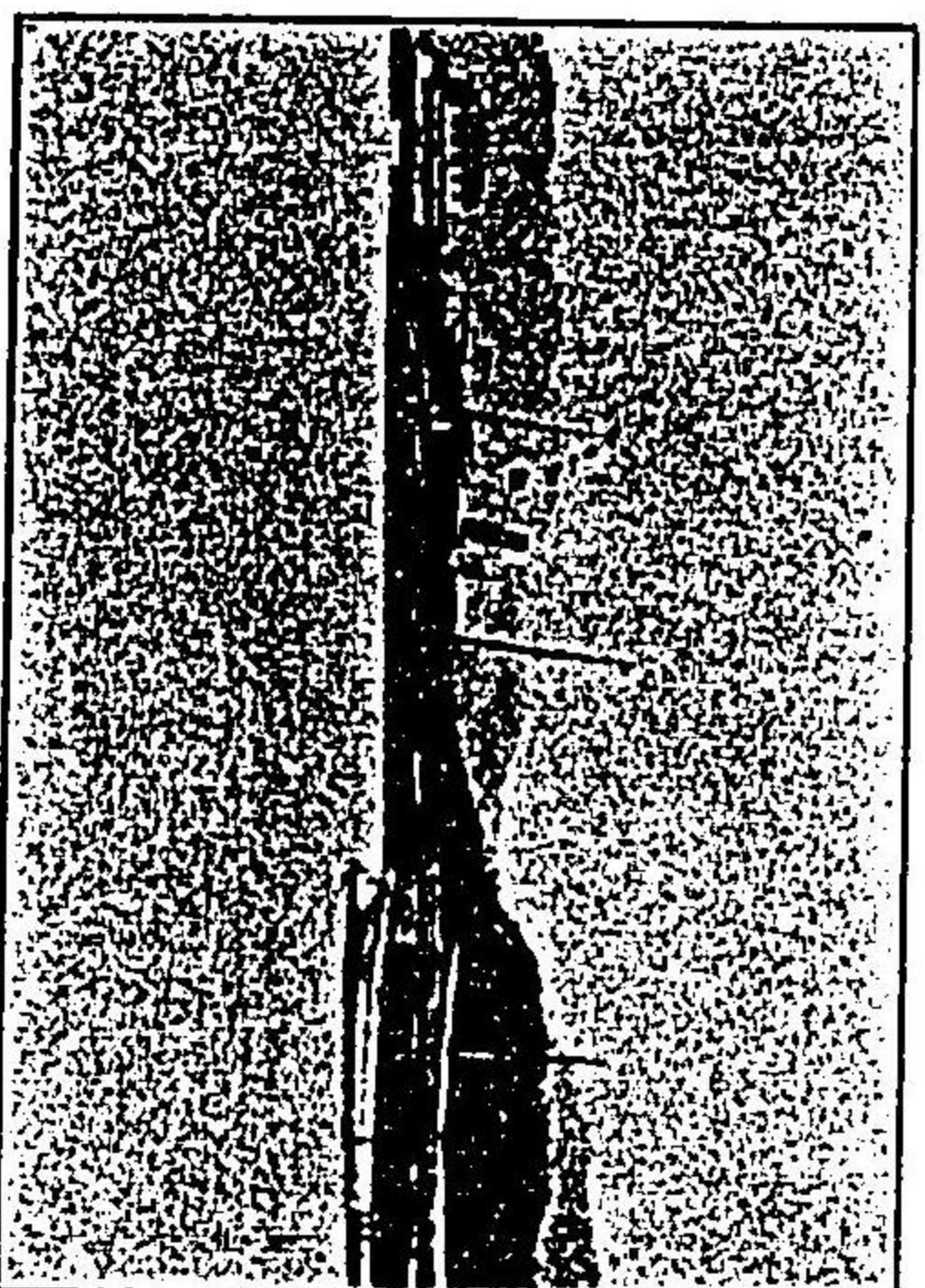


寺 護 佛





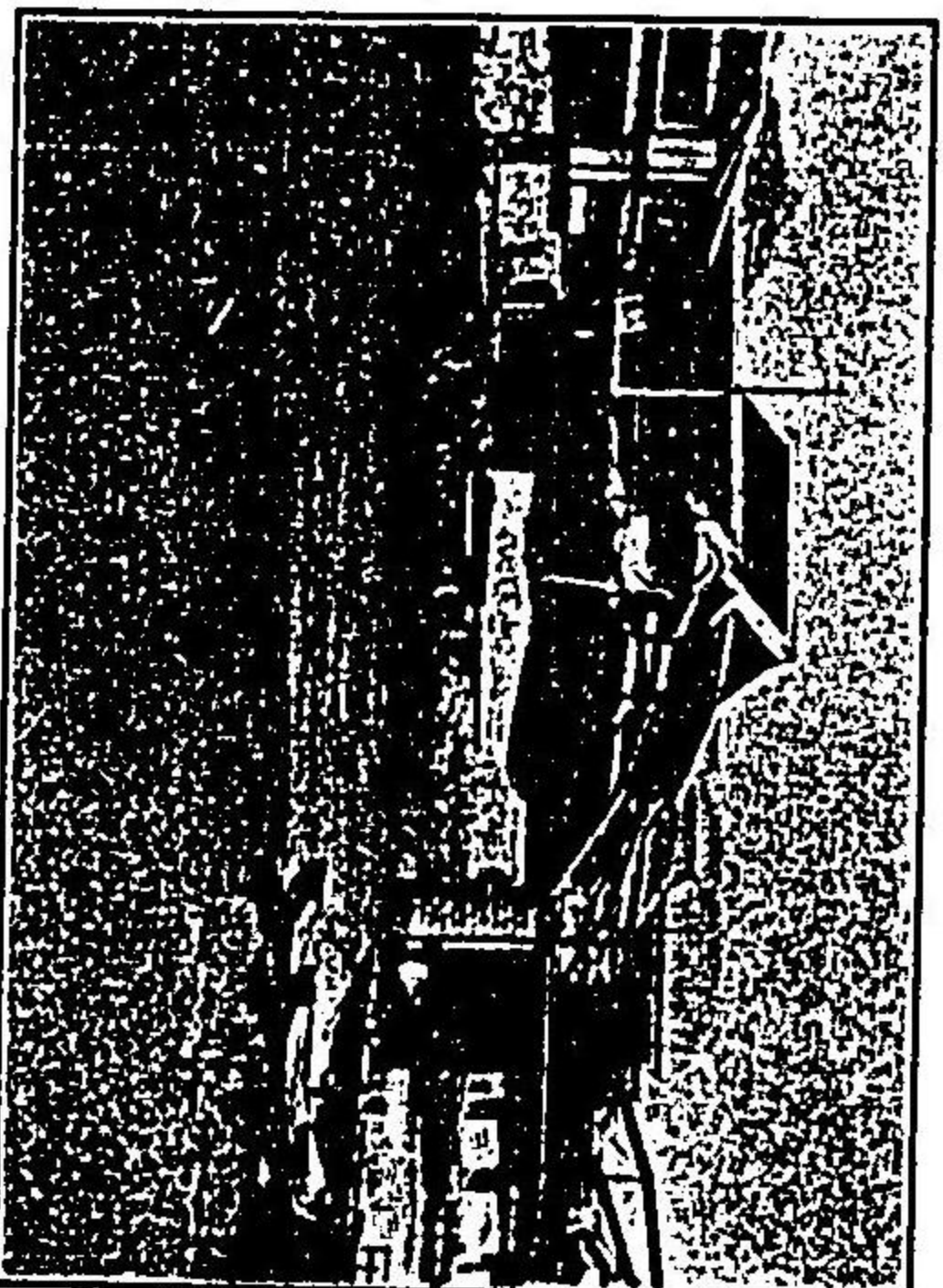
凱旋碑



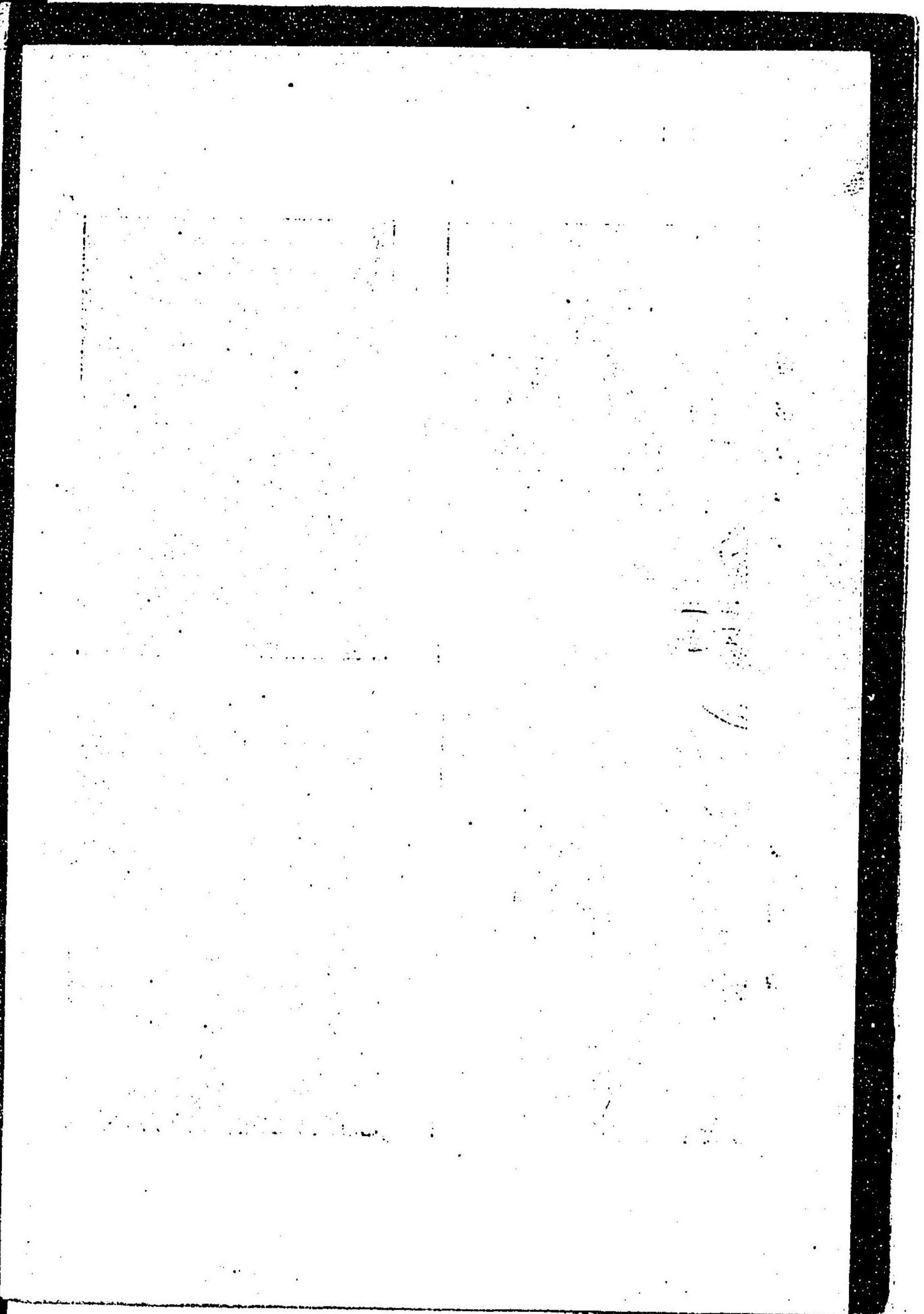
字品灣



相生橋



木川橋



廣島繁昌記附嚴島

篠水釣史著

廣島の地誌

廣島の安藝國の南、瀬戸内海の灣入せし所に當り、今縣治のある所にし
 て東は安藝郡、北は安佐郡に接し西は佐伯郡に隣す、東西一里十八町南
 北一里餘、面積一方里六分餘、人口十壹万壹千四百三十六、戸數三万一
 千四百十五を有す、土地は南方海に面し都て平坦あり而して東北西の三
 面は丘陵起伏して相聯る、太田河と名くる大河源を縣内山縣郡に發し佐
 伯安佐兩郡の諸流を合して城の北西に來り數派に分る、その牛田村より
 分れて東流するを神田川とし城西より西流するを横川とす、而して幹流
 は中島の尖頭に於て又二つに分れ其の東なるを元安川とし西なるを本川
 とす、神田川南下して更に二派とるる本流を京橋川と呼び支流を猿猴川
 と名く、横川は西南流して又天満川、川添川の二つに分る、乃ち河流の
 廣島市街を縦貫するもの都て六、而して南方には宇品の良港灣を有す

廣島の地誌

一

るあり、此を以て河岸には北方山縣、安佐等の村落より下るの船舟又は南方の津々浦々より來往する帆船常に繫留し、灣頭には阪神中國四國九州臺灣等諸方を航するの汽船來往絶えず運漕の便極めて自在なり、近年鐵道殆ど山陽の全道を横るに至りてよりは一層殷盛を増しぬ、今少しく當國の小歴史を誌さんに

古へは國府を安藝郡に置き平氏の盛あるときその管する所となり後これを取めて院の御領と爲す、承久年間甲斐の守護武田信光軍功を以て當國の守護を兼ね其の五世の孫信武、足利尊氏に従ひ再び守護職を兼領し傳べて三子氏信に及び歴世銀山(今の安佐郡山本村)に治す、永享十二年氏信の曾孫信榮若狹を加封しその弟信賢繼ぎ、文明年中その子國信若狹小濱に移り弟元綱を以て當國の守護と爲し同じく銀山に居る、既にして國內の豪族毛利、吉川、熊谷の諸氏各々一隅に割據し武田氏の威令行はれず永正の末元綱の子元繁、毛利元就と戦ひて克たす遂に戦没して領上を畧取せらる、大永三年尼子經久當國を御ふるや毛利元就、武田光和(元繁の子)

吉川興經等之に属し明年大内義興來り攻めしも元就のために破られて歸り爾來元就の軍力次第に隆盛と爲る、天文三年光和、元就と交戦し利ありらずして死し姪信實繼ぎしも郎黨皆散じしがば信實終に銀山を棄て若狹に奔り其の地悉く元就の有に歸じぬ、夫より二十年を経弘治元年元就大内義隆を弑したる陶晴賢を嚴島に誅戮して大内氏の故地を併せ、後又尼子氏と戦ひて之を滅し中國九州十箇國を領有し毛利氏の威海内に振ふ次で元龜二年に至り元就卒し嫡孫輝元封を襲ふ、其の後十數年に於て天正年間輝元吉田城を出で治を廣島に徙す、これを廣島の開基と爲す也

此の地古へは入海にして蘆荻繁茂し只見る荒涼の一洲沙たりしが、其の後漸く開け所々に人家を見るに至り鍛冶塚の庄、平塚の庄、在間の庄廣瀬の庄、箱島の庄(後白島に改む)の五箇庄とありしを輝元吉田の地の狹隘にして且山間遊地あるより新に城廓市邑を設けんもの即ちこの地に出馬の後明・星院山(今の尾長山)、新山、巳斐山(或は比治山を加之)の三ヶ所に登り土地の陰陽要害の如何を檢分し遂に城を築きたるものにて

その計畫を定めたるは實に天正十七年己丑二月にあり、而して同四月に至り家臣二宮太郎左衛門を奉行とらし築城の鉄初を爲さしめ次で文祿元年作事を起し慶長四年の頃遂に竣工を告げたりといふ、尤も當時城の外櫓は未だ建造せられざりしを後福島正則補築し城廓はじめて完備したるあり

廣島の名稱に就て傳ふらく初め築城鉄入のとき太守明星院山にあり福島大和守參上拜賀せしに輝元いふやう、當所の名五箇の庄とは城所の名と爲し難し故に改めて末代不變の名を定めんとす、依つて思ふに吾祖大江廣元の廣と汝福島の島とを取合せて「廣島」と稱すべしと、是則ち此の地名の起因ありといへり（尤も藝藩通志は此の説を取らずして只水廻れる地なる故斯く名けしものあらんと云へり、然れども廣島命名の事を記するもの多くは前の如く記せり）、是より士民子來し漸次今日の繁榮を來したる事なるが關ヶ原の役輝元西軍に屬し敗後降を乞ふや、徳川氏其の封を削り更に改めて防長三州を興へ福島正則をして藝備兩國を領有せしめ

廣島の市街

ぬ、福島氏乃ち廣島城に治し居ること二十年、元和五年に至り正則罪ありて國除せられ淺野長晟代つて封せらる、以降淺野家十二世長勤に至りて王政革新に遇ひ藩を廢して廣島縣廳を置きたるあり

廣島市街は東西南北とも殆ど距離を等うし、國道は市街を横貫して東（岩鼻に起り）より西（川添村に終る）に通じ縣道は北より來りて（安佐郡三篠村横川より市内寺町に入る）南宇品町に達す、而して又東西は一端より他の端に至るまで人家櫓を連ね、南北は陸軍所轄地中央に介在して北に白島町を限り南方田圃を隔て、宇品町斗出せり、その他江波村、觀音村は共に市街懸絶して各々南方に一聚落を爲せり、街路の區劃は一部分を除くの外不規則の箇所少からず縦横曲折迂餘交錯し甚だ紛らはし、試みに一橋上に立ちて前後を望むに道路環狀を作し數町の先見るべからず、いづれに

廣島の市街

行くも橋より橋を望見すること能はざるあり、説を爲すものは曰く是全く古昔城市を開くの際國防の要害を鑑みて斯くの如き町割を爲したるありと夫或は然らんか、而して又南北を貫きたる街路の如きは河流既に蜿蜒曲折せるが故に、市區を形成せる上に於て勢ひ亦之に準せざるべからざりしものあるべければ敢て先人の劃策を批評するの要あらざる事あるが、然れども人口甚だ増殖し交通益々複雑となり、繁華彌々加はるの今日にありては決して市區改正の必要これなしとは謂ふべからず、これ必ず早晩起るべきの問題たる事を信せずんばあらざるあり、況や輓近耕地は年と共に漸次市街宅地に編入せられつゝあるの現況を呈し、事あれば須らく市區改正の方針を樹立して這般の施設に準備するところあるを要するあり

道路は概ね平坦にして砥の如くなれど近年破損の箇所續出し随つて修すれば随つて破るゝの有様にて道に非難の聲あしとせず、元來廣島の地は高燥にして自然の句配良く且河流多きが故に極めて疏通に適し、連日の

大雨と雖も得るれば忽ち道路乾くを常としたりしが、過ぐる二十七八年戦役以降大に舊來の趣を一變し雨後數日を経るも道上漲水を存し凸凹泥濘を留むるの箇所あしとせず、土木費の支出年々多きを加ふるも猶且及び難きの状あり又以て土地繁華の反響とし見るべきあり、左れば吾人は今後道路破るゝの速度益々甚だしくして而して之を修むるの道彌々加はり、竟に完全にして容易に破るべからざるの道路や橋梁や他に誇るに足るの目速かに來らん事を冀はざるべからず、蓋道路橋梁の完否は大に土地の消長に影響し又従つて民力の盛衰を知るの尺度たればなり

茲に廣島市街を區分するに大凡全市を七部に分つ事を得べし、則ち第一を最東部とす二葉山以南、京橋川以東一帶の地にして南は皆實村字千本杭を限り東は大須新開に及ぶ、猿猴川は斜にその中央を貫流して海注ぐ此部新開田畑最も多し

尾長村、愛宕町、猿猴橋町、大須賀村、荒神町、蟹屋村、大須新開、京橋町、臺屋町、的場町、金屋町、比治山町、松川町、稻荷町、土手町、段原村、東新開、皆實村

廣島の市街

第二を東部とす京橋川以西、八丁堀筋平田屋川以東の間とし北は白島一圓を除く、地域中島部に亞きて小あり

橋本町、上柳町、下柳町、幟町、上流川町、鉄砲町、八丁堀、石見屋町、山口町、東引御堂町、銀山町、胡町、斜屋町、堀川町、下流川町、平塚町、薬研堀、田中町、三川町、竹屋町、竹屋村

第三を中央部とす平田屋川以西、元安川以東、北は白島一圓を加へたる一帶の地にして長く南北に延びたり、廣島舊城第五師團本營をはじめ陸軍所轄地これが半ばを占む、廣島市の商業はこれを地形に見るに東より西に至るに及びて漸次盛賑を呈し、この區平田屋川以西漸を追ふて繁華あり

白島東中町、同中町、同西中町、同九軒町、同北町、東白島町、西白島町、東魚屋町、立町、平田屋町、播磨屋町、研屋町、革屋町、鉄砲屋町、新川場町、中町、下中町、袋町、西魚屋町、小町、尾道町、紙屋町、塩屋町、横町、細工町、猿樂町、鳥屋町、大手町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、同七丁目、同八丁

目、同九丁目、國泰寺村

第四を中島部とす元安川以西、本川以東の間にして北は慈仙寺の鼻に起り南は吉島村新開に至る、この一帯は海と河とに限られて恰も一島地を爲せるあり、七區中土地最も狭小あり廣島縣廳この區間にあり、商業また甚だ繁賑にして廣島の中心點たり

中島本町、天神町、材木町、木挽町、元柳町、中島新町、水主町、吉島村
第五を西部とす本川以西天満川以東にして北は横川橋を界として安佐郡三篠村に接し、南は遠く江波村に及び地形恰も帯を引けるが如く最も延長せり、この區概ね商家を以て充たし繁賑とす

塚本町、界町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、猫屋町、油屋町、鍛冶屋町、左官町、空鞘町、鷹匠町、十日市町、西引御堂町、寺町、西大工町、板町、西九軒町、廣瀬村、西地方町、河原町、西新町、小網町、船入村、江波村

第六を最西部とす天満川以西にして南に觀音村の聚落あり、西川添村に

至りて己斐橋を界とし佐伯郡に接す、此區地狹からざれど人家多からずして大方は田畑あり

天満、川添村、観音村

第七を港灣部とす皆實村堤防以南の地とし南端は即ち宇品町の市街あり港灣一面の海陸を総括してこの區とささん

宇品町(海岸通一丁目乃至同五丁目北通一丁目乃至五丁目、中通一丁目乃至二丁目、御幸通一丁目乃至十七丁目、西堤防通、大河通)

廣島の繁昌

抑も廣島の地たる阪以西の樞軸にして東は京都大阪神戸と通じ、西は馬關門司さては長崎熊本と聯絡し、山陽道六いはすもがる、南海の伊豫讃岐、北境の雲石諸州、腹背相配して眞に乾興の鎖鑰を司り海陸四通にして而して入達し、運輸交通の機關は殆ど全く備らざるなきが故に、商に

あれ工にあれ將又農にあれ苟も實業上の物件は皆この樞要地を經由し以て始めて活動することを得るといふも敢て過言にあらず、實に廣島の多くの物品を吸集するの大能力を有すると共に、亦盛んに物品を吐出するの大能力を有するなり、殊に實業の點に於て爾く樞要なるのみならず國家の保衛上最も樞機に衝るの大資格を具有するの地にして之が實蹟は既往現在に徴見して明かある所あれば今更事新しく言ふの愚たるを知るのみ、されば商業家、製造家、農作家、資本家、職人、漁夫、労働者、將又軍人、官吏、公吏、教員、學者、書生あらゆる社會の組織者は多くここに集りて、日々夜々孜々屹々各自己の天職を全うせんことに唯勉むこの幾百種類の人物が有形無形すべての點に向つて土地繁昌の素因を與はずといふ事あらず、而して牙籌を運すの客、觀光を縱まにするの人、朝夕に雲の如く集り霞の如く散す、人馬絡繹の狀物貨輸湊の景その繁昌や實に田舎人を驚倒せしむるに足るべし、豈盛んならずとせんや

大凡土地繁盛の實況を文字の上に表示せんには、數字に依るの簡明なる
 を知れど憾むらくは憑るべきの統計未だ完備せるものなければ其の要領
 を得るに難きところなれど、こゝに些か集散消長土地の繁華に關係を有
 する事項を掲出して以て讀者の推考に供せんか。

◎第一土地 廣島市内の土地を類別すれば左の如くなり

宅地	三一八、八二二三	池沼	三五三二
堤防	二五、一一二二	山林	三七、七二二一
畑	二七一、八六一七	原野	三、一二二九
田	七九八、二七二〇	雜種地	六、九九〇四

而して地價は明治三十二年に於て百六万九千參圓八拾七錢四厘ありき
 ◎第二各種稅額 廣島市住民の負擔せる既往の稅金額を左に掲出す、
 但し廿二年は初めて市制を施きたるの年にして又廿六年ハ日清戰役の起
 りし前年に當り、廿九年は戰爭の罷みたりし年と知るべし

地租	廿二年 三四、七六九	營業稅	廿二年 三八、七三三	地方稅	廿二年 二、九九一	所得稅	廿二年 六、六二一
	廿六年 三〇、九四七		廿六年 三四、二三九		廿六年 一三、〇九三		廿六年 二〇、八二九
	廿九年 四五、六四二		廿九年 三三、五〇七		廿九年 七八、五一八		廿九年 二〇、八二九

◎第三職工 最近調査にかゝる(明治三十二年)市内納稅職工の數を
 取調ぶるに科目総て百八種、而してその人員五千三百七十六人あり、こ
 れを當時の人口に比例するに職工者の市住民二十分一弱に當り、尙左
 に従業者の多寡兩極端に位せる職種とその人員とを抄出すべし

大工	七四三	履物	一三七
泥工	六八七	石工	一二七
指物	五二五	疊	一二四
鍛冶	三二五	建築器具	一二七
仕立	三〇八	木匠	九七
菓子造	二二二	洋服裁縫	九三

廣島案内

廣島の繁昌

七四

傘	一七九	屋根葺	八六
染物	一七六	鍍力細工	八四
桶工	一五六	金属細工	八三
塗物	一三九	木竹細工	六四
酒造	羽毛細工	紙漉	八味噲造
灰焼	庭造	鑿形紙師	各一名
合羽	鑿形師	目利安	牛馬具
ラム子造	人骨柳	麥藁細工	各三名
鋸目立	團扇	卷葺	八船造
縫箔	木地物細工	形付	木版摺
◎第四重要輸出入品	廣島市并にその附近に於ける最近一ヶ年間の重要輸出入貨物を示さば大凡左の如くあり	神佛具	醬油造
要輸出入貨物を示さば大凡左の如くあり		農具	鬚付油
輸出品目	數	量	價
菅	一六四五〇		一三三三三八五

廣島案内

生糸	二七〇〇	二二六〇〇
白木綿	八九九二六三	二三九二七三
燐寸	五六九五三九	七七八二七
綿糸	一〇〇二二二〇	一五三六八八六
鐘詰	二一六〇一	二四三三八
海參	九九二	二六七八
摺蝦	一〇五六〇	一六四七三
乾蛎	二五六〇	三四八〇
乾貝	七二五	一四八〇
淡菜	一〇四一三	一五〇九八
煎子	二一五〇一三	二〇四九三九
銚子	三七五〇〇	七五〇〇〇
乾物	六九八四	九二一六〇
木物	六三三〇	四八六〇〇
鳥木	三三〇〇	一六四五〇
傘	三五〇〇	一六四五〇

廣島の繁昌

十五

廣島案内

輸入品目	輸入の数量	価格
合計	二七六〇、〇四一	
砂糖	九五五四三・一六	七九五、〇六三
洋反物	二八五〇	三四五、八四〇
石油	八一九五〇	二九〇、九二二
洋小間物	二三〇〇	五五九、九四四
自轉車	五〇〇〇	一〇四、七七六
米穀	二六五七五九	五四二、五六一
洋傘	一六五七五九	二五、一三〇
洋種	二〇八六〇七	一二五、〇七三
外國藥	一三三三五五	二五六、〇〇〇
諸器械	一三三三五五	五五、七四〇
肥料	一三三三五五	二九、一〇六
煙草	一三三三五五	一三、六四〇

廣島案内

製革類	一、二五〇
糸類	八、〇〇〇
金類	四六三、〇二三
酒類	五五七
炸蠶糸	二七、三七五
燐寸原料	六七、六七一
釣筋	八七、七五〇
合計	五五六二二、二六四

◎第五旅客貨物の集散
 旅客井に貨物とも細密なる統計を得ること能はされど、汽車汽船の乗降客井市内宿泊人員及び本市附近の山陽鐵道四驛に於ける荷物の積卸を掲げ以て荷谷集散の一斑を窺ふの材料と爲さんとす

旅客	乗客
宇品港上陸人員	一三七、五九二
同 乗船人員	一三八、八六一
山鐵四驛乘車人員	四九三、九六〇
別ニ外國人	四一八
別ニ外國人	五三八

廣島の市街

廣島の繁昌

十八

内 廣島驛	二四九、三七三	宇品驛	六五、七〇二
内 横川驛	五二、八六二	已斐驛	二六、〇二四
同 上降車人員	五〇九、二一〇		
内 廣島驛	二七二、四六五	宇品驛	四七、五一〇
内 横川驛	五五、二七五	已斐驛	一三三、四八五
貨物 (山鐵四驛)			
發 送	三三、三九七噸		
到 着	一八、二八六	宇品驛	一、四〇三
内 廣島驛	八、七七一	已斐驛	四、三〇〇
内 横川驛	四一、二四一噸		
市内宿泊人員	一八八、四四四	宇品驛	二、八四六
		已斐驛	四、八三九

第六船舶出入數

廿九年 軍用汽船	入 泊	六、八六七	出 航	六、七二五
三十年 軍用汽船	入 泊	七、〇六五	出 航	六、九九五
宇品港に於ける最近四年間の汽船出入數を擧れば				
入 泊	七、一八五	出 航	六、一八八	

にして又更に昨三十二年間軍艦艇并に和船の出入を擧ぐれば左の如し
 帝國軍艦及水雷艇 五八(出入) 外國同上 三(出入)
 和船 入港 一四、五八六 出港 一三、四七二

◎第七重要銀行の預金并貸出金 當市にある同盟銀行即ち住友、三井、廣嶋、六十六及び廣嶋商業の各銀行が最近預りたる金高并に貸出せる金高を表示せんに、三十二年四月以降三十三年四月に至るの間を三期に分てる各期の現在総金高左の如し

卅二年四月	預 金	一、五六〇、三五〇	貸 出	一、九八七、九八二
卅二年十月	預 金	三、一八九、七六五	貸 出	二、一八二、六四〇
卅三年四月	預 金	三、一四〇、五七四	貸 出	

廣島案内

尙右預金は定期、當座、小口、別段の四種類にして又貸出は貸付金、當座貸越、割引手形、荷爲替手形の四種類を合算せしものなり
 又廣嶋貯蓄銀行明治三十二年上下半季勘定に於ける預金現在高を取調ぶるに左の如くあり

三十二年上半期勘定現在	
貯蓄預金	一九五、九四三
定期預金	一〇、六〇五
別段預金	七八一
計	二七六、八七七
三十二年下半期勘定現在	
貯蓄預金	二〇〇、二二七
定期預金	一七、六五四
別段預金	一一、二五三
計	二二九、一三四
當座預金	一一、五九三
日歩預金	七三、四五五
計	三〇四、〇五六

◎第八郵便電信 通信機關連轉の如何は以てその土地の状況を窺ふに足るが故に廣嶋郵便電信局に於ける取扱件數最近の調査を掲げんに左

廣島案内

の如し、但し明治三十一年四月より三十二年三月に至る一ケ年間あり

郵便物	取集數	六〇一七、一六七
	配達數	四二二五、八〇五
小包郵便	引受數	四三、四八一
	配達數	四〇、八八二
電報	發信數	一二四、九九八
	着信數	一三三、二一八
貯金	新規預入口數	七、四五六
	拂戻口數	三、一五三
	振出口數	三二、八八四
	拂渡口數	五九、七二五
	預金	三二、四七六
	戻金	六六、九七四
	金額	一八九、五六八
	金額	五二〇、四八八

◎第九藝娼妓料理屋宿屋數 藝娼妓又ハ料理屋宿屋等の社會に消長あるまた土地の盛衰と關係をくんばならず、依つて左に本市に自治制を施行せし以來十一年間の營業者數を現はし比較を爲すべし

年度	宿屋	料理屋	藝妓	娼妓
二十二年	二五四	一七五	一一五	一〇
二十三年	二四九	一六四	一一〇	一五
二十四年	二五三	一四八	一一六	一四
二十五年	二八二	二四六	一〇四	六三
二十六年	三一九	二六三	一一三	一五五
二十七年	三六九	二二八	一四九	三三
二十八年	四六九	三二三	一六六	七六
二十九年	三五五	二三五	二〇九	六一五
三十年	三五八	二六三	一五五	六一四
三十一年	三五四	二三〇	一四八	五六九
三十二年	三三六	二二六	一四五	四九一

交通機関

二十三

交通機関

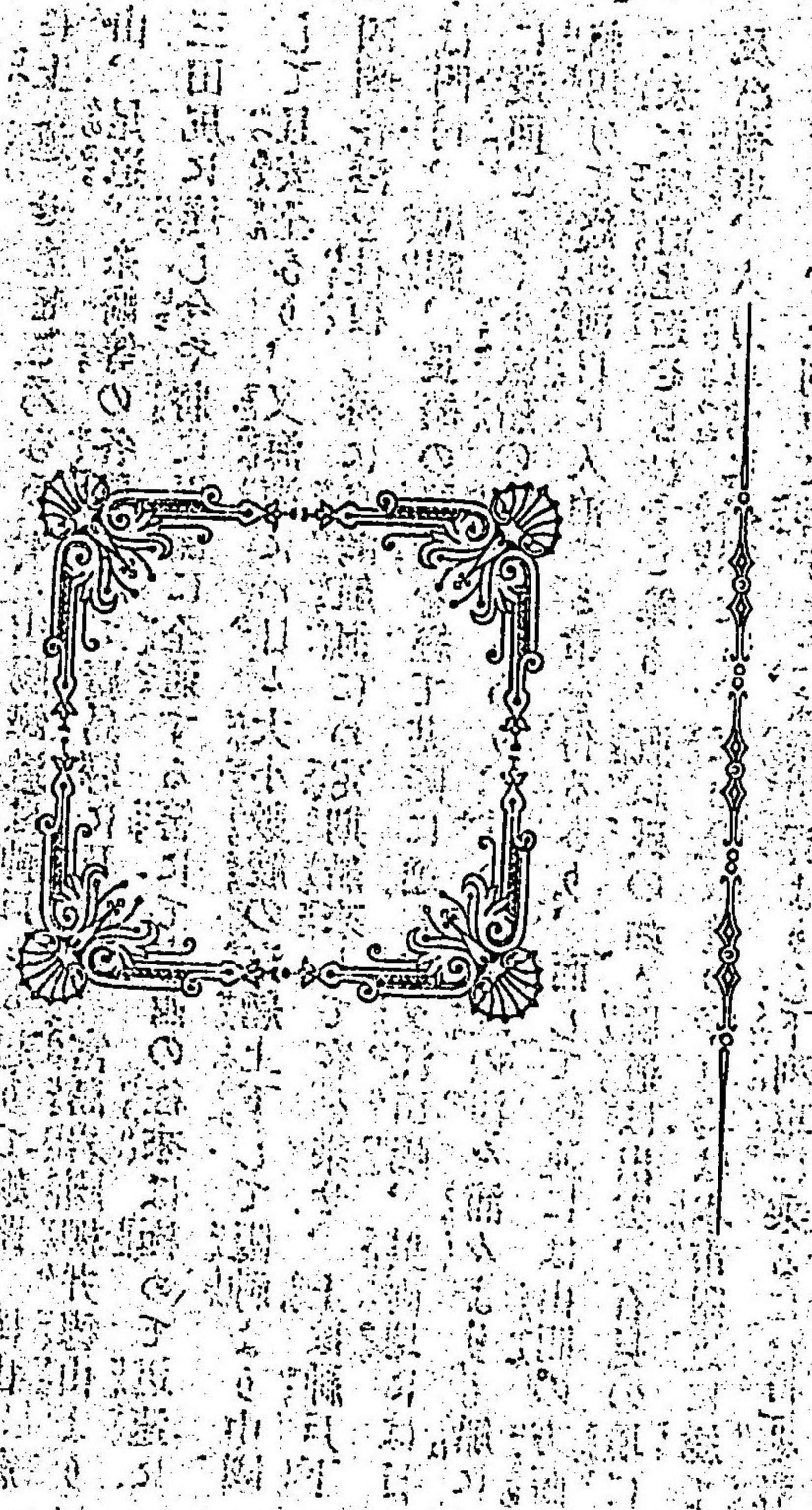
廣島地方の道路平坦、河海疏通して古へより交通の自由を有する趣は既

七上 述せしところあるが、山陽鐵道は神戸より起りて姫路、岡山、福山、尾道、糸崎等の各驛を経て廣島驛に及び西宮、岩國、柳井、徳山より三田尻に達し今や將に馬關に全通する筈にて東西の往來は極めて迅速にして且安全あり、又海漕にのりて大小數艘の汽船上下して阪神より中國四國各港を往復し殊に臺灣航海にのりて定期船來りて客を乗せ、上は神戸下は門司、馬關、長崎の諸港を経て基隆に達し、又江田嶋、吳兩地には日に幾回となく小汽船の往來するあり、其の他遠近の津々浦々よりも船に帆揚げて悠然河口に入泊する事を得るあり、而して陸運には山間の方面に未だ鐵道建造せられずと雖も、概ね砥の如き縣道は出雲、石見の境に及び荷車、人力車常に絡繹たり、又山陽鐵道の停車場は本市附近に総て四ヶ所あり、上列車に搭するには廣嶋驛よりし下列車に乗るには已斐驛よりす、横川驛の概ね郡部よりの乗場たり、又宇品驛は廣嶋驛よりの支線にして海陸の聯絡を通せるあり、廣嶋、吳間の鐵道は山鐵海田驛より分岐して吳庄山田に達する筈にて既に豫算も成立したれば昔年の中には

交通機関

二十三

これも完成する事を得べく、今後猶進んで雲石の方向に鐵軌通するに至りなば、日本海沿岸の貨物大にこの地に吸集せられ、倍々關西の商業界に覇權を握るに至るべきなり。



廣島名所

こゝに廣島名所を掲ぐるに當りては市區の形勢と街衢の順路とに従ひ列記すべし而して其の郡部に属するものは市の近き所の部に加へたり。され行旅の案内に便せんがために外らざるあり。

最東部

〔京橋川以東、北は二葉山を限り南は皆賀村の千本抗堤防迄の間をこゝに収む。〕

◎廣島停車場

山陽鐵道の廣島停車場は大須賀村の南端に位す構内の

廣さ概ね一万六千三百五十九坪にして大凡旅客荷物の廣島に集散するもの此驛を以て第一と爲す、山陽鐵道會社運輸事務所、建築事務所、保線事務所、西部保存事務所並に倉庫社宅等皆この附近にあり、當驛は去る明治廿七年六月を以て開場せしものあり。

◎東松原

停車場構内を出づれば老幹翁鬱として空を蔽へる松原あり一名いろは松と稱す、今を去ること三百年の昔慶長の頃植ゑ

しものにて其數四十八株この名ある所以なりと、寛政八年辰の洪水に大方流れ失せ又嘉永三年戌の大洪水にも害せられたれば其の當時植付けあり

廣島名所

り、維新後に至り再び老枯して敷を減じたるを近年植増してその敷に充てたり、この所を下馬と稱す蓋東照宮鎮祭以來大凡侯伯士臣の國道を往來するもの此所に來らば皆馬を下るの例ありたればあり、停車場構内よりこの邊り軒を連ねて旅人宿運送店又は飲食店等あり、松原南に盡くれば街道は東西に通じ右に河流ありこれを猿猴川と云す橋あり

○猿猴橋 云ふ長さ三十五間幅四間別に上手に架せるは水道の鉄管あり、夏時は松原の裾川岸に沿ふて納涼場を設く橋上の觀望頗る佳し河は蜿蜒して南に流れ仁保島山の麓に至りて海に注ぐその邊り風光に富めり

○京橋分署 猿猴橋の西詰にあり、これより西を京橋町とす商家櫛比せり

○京橋 河を京橋川とす上流の神田川にして橋の長さ三十五間五尺幅三間五尺あり木橋にして鉄欄を設ぐることを猿猴橋と同じ、又この下流に柳橋あり土手町より下柳町に渡る、鶴見橋の又その下にある比治山より

竹屋新開に通ずるあり

○三原專賣支局廣島出張所 は的場町にあり構内の廣さ約四千四百二十九坪にして事務所一棟、収授場一棟、巡視詰所一棟、倉庫三棟あり葉煙草昨卅二年間の收支を聞くに概ね収納高五千九百三十八貫にして拂渡高二万五千九百三十三貫あり之が價額の平均一貫収納五拾錢拂渡七拾錢ありしと

○段原尋常小學校 段原村字桐の木にあり構内の廣さ千二百一十一坪餘を有す

○比治山神社 比治山の西北麓に鎮座す大國主神、少名毘古名神、建速須佐男神を祭り地方の産土神たり毎歲陰曆九月廿九日例祭を行ふ、當社の元黄幡大明神と稱して山の東南谷間にありしを正保三年丙戌三月今の地に遷し降つて明治二年神佛混淆を分ち今の社名に改めたるあり、本殿二間三尺に二間、幣殿五間三尺に三間、拜殿五間三尺に三間其他社務所御供所等あり境内地四百五十七坪あり

廣島案内

◎比治山 京橋川の下流東岸に枕せる山を比治山といふ東西に狭く南北に長くして周閉凡そ壹里山低くけれども深く濕潤にして樹木繁茂せり、山勢恰も虎の伏せるが如くあるより臥虎山の号あり、山の西麓は京橋の流れに沿ひて道路南北を縦貫すこれを宇品道と名す維新の前までの此山に鶴(俗に袖黒と呼ぶ)の棲みて松間に翺翔せるを見たりと、山下に鶴小屋と稱せし地あり又橋を鶴見橋と命じたるは蓋これが爲なり

◎陸軍墓地 比治山頂上の南端にあり疆域平坦にして開豁、南は万頃の田圃を隔て、廣島灣を望むべく宇品港の船舶出入の狀江波沖の釣魚採貝の態歴然として指呼の間のみ、西北の屋瓦鱗次白聖を連ぬるの間に廣島城を望み又遠く茶臼、観音、嚴島の諸山皆一眸にあり、粟畔櫻樹多く艶陽の候最も賞すべし、墓は大小列を正して幾千あるを知らず就中仰視すべきもの明治廿七八年戦役の際戦死病没せしもの、追悼碑たり、人一たび此域に詣る凜乎として國家干城の誠忠に感激せざるはあらざるべし◎共葬墓地 陸軍墓地の下半腹にあり是亦地域清閑にして足跡到ら

廣島案内

ば神澄み氣清く座るに神々しさを感せずんばあらず

◎廣島縣師範學校 比治山の南麓皆實村にあり、師範學校令改正に就て擴張を要するため前年來こゝに新に校舍を建築せるものにて構内総て一万一千五百九十五坪男女女子部を合して教場二棟、寄宿舎六棟あり、生徒定員五百三十七名(内女子九十三名)にして其の他の設備皆これに準ず、昨今猶工事中にて未だその一部を落成せず之が総經費額は拾參万九千八百四拾餘圓を要すといふ

◎吳要塞砲兵聯隊 師範學校に接して東に同隊の營所あり明治三十二年十二月建築落成を告ぐ

◎凱旋碑 比治山の南敷町にして大手街道と合するの所征清軍凱旋の碑あり、礎石より頂上に至るまで高さ四十尺餘上に金鶏あり元の第五師團管内八箇國(出雲石見伯耆備中備後安藝周防長門)有志の建設にかゝり明治廿九年竣工式を挙げたり

◎多聞院 比治山の西麓にあり眞言宗にして本尊毘沙門天王は後白河

法皇の御作さりと傳へ由緒甚だ深しといふ、治承四年高倉天皇殿、島行幸の砌り勅して建立せしめ給ひしものにて初め當國安藝郡龜尾の浦幡見の郷に建立せしを其の後天文年中毛利元就高田郡吉田の庄に遷轉し次で輝元天正十八年を以て更に沼田郡新庄村三瀧の麓に移したりしが後又福島正則この地に轉せしめたるなりと、當山には往古より後白河法皇高倉天皇及び毛利福島家等の位碑を建營して香華を供養し今に及びて回向怠らずとあり

◎頼春水の墓 多聞院前を登りて元安養院境内に藝藩の鴻儒頼氏の墓地あり、春水、杏坪、聿菴並に梅隠夫人(春水の室)等の石碑あり就中春水の碑文は古賀樸の撰にしてその銘左の如し
華國以文 罕殺其實 養正展效 有澤洋溢 循規踏矩 妙及詞華 衆言靡爽 稱贊難匹 舉大畧細 視我銘述

◎清水井 比治山の北端明泉寺境内に清水井あり水芳冽にして清く井水として廣島第一と稱す

◎廣島水力電氣株式會社 段原村字東新開にあり貳拾五万圓の資本にして水力を應用して電力電燈の需用に應ずるを業とす

◎中國紡績株式會社 蟹屋村にあり六拾万圓の資本にて綿絲紡績の製造販賣を爲せり

◎荒神町尋常小學校 猿猴橋の東通りを南に入りし所にあり構内の廣さ九百五十七坪あり

◎愛宕神社 國道筋愛宕町にあり昔この邊を松原町といひしが延寶天和頃とかや出火屢々あるより京都の愛宕大明神を勧請して鎮座し同時に町名を改む時に正徳元年なりしと

◎荒神堂 は猿猴川の東蟹屋新開の中央にあり延享二年鎮火神として建てたるなりと、境内狹隘なれど喬樹を以て圍み一郭を爲せり又境内に眞言宗安養院あり元比治山にありしを近年こゝに移遷せしものなり

◎三本松 は尾長村の内國道筋の南側にあり豊太閤歸陣の途次多くを種ゑて並木松なりしもの三本残りたりと云ふ、昔時藩主參勤交代の度毎

諸士こゝに送迎せし山にて一説には國の旗印三つ引るるに因みて三本を存せしなりと、近傍に橋あり俄羅々々橋と稱ふ

◎二葉公園 此區の北端に位す地の大須賀村に属し後に二葉山の翠を

負ひ前に神田川の清流あり、古松老檜參差として天空を鎖し鮮苔青芝座

すべく踞すべし、樹間に茶亭多く酒茶を濁ぐ梅あり櫻あり萩あり又藤の

棚影しく春夏秋冬游觀に適せざるこなきし、園内に藝陽の碩儒坂井虎

山、木原桑宅の碑並に日清役死没檢疫吏の碑あり、山陽鐵道の線路の廣

島驛より西して公園の南端を貫通す、又園西に一橋を架し東白島町に通

ず常盤橋こねり長さ九十間御幸橋に亞きての長橋たり

◎饒津神社 二葉山の麓に鎮座し廣島城より望むに恰も長位に方ること

いふ、祭神の舊藝州藩主淺野家の太祖從五位下侍從彈正少弼淺野長政の

靈にして又相殿に長政の室末津姫を祭る、當社は淺野家十一世從四位上

左近衛權少將兼安藝守齋藤祖胤追孝のため造營せしものにて天保五年工

を起し翌年成るを告ぐ結構宏麗頗る壯美を極めり、敷地総て六千六百六

十一坪正面に本殿幣殿拜殿あり神輿舎、木馬舎、寶庫、神饌所、社務所

等皆備のらざるよし明治五年十二月縣社に列せらる、寶物の中朝鮮の役

幸長の分捕せし陣太鼓一面、馬具三箇、砲器一挺、火繩銃三挺並に陣中

用のたりと云へる自然石の手水鉢あり大さ臥牛の如し、神社の下へ即ち

公園にして喬木亭々たるの下幾百の石燈籠兩側に並立す

◎廣島招碑社 饒津神社の左傍にあり戊辰の役藩下勤王戦死者の英靈

を祭祀す、毎歲十一月六日祭典を擧ぐ

◎太宰原天満宮 二葉山公園内東寄りの小祠あり往昔菅原道真筑紫左

遷のとき船をこゝに寄せ岸邊に憩ひて手づから梅實を栽るしことあり、

後大樹となりて薄紅八重の花を開き實を結びけるを里人採りて搗潰さる

すに皆腐蝕して食ふべからず又兒童拾ひて食へば忽ち腹痛しけるより後

には拾ふものなき然れども一も實生へせざりしと云ふ、後世此梅古木と

なり花も稀にありたるが文化十一年の春少しく花開きて十二の實を結び

たれば試みに採りて植置きしに悉く發芽して枝葉繁茂せり然るに二三年

の後秋風に吹倒されて只一本のみ残りたるものは是則ち今社殿の後にある梅樹なりと云へり、而して此邊りを太宰原と云ふの菅公太宰府に鎮まり玉ひしに因みて名けたるものにて又太宰道の稱あり、梅樹の傍に方二尺高さ一尺ばかりの石あり道眞の憩ひしものなりとて何時の頃にか此上に祠を造立し宮を勸請したるなりと傳ふ、尙古梅の薄紅なりしも今の新木の花白くして他と異なる、蕾の内に實の形あり満開に至りて花の心に實を結ぶと云ふ

◎向陽山 二葉山の一部眺望最も富める所を向陽山と名く山高からざれど三面眼を遮るる者く豁然として市郊悉く目睫にあり、遠近眸を放に廓外田圃の外海水の潮の如く島嶼陸地の間に響環し右に嚴島の青巒を臨しその左に箕を倒まにせるが如き一山ありこれ似島にして又安藝小富士の稱あり南は比治山森鬱として前方を掩へるも宇品島の樹色山外に漏れ出入船舶の飛々たる漁舟の點々たる其他雲水漂渺の間遠山望むべし山下の鉄道瀛車大蜈蚣の走るが如く又背後に神田の清流淙然として金

波映じ西の第五師團の兵營蒼瓦白壁を連ね緑樹の間天守閣の秀づるを見る、又山上の第舎を大觀樓といふ一に八橋樓の名あり皆觀望に取れるなりこの邊り梅樹多し

◎廣島縣職工學校 また園傍にあり此地元關西府縣聯合共進會の跡に興業見本館のありしところにて明治三十年八月本校を設立し同年十月一日を以て開校せしものなり構内の廣さ千六百三十三坪とす

◎明星院 今の向陽山下に當り大伽藍ありて山の高月といふ寺を大日といふ而して院を明星といふ蓋三光に象りしものにて高野山金剛寺に屬し安藝國中密宗第一の練若なりと云ふ、廣島鎮守白神社の別當を務め又國守の壽福を祈りしが維新後解崩して今は僅に一小宇を存するのみ園西橋下の河原を明星院河原と稱ふ

◎鶴羽根神社 公園の東にあり後に山を負ひ前に池沼を有して石橋ここに通ず、息長帶日賣命、帶仲津日子命、品陀和氣命を祭る一に八幡社の稱あり今の村社たり、源三位頼政の室菖蒲の前當國賀茂郡に於て没し

たるの後その遺命に基き元久年間創建せしものにて椎木八幡宮と稱したりしものなりと(舊社地はこゝにあらず)境内に朝櫻神社(大國主命、保食神、事代主命、高良神を祭る)愛宕神社(迦具土神を祭る)あり又四間に三尺の能舞臺あり、神木と稱する松樹の枝梢榮えて恰も蛛網の如し、櫻樹殊に多く又池畔に菖蒲生茂り花時甚だ賞観すべし

◎忠魂祠堂 鶴羽根神社の東手にあり廿七八年戦役戦死病没者の英靈を吊慰せるものにて浄土宗僧俗の建設にかゝる所たり

◎東照宮 鶴羽根神社の東敷町にして尾長山の半腹に位す燈道南より通じ登ること五十二級唐門の内本殿拜殿深く鎮す徳川家康の靈を祀れるあり、當社の正保四年從四位下左近衛權少將兼安藝守淺野光晟(淺野家四世)の建營せしものにて同年十一月江戸上野青龍院より勸請し慶安元年七月を以て鎮座したるなりと、境内に清泉湧出す敷地の一千五百九十四坪にして又建物之昔時は結構巧麗精緻頗る奥輪の美を極めたりしも今の唯その餘影を存するのみ、此地最も清閑にして亦賞遊に適す宮の下に藤の

棚ありこの所に又助茶屋といふが有りたるなり

◎尾長大神社 東照宮の境内と接続して西手に當る天照皇大神、大己貴命の二柱を祭る、山緒沿革詳あらざるも初め當社のある所に杉の大木あり幹老蝕して空洞とあり常に黒蛇の出入するを見る時人之を尾長と稱し以て異靈と爲す遂に社を號したりしが曾て平相國隱渡の瀬戸を開鑿するに當りこの異靈に感じて土功全きを得たりとて殿宇を再建し自ら尾長大神の扁額を掲げたりと傳ふ、貞享中滋野井三位中將教廣當國に下り當山の古事を聞きて一首を咏みける歌に

世にあふく黒髮山の峰よりや
みびく尾長の霞るるらむ

參詣道の傍に藩の砲術家奥椽山の石牌あり

◎旌忠碑 東照宮の東傍練兵場に面して旌忠の碑あり西南の役殉難せし廣島鎮臺兵の偉功を表頌せしものにて明治十一年の建設なり文は陸軍中將三浦梧樓の撰にかゝる左にこれを抄録す

明治天皇既繼統、廢藩置縣、革六百餘年之弊、復神聖天授之舊、天始歸于一、而不逞之徒、阻王化者、甲戌有江藤新平、丙子有前原一誠及神風黨、然王師所向不出旬日無不平定、獨西鄉隆盛、資望尤隆黨類極多、其叛也驅四州之士民、將席卷九國、天子赫怒、以二品熾仁親王爲元帥、督諸軍、海陸進討、實丁丑二月也、既而賊匪熊本城、扼險據要勢甚猖獗、官軍奮戰角之田原山鹿、又椅之宇土八代遂至日向蹙于鹿兒島、遂以九月二十四日覆其巢窟元惡伏誅餘黨悉平、是役也出兵四萬、死傷殆半而我廣島鎮臺兵頗能健鬪憤戰死者亦數百、噫乎戰之激烈而死者之多今古未之有也、故能斃鯨鯢殲醜類以開國家泰平之基、其功豈可不謂瑰偉特絕耶、茲勒其功於貞石、庶幾使後人知聖化之所由起也、陸軍中將從四位勳二等三浦梧樓撰并篆額 山口縣周防嚴國鹽谷處書

(裏)明治十一年十二月廣島鎮臺以下將校醴資建之

◎東練兵場 山陽鐵道廣島停車場以北の廣原を東練兵場と爲す廣袤數万町步東西に延びたり北に二葉、尾長の諸山並に南の市街の連繋に接せり明治廿三年迄の民有の田圃ありしを騎兵の營所設けられしと共に上

地してこれを開きしなり、地の大須賀村に属す場の北方山麓に射的場あり

◎騎兵第五聯隊 の營所は東練兵場と接して西隣にあり即ち東照宮の下に當れり

◎櫻の馬場 東松原より東照宮に至るの道路を櫻の馬場といへり昔の左右に堤塘あり堤上櫻樹多くして花候候の如く美事ありしとぞ、故人詩あり

尾長櫻花

寺田臨川

雨霽東岡春已闌

櫻花遠近白漫々

山風同舞千株雪

應似瀾驢背看

且神慮奉慰のためにとて馬の乗られたるよりこの名ある所以あり、今の多少道筋も曲屈し櫻は一本二本老木の残りて些か名残り留むるのみ

◎尾長天満宮 練兵場の北際尾長山に鎮座す大穴牟遲神、少名那彦那神并に菅大神を祭る、往昔菅原道真筑紫左遷の砌船を此邊の岸に繋ぎ山

上を逍遙して峰の岩上に憩ひ地の景勝を賞ししかば時人遂に菅大神の峰と稱し後に至りて祠を彼の岩上に建て齋き祀りしに始まる、其後平清盛再建せしことあり降りて武田、毛利氏等奉信し寛永年中時の太守庶人参詣の便を謀りて里近き所に社地を開拓し遷座せしなりと傳ふ、今猶山の奥に古天神と稱する地あり是即ち最初の社地なりと

維新前までは此山の麓に石泉亭といふがあり禪林寺の庵室にして四際巖壁坑立し湖水その間を廻る亭上滄海の渺茫を望む、又通玄堂ありて觀音の像を安んせり頗る幽邃の境たりしと、京洛の縉紳滋野井三位中將この國に謫せられて卒したるをこゝに葬りたりと云ふ、石泉亭今その遺趾だに認むるものなく名を記するもの稀あり、今射梁の邊りを逍遙するに荆棘の間僅に頭石を隠見せる塔あるを見るものこれ所謂三位中將の遺塚か、故人去つて往事茫たり感慨豈啻に他人の身のみあらんや

◎國前寺 天満宮の東にあり日蓮宗にして自昌山龍華樹院と號す、興國元年日像上人の創建せしものにて初めは曉忍寺と號し、を降つて二十

世の住持日勝の時藩主淺野綱成再興して今の名に改め寺領を寄附して菩提所と定めたりしが後故ありて悉く靈屋を日通寺に移しぬ、寺域三千二百三十坪あり本堂、客殿、庫裡其の他堂宇多く又二王門あり、門の左傍に老松あり樹下に「西國宗旨發軔之靈場日像菩薩繫船舊跡」と刻せし碑石を立つ

◎瑞仙寺 國前寺の東方にあり是亦幽靜なる禪院にして門前に里道通じ練兵場の眺めあり、當寺の毛利氏の廣島築城と密接の關係を有しこれらの文書今猶傳はれるもの多しといふ

◎大打越峠 尾長村より温品村に越す山路を大打越峠といふ道分岐せし奥に火葬場あり

◎可兒才藏の墓 岩鼻の手前片側町より矢賀村へ越す山路の右傍に可兒才藏の墓あり、兒可の姓を藤原諱を吉長と呼び福島正則の家臣にして勇將の名あり屢々從軍して首級を獲ること算みし其の戦ひに出づるや毎に綠竹を背後に挟み首を獲るに従つて悉くその鼻口に笹の葉を納めて

拾置きけり、戦後功を論ずるに當りこの事分明し敢て争ふ者あらず厚く褒賞を受けたりと是より馳名益々著れ笹の才藏の倭名軍中に高かりとし云ふ、吉長の尾州葉栗郡藥典郷に産れ慶長十八年十一月廿四日没したるなり、此地を才藏峠と呼ぶ齒を痛む者この墓に祈念せば忽ち癒ゆるを得願解きに線香と焼味噌とを備ふるを禮とすと傳ふ

◎岩鼻 廣島市街の極東端にして尾長、山中の山脈南走して盡くるところの岬角たり、數丈の磐石重疊して一奇觀を爲すこの邊りに藤の柵の名所あり甚六茶屋と呼ぶ、これを東すれば府中、矢野二村を経て國道を海田市驛に達するあり

◎多家神社(埃の宮) 安藝郡府中村に多家神社あり岩鼻より二十餘町にして達す、神倭伊波禮毘古命を祀りし所にて今の縣社たり本社創立の年代の今之を舊記に徴して詳かならざるも社地は神武天皇日向國より皇軍を帥ゐて東征し玉ひし時の行宮跡にして日本紀に埃宮と載せ古事記に多祀理宮と記されたるは皆この皇宮ありと、又延喜式神名帳に安藝國三座

(中略)安藝郡一歴多家神社名神大とあり、即ち當社の皇祖神武天皇御駐蹕の舊跡に皇祖の靈を奉祀したるものなれば歴朝の御崇敬厚く勅宣の神階を贈られ國家の祀典に預りまする社の中多家神社の上に出づるはるかりしと、然るに中葉亂離の世を経て祀典全からずと雖も安藝國府の長行司田所家は代々勅使代として祭典に與り毛利淺野兩家は社領を附し藩費を以て社殿を營繕し大祭には遣使代拜の式を舉行したる由、この地を誰曾の森と名け又山間に出合の清水といへるありて安藝國名所の歌に曰く

安藝の國出合の清水さぎの森
阿彌陀ヶ峯にいつき島山

とあり鷲の森は二十日市洞雲寺にあり阿彌陀峯は牛田村新山の下をいふとぞ、又この村の古へ安藝國府のありし所にて社傍埃の川のほとりに國應跡あり、尙松崎神社、總社の二社ありしを維新後明治五年兩社を合してこの多家神社相殿に合祀したりき而して今の建物は舊城三の丸の内に造營せられたりし稻荷社を解崩してこゝに移し明治七年に至りて落成遷

宮式を擧げたるものあり、境内地は平地に突出せし山嶽にして景勝あり皇祖御駐蹕の靈跡たるが故に大凡國人の廣島に往來するものこゝに拜するを例とす、近年神社の殿宇を修築し神苑を弘擴し建碑して保存の方法を確立し官幣社に昇列することを期し且神武天皇二千五百年大祭典を執らせんものとして多家神社埃宮會といふを組織し朝野の縉紳大に奔走中に既に社地一部の取弘め工事に取かゝり居れり
開け行く御代のためしも古へに

有りし御幸の跡ぞしのばる 從一位 淺野長勳

◎府中の櫻 多家神社の東に長福寺といふ禪寺あり東西北の三面は皆山を以て圍み南方は仁保島、宇品、嚴島の諸青嶺を望み境内に一の大なる枝垂櫻あり府中長福寺の櫻とて古來名あり故人の詩に

春風野以白人袍 雪擁伽藍櫻萬條 未識開基經幾歲

一山名爲花高 武井淡山

◎温品の瀧(岩屋觀音) 府中村の北方吳沙々宇山の西麓を温品村とす字

宮の下より登れば八幡宮あり其背後に小飛瀑あり之を温品の瀧と呼ぶ、口牌に曰く神武天皇東征のごきこの所に於て御顔を洗はせられたる事ありと、この瀧に浴すれば腦を治し又眼を病むものに効驗著るしといへり
吳沙々宇山は安藝、安佐の郡界に聳へ絶頂まで八十町縣下有名の大山なり、その半腹に觀音堂あり岩屋の觀音とてこれ亦靈場とみす山路極めて危険なれど信心家登るもの常に絶へず地方に有名なり、又岩屋藪とてこの邊りの山林に生ずる松茸は新庄の産と並び稱して殊に稱美するあり
◎邇保姫神社(仁保島村) 猿猴川の海に注ぐあたり右岸を仁保島山とす安藝郡に属すれど地勢廣島市と接続し山を繞りて本浦、淵崎、日宇那、丹那、大河の各字あり概ね水産を業とし海苔、牡蛎等の名産を出す、邇保姫神社は宇皇后山に鎮座し仁保島村の総産土神たり祭神は帶中津日子命、品陀和氣命、息長帶日賣命の三柱にして初め神功皇后三韓御親征の事あり凱旋御班師の際一夜當島に御駐輦ありて翌日還幸の砌府中村に至らせらるゝや邪氣を避けて白羽の矢を後方に放ち玉ひしにその矢この山

に中る依つて名けて皇后山と命じ御矢を奉祀して一社を營みたるなりと
後人皇五十八代光孝天皇の御宇大に土功を起して社殿を造營し豊前宇佐
宮を勸請し正八幡と稱す蓋安藝國に於て始めて八幡宮を勸請せし社
あるを以てなりと傳へり

◎西福寺の皐月花 同村字淵崎に西福寺といふあり馬耳山(仁保島山
の號にして又一に城本山の名あり)の聯脈東北に盡くる所に位し海面を
抜くこと數百尺境内眺望極めて佳く古くより皐月花を以て名あり、堂背
の園庭山を抱きて成り古松老樹翁鬱として天を蔽ひ躑躅満山寸際を餘さ
ず花候こゝに蒞むに簇々たる紅花燈かど疑はれ枝葉人脚を没す山腹に
碑石あり吾色掬すべし題して「萬世も天やく花のつゝ山」と刻す香城庵
主の建つる所たり、碑石の邊り一帶の花苑ら紅の瀑布かど見られ或は山
の燃ゆるあきかを疑はしむ、夫より猶登れば頂に榭亭あり老松天に朝し
て巨人雲を攫むが如きあり翠黛棧を成して踞するに可るが如きあり而
して境外の眺亦多く或は鏡の如き海面に帆影の倒まるるもの或は綿々た

る峻嶺高峯我れと語るが如きもの皆共に一陣に萃まるなり、境内又楓樹
多く秋霜の頃愛すべし、寺門の四時開放して五濁入るに任せれば雅俗
遊ぶもの常に多しと云ふ

潮落小流帶淺沙 女兒拾蛤似大鴉 紅林白屋漁村晚 坂井 虎山

又この邊りの一體に月を賞するに適し山下に蘆花渡(ろいご)とて月の名所
あり小赤壁と稱へらる

西福院賞月 頼 杏 坪
諸天風雲舜若多 樓臺現出乾連婆 頑陰君碎鐵如意 影吾持
金匹羅 横空雁行催文字 滿砌蟲語助吟哦 此夕賞遊如舍闌
銀蟾玉兔謂我何

東 部 [東橋川以西、八丁堀筋平田屋川以東の間北は白島一圓を
除きたる以南一帶の區間を單に東部としてこゝに収む]

◎嚴島神社 京橋を渡り左手に入る小路を明神の濱といふ嚴島神社あ
りて殿島明神を祭る、元下柳町廣教寺内にありしを今を去ること四
廣島名所

十餘年前この所に遷宮したるあり、毎年嚴島管絃祭の當日禮祭を擧ぐ
 ◎廣島大林區署 國道は京橋通より直線入丁堀に至りて左に折る、大
 林區署はその間京橋筋鐵砲町にあり○林野整理局廣島支局○廣島小林區
 署共にこの所にあり

◎神道廣島分局 鐵砲町にあり大林區署と境域を接せり

◎縮景園(泉邸) 上流川町に侯爵淺野長勳の別邸あり昔時泉水館とい

ひしを俗に御泉水と稱へ今の署して泉邸と稱す、本名は館の総體を清風

館と稱しその縮景園と稱するは園庭の総名あり蓋支那西湖の景を摸した

るに因るといふ、元和五年淺野長勳入國の翌年上田宗固をして經營せし

めしものにて爾後世々の藩主遊樂の地として或は庭地を擴め或は修補を

加へ爰に二百八十餘年の星霜を経たるあり、廣義凡そ四町川流を隔て、

斜に尾長、二葉の重翠と相對し西、新庄、己斐の青嵐を望む、岸に閘門

を設けて河水を泉地に引く池を濯纓池と名け池中小島あり、池の北邊曲

渚廻灣直ちに絶壁に迫り溪澗あり瀑湍あり自ら深山幽谷の景趣を備ふ

廣島名所

又楓溪あり梅林あり櫻巷あり菜圃あり、池の南地平坦にして清風館ある
 ものこゝにあり座して全景を望むべし、其の致趣實に西湖一幅の畫圖に
 異ならず縮景園の名空しからずといふべし、文化三年藩の儒臣賴惟完
 (春水)縮景園の記を作る中に就て園の名勝を列擧せんに

- 濯纓池 清風館 祺福山 跨虹橋
- 超然居 白龍泉 明月亭 水心島
- 小蓬萊 楊柳灣 楊柳橋 悠悠亭
- 迎暉峯 櫻花巷 映波橋 昇仙橋
- 望春橋 銀河溪 有年場 看花榻
- 香菜圃 靈迹壇 烟霞島 臨瀨岡
- 弄雲橋 錦繡橋 古松溪 綠蘋洲
- 蒼雪島 丹楓林 菊花淵 觀瀾橋
- 石塘橋 流芳軒

明治廿七八年の役大を廣島に進めらるゝや 皇上その名を稔聞し

日こゝに臨幸あらせられ尋いで國母も亦こゝに行啓あらせ玉ひぬ、後三十二年春宮廣島に行啓ありし際亦一日風光を愛でさせられける、大凡そ緒紳君子當地に来るや車を寄せて一觀を請ふもの甚だ多く關西にありて岡山の後樂園と名を等しくせり園中に稻荷神社あり毎歲初午の日諸人參詣のため園の觀覽を許すを例とせり

廣島名所

◎修道校 八丁堀の上にあり私立學校にして校主を山田養吉といふ廣島の儒者あり主として陸海軍志願者の豫備門を教授す

◎廣島女學校 基督教美以美派の設立にかゝり高等女學科技藝科小學科幼稚園等あり教師は英人並邦人あり

◎柳町の渡船場 上柳町の北隅にあり京橋川の上流を大須賀村に渡るものにて停車場、公園等に出づるの徑路たり、此邊り釣魚に適す

◎裁判官々舎 廣島控訴院長、同院檢事長並に廣島地方裁判所長の官舎は泉邸と接して幟町にあり又地方裁判所檢事正等の官舎は上流川町にあり

廣島名所

◎幟町尋常小學校 幟町の下にあり構内の廣さ凡そ千四百九十餘坪あり

◎廣島醬油製造合資會社 山口町にあり壹万圓の資本にて廣島産物の一たる醬油製造の改良を圖るを目的とす

◎廣島米綿株式取引所 これは株式組織にして資本總高五万圓之を千株に分ち一株五拾圓とす銀山町にあり、廣島に於ける取引所の起原を釋ぬるに今を去る三百年前即ち永録年間この地方綿の栽培盛んにして年々の産出高巨額に上りけるより當時の有志相謀りて綿改所といふを設けたるもの實に廣島に於ての取引所のはじめとす爾來幾多の沿革あり降つて明治九年米商會所條例の發布によりこれ迄行へれたりし米綿取引の業一は廢たれて綿會所のみ残りたりしが越えて明治廿六年有志相謀りて綿會所に米穀取引の市場を加へ以て株式組織の一會社としたるあり、而してその設立免許を得たるは同年末にして翌廿七年二月賣買を開始し廿九年

四月よりは更に株式取引の市場をも加へて次第に盛況を呈する事とはるれり

◎廣島商要日報社 取引所前にありて廣島商要日報と題し専ら物價相場附の新紙を發行す

◎惠美須神社 胡町にあり事代主神を祭る、當社の起りを尋ぬるに毛利元就吉田の庄にありし時同地に其の祖大江廣元を祭りし像あり、廣島に移城するに及びて何故にか取殘されけるを里人見て蛭子神とのみ信じけるが、其の後福島正則此國に太守たるに當り歌舞伎のもの清七とて正則の嬖人あり、其の頃錢屋又兵衛といふ者元吉田に生れ清七と懇切ありしが或時清七より彼の蛭子神の像、威靈顯著る由を聞き尊崇の念を起し謂らくその神を勸請して當町に鎮祭せば商運隆昌町勢振ふべしと清七その意を察しそは安き事ありとて正則に言上しけるに正則即ち吉田の長に命じ廣島に致さしむ、錢屋大に喜び直ちに祠をこの町に建て、安置したるあり時に慶長十七年十月二十日ありしと、左れば祭れる所の像

廣島名所

廣島名所

は蛭子神にはあらず大江廣元ありと知るべし、境内地三十坪餘社殿二間二尺四方あり

◎尾道貯蓄銀行廣島支店 株式會社にして本店は備後尾道市にあり資本金五万圓なりこの支店は堀川町にあり

◎山陽石鹼合資會社 堀川町にあり六千圓の資本にして石鹼製造を業とす

◎廣島地方裁判所 三川町にあり堂高く聳へ結構宏壯あり前方に平田屋川流る

◎廣島區裁判所 地方裁判所と同構内にあり

◎廣島油明會社 三川町圓隆寺小路にあり合資組織にして貳万圓の資本あり燐寸製造を業とし重に内國向を造出す、他に分工場をも有して盛んに製造すといふ

◎第三高等小學校 竹屋村にあり明治三十一年の創設にして構内の廣さ二千〇六十餘坪、現在生徒の數八百餘人あり

廣島名所

◎明道中學校 竹屋村字平野新開にありて私立中學校あり敷地総て一
万五百六十坪建物は教室、大講堂、控所、寄宿舎等にて設備完全し近く
文部省の認可を得たりと

◎二軒屋敷(石川丈山の邸宅) 今の田中町を二軒屋敷と稱す鴻儒石川丈山
寛永元年藩主淺野家の艘に應じ始めて當國に來りたるがその頃この地空
漠にして家一軒もなかりしを藩公ために新たに屋敷二軒を建て南の一軒
は伴三左衛門(三千五百石を領す)に賜ひ北の一軒を石川左近(丈山)に賜ひて
三千石を給せられたりといふ、今の興徳寺の東北は即ち丈山の屋敷跡
あり

◎廣島東榮株式會社 平塚町にあり貸地貸家を以て營業とす即ち東遊
廓の地所建物所有主たるあり総資本額六万圓あり

中央部

第一區

〔平田屋町以西元安川以東の地にして北は白島一圓を加へ、南
は國泰寺村に至る、更に又之を二區に分ち一を西練兵場以北
とし一を矢柵下通り以南とす〕

◎廣島城 市の西北部に當る天正年間領主毛利輝元此地を丈量して
繩張を爲さしめ文祿元年始めて土工を起し三年にして成る則ち吉田より
移り都市こゝに翺まり中國の重鎮はじめて堅固あり、後慶長五年毛利氏
長門に徙り福島正則藝備兩國を領するに及びて外廓完成を告ぐ而して居
ること二十年、次で元和五年淺野但馬守長成紀州より來りて安藝及び備
後の内八郡を領し爾來居ること二百五十二年傳へて第十二世(長晟より)長
勤に至り明治維新の革命に遇ひ遂に城を廢したるあり、鯉城又は泰磨城
と號す、天守閣は高さ十七間六尺その基礎は東西十二間、南北九間あり
◎大本營跡 天主閣の下東南に當り元第五師團司令部たりし所にて明
治廿七年宣戰の布告あるや 大元帥陛下には大襟をこの地に進めさせ給
ひ畏くもこの司令部を以て大本營及び行在所に充てさせられ大旗こゝに
動き萬機これより發したりしあり、今は第五師團の管理にて嚴かに警護
せられ旋規を設けて國民の拜觀を許さる

◎第五師團司令部 元の本營より西南に當る戰役後新に建築せられ

内 案 島 廣

しものにて參謀部、副官部、軍醫部、獸醫部等皆一棟の内にあり又監督部及び第五師管軍法會議は別にこの東手にありて各々棟を異にせり

◎歩兵第十一聯隊 城内御橋御門の東方にあり西南の役、明治廿七八年役共に殊功を樹て勳威赫々たる軍旗を有するはこの隊あり

◎野戰砲兵第五聯隊 御門の西、歩兵第十一聯隊の營門と相對せり

◎西練兵場 本丸の南門外にして元の城廓内あり東、兩南方は城濠を以て囲み場の廣さ東二百八十間南北百九十間あり、場外の西方は三篠の清流にして又大手門、眞鍋筋、立町筋は南に通じ京口門は東に通せり、大凡陸軍の管轄する衛廠は皆この練兵場の周圍若くは北方に聯接せり

◎第九旅團司令部 練兵場の東北隅に當り京口御門を入りし所にあり司令部と相隣りて第九旅團長の官舎あり

◎広島聯隊區司令部 旅團の西隣にあり

◎濟美學校 旅團司令部と相對して南方にあり広島偕行社附屬の小學校にして幼稚園をも有せり

内 案 島 廣

◎広島偕行社 練兵場の邊りを総じて基町と字す偕行社また基町にありて立町筋に當る、構内廣く園庭の結構頗る雅趣に富めり、過ぐる明治十八年 聖上はじめて御巡幸の際行在所に充てさせ給ひき

◎広島市水道假事務所 偕行社と對して西角にあり

◎第五憲兵隊本部 その又西隣に建てらる、広島分隊及び基町屯所はこれと構内を一にし眞鍋筋に向へり

◎第三區病舎 練兵場の西端にあり元の広島豫備病院にして今は衛戍病院の分室たり

◎広島陸軍地方幼年學校 これと對して北方にあり明治三十一年の九月の開校あり

◎輜重兵第五大隊 西練兵場を北隅に出づれば又兵廠あり元この邊りを小性町と稱したり、輜重兵第五大隊の營所并に輜重廠こゝに相隣す

◎広島衛戍病院 この北方にありて第一區病舎、第二區病舎はこの構

内にあり

◎陸軍兵器廠廣島支廠
は衛戍病院の隣にあり、又火薬庫は更に北して白島西町に當る

◎歩兵第四十一聯隊
の營所は裏小性町にあり内濠を隔て、天主閣と面せり、この邊り松樹林を爲せるより後松原の稱あり

◎廣島衛戍監獄
この東隣に當る又監獄と斜に東に對し兵器庫あり、これより北に廻れば石堰門を成す不明御門と云ふ、こゝを出づれば左は白島東町右は八丁堀あり

◎三軒紺屋
この邊りを三軒紺屋と稱す堤上に桃林あり神田の流れを隔て、東に二葉山公園、南に泉邸を望み觀望に富めり、常葉橋及び山陽線の鐵橋こゝに架せらるゝあり

◎幟町小學校白島分教室
白島東町にあり

◎妙風寺
白島には寺院極めて多し、妙風寺は東白島町にありて法華宗たり、境内に清正公を祀る祭例日參詣するもの極めて多し

◎箱島山正觀寺
千八百八十餘年前の箱島は一小丘の名として傳へられ今日の白島町たり即ち白島ははじめ小丘の名に得たる地名たるあり今白島九軒町にある正觀寺は曾て丘陵たりし頃行基菩薩の開基にかゝり箱島山慈眼院と號しぬ、これ實に千年前の造立にして市内現今の神社佛閣中最も古きものありと云へり

◎礎神社
白島九軒町にあり大少重神を祭る、昔時毛利氏この地に城くに當り水理を測り廣狹を定めて海灣を埋没し地を闢くや海神の怒りに觸れんことを恐れ則ちこの祠を再興して礎大明神と稱し且鬼門鎮護の神とし崇め社領五百石を附したりと、今は村社たり境内地二百六十二坪

◎工兵第五大隊
の營所またこの町にあり、此地恰も太田川の分水脊に當り市街中央部の最北端にして河流を界に東は安藝郡牛田村、西は安

佐郡三篠村と對せり、この地一本木の稱あり昔時堤上に白莢の木一本茂り居りしより名けたるなりと

◎神田橋
白島九軒町より牛田村に架せる橋梁にして常葉橋の上流に

あり、この橋の先頭は即ち郡部あれど市と接続して關係少からざれば例の如くこれより少しく筆を該村内に進むべし

◎工兵隊作業場 橋の上牛田村に陸軍省管轄の原野ありこれを工兵第五大隊の作業場とす

◎水道水源地 又その上にあり廣島屯營の陸軍をはじめ都下全市民に供給する上水の泉源にして水は太田川の清冽なるを引く、沈殿池、漉過地を経て清浄となりし水は中央溝渠に集り水門を過ぎ送水唧筒によりて百四十尺の山上にある配水池に導かれこれより土中の鐵管に落ち南下して城市に入るあり、元陸軍々用水道として建造せられたるを廣島市借受け市街全般に供給する事とはありしあり、水源地の工費は總計六十六万圓を要し又鐵管敷設費は三十二万圓余を要したるものにて明治三十一年八月之が通水式を擧げたり、水門に「混々不舍晝夜」と題す時の廣島陸軍々用水道敷設部長陸軍次官少將兒玉源太郎氏の揮毫にかゝる

◎日通寺

字神田にあり日蓮宗にして釋迦如來を本尊とす、元賀茂郡

にありて天臺宗ありしを元祿五年時の藩主この地に移築し宗旨を改めたるものにて爾來淺野家の菩提寺たり、境内の山中に淺野家の墳墓地あり(溫徳院殿松平安齋守從四位上左近衛少將齊齋其他平時は深く閉じて庶人の入るを許さず、山門の前岸上道路に沿ふて喬杉林を成し景勝あり

◎不動院

字新山にあり眞言宗仁和寺末にして藥師如來を本尊とす、

當寺は曆應二己午年北朝二代光明帝の勅願に依りて創めて五層利生塔を建立し弘法大師入唐將來の佛舍利を安置したるを濫觴とし安國寺と稱したりしを其の後天正の項僧の惠瓊豊太閤に請ひて再興したるものにて當時建立せし堂宇を天籟閣と稱す、次で豊公朝鮮征伐凱旋の際藥師堂仁王門鐘樓の三字を朝鮮より致し當寺に移したるありと、今猶四角の簷牙に「朝鮮木文祿四年」の數字を刻せるを見るべし、然るに豊臣氏逝き惠瓊落命の後寺門次第に零落に及びたりしが福島正則入國するに及び不動明王を天籟閣に安置し依つて改めて不動院と號し祈願寺と爲しぬ、斯くて幾星霜の後天籟閣は累年雨漏のため遂に明治十六年に至り朽倒したる

が今存する建物の中本堂(即ち薬師堂)、仁王門、鐘樓の三字は珍重なるものなりと而して又鐘樓に吊るせる梵鐘(銅製美術工藝品)も朝鮮より傳來せしものなりと傳ふ近年國室と定めらる、又本堂も古社寺保存法に依り特別保護建造物とせられたり

境内の林泉頗る雅致あり又小瀑布あり背後の山岳より落下し天籟の瀉と稱す、樓門の前方には太田の洪河あり混々として波紋清く碧をみし夏季の避暑最も來遊するもの多く春秋朝夕また逍遙に住あり、本堂の東丘上に墓域あり碑碣累々苔蒸し石焦げその數二十餘基中に一段高き所に一基あり石大ならざるも形五重にして之を豊太閤遺髪(豊太閤)の塔なりとす、此外惠瓊禪師(首塚ありと傳ふ)宥珍法印(尾張熱田不動院住職にして福島氏に附隨し來りて當院を管せし僧あり)及び武田刑部少輔和光(銀山城主)の塚あり

此邊り廣島市六川の源たる太田川の幹流を控へ前方廣潤にして安佐、佐伯の聯峰を望み頗る風光に富めり、廣島名産たる香魚は多くその邊り

に産じ其の他淡水の魚族多く釣網に適せり、而して都市を距る敢て遠しとせず二葉山公園よりは指呼の間のみるれば四時杖を曳くもの少からざるあり

遊川上

寺田臨川

天將秋霽助舟行 桂棹來尋鷗鷺盟 万嶽北支山勢險 一川南

下水容平 香魚出網金爲賸 老芋登盤銀作羹 此際此游須我輩

煙波那解着簪纓

◎醉翁亭の八景 松平安藝守淺野綱長未だ世子たりし時新山の東南に地を相して遊樂の別墅を設け名けて日新館と稱す、其の經營の巧なる民力を勞せず茅茨を葺きて屋と爲し松竹を横へて椽と爲すその淡薄の風天然の趣世人の窺知する所にあらずりといふ、而して其の山中近く視るところ境疆八つ日新館といひ醉翁亭といひ無量峰といひ櫻花峰といひ瀑布泉といひ昔清水といひ細竹路といひ馳馬場といふ、就中醉翁亭の眺望勝へていふべからず其の遠く望むところ八景あり

廣島名所

六十四

嚴島の春霞

廣城の夕照

新山の秋月

古寺の晚鐘

山下の落雅

武田の殘雪

大芝の暮雨

これあり、所謂日新館なるもの今日その跡を見るべからざるもその八景に至りては今も猶これを賞するを得べし依つて古書に基きてこゝに之を記せしあり

第二 區

◎平田屋橋

八丁堀を下り國道筋を右に折る、所にあり、この邊りより以西最も繁賑の地にして終日行人織るが如し、橋下の水は城濠の注ぐものにてこれより下を平田屋川と稱し川原橋の下に竹屋橋を架すそれより下を竹屋川といふあり

◎山陽貯蓄銀行

平田屋町にあり五万圓の資本にて株式會社たり、中條、福山、吳の三支店を有す

◎播磨屋町尋常小學校

平田屋町の西播磨屋町にあり構内の廣さ凡そ六百八十餘坪ありこの町の西に草屋町、東横町、西横町、細工町相隣

廣島名所

六十五

せり

◎廣島郵便電信局

細工町の角にあり三層樓にして白聖高く商區の間に聳ゆ構内廣く輓近の建築にして設備完全なりと云ふ

◎廣島電話交換局

同町にあり目下建築中なるがその電話交換の開始せらるゝは廿年を出でざるの前にあり廣島の一進歩また大に賀すべきなり

◎里程元標

元安橋の東詰北側に里程元標を建つ

◎廣島警察署

大手町一丁目にあり構内の廣さ九百十八坪餘にして廣島縣巡查教習所またこの構内に置かる

◎帝國火災保險會社

の廣島支店は大手町一丁目にありて警察署と相對せり

◎廣島商業會議所

商工俱樂部の内大手町一丁目側にあり

◎大谷派說教場

眞宗大谷派の有する說教場は大手町一丁目に屬し紙屋町に出づる小路にあり

廣 島 案 内

- ◎美以美教會 基督教美以美派の會堂は東紙屋町にあり
- ◎三井銀行廣島支店 資本金五百萬圓を以て成れる合名會社三井銀行の廣島支店は大手町二丁目にあり
- ◎藝備日々新聞社 日刊新聞藝備日々新聞を發行し大手町二丁目にあり
- ◎眞宗日報社 大手町三丁目三原屋小路にあり眞宗日報を發行す
- ◎中國新聞社 大手町四丁目にありて日刊新聞「中國」を發行せり
- ◎堀田眼科病院 は中國新聞社の向にあり院主は醫學士堀田笈三にて病室の設けあり入院治療をなさしむ
- ◎日本酒造火災保險會社 の支店は大手町四丁目にあり又東京火災保險會社廣島支店も同町に設置せらる
- ◎大阪商船株式會社 の廣島支店の大手町五丁目にあり
- ◎匹田病院 これ亦同町にあり醫學士匹田復次郎の設立にかゝり病室を有して患者入院の需めに應ず

廣 島 案 内

- ◎神宮奉齋會廣島本部 五丁目にあり伊勢大神宮を祭祀し懿訓聖勅を奉戴し皇典を講究し藝倫を講明し國體を修行し神宮大麻及曆頒布に従ふ
- ◎大谷派別院 眞宗大谷派の別院は大手町六丁目の横筋にあり寺を明信院といふ世俗敬辭を用ゐて御坊と云へり
- ◎金刀比羅神社 大手町七丁目にあり市内この神を祭れる祠宇少からず就中平塚町の琴平社と當社とをその大なるものとし祭日般賑を呈す
- ◎廣島電燈株式會社 大手町七丁目にあり明治二十六年の設立にして九萬圓の資本あり
- ◎石版印刷合資會社 七丁目の裏通りにあり石版印刷所たり
- ◎廣島稅務管理局 大手町八丁目にあり境内廣く近時の建築にして極めて宏壯なり萬代橋の眞行當りあり
- ◎廣島國學院 同町にあり管理局と斜に相對す明治廿五年の開設にして神宮奉齋會廣島本部の管理するところたり
- ◎第六土木監督署 大手町九丁目にあり民家を仮用せるものあるが近

近國泰寺村測候所前に廳舎を建築する筈にて設計中に属せり

○鷹野橋 九丁目より國泰寺村に渡せる橋にて長さ七間二尺、川を堀川と稱す別に泉源あるにあらず城南市坊の下水これに注ぐ、天正十七年毛利氏時城するに當りこの川と竹屋川とを掘りて用材を運搬したるありと、而して昔時は河身廣く從つて橋また長かりしとぞこの道を宇品街道とす

○廣島測候所 國泰寺村宇品街道の傍にあり構内の廣さ總て六百坪

○御幸橋 一名長橋といふ京橋、竹屋の両川相合するの所に當り長さ百十四間幅員四間ありこれを廣島市第一等の長橋とす、往年今上陛下御巡蹕の砌宇品に幸あらせられしに因みて斯くは名けたるあり、この邊り斜に似島と對し其の他江波山、宇品町、仁保島等山海の景一眸に叢り觀望甚だ富む就中明月の夜最も賞すべきあり、橋を渡れば實皆村にして凱旋碑その先にあり

○廣島煉瓦製造株式會社 國泰寺村の西南端沖新開にあり資本金參万

圓の會社あり

○第一高等小學校 國泰寺村西堤防下にあり構内の廣さ三千〇三十坪餘現在、生徒二千百餘人あり(分校合算)

○第一中學校 廣島縣第一中學校も同村にあり構内四千五百餘坪にして建物は教室三棟、講堂、寄宿舎、控所、校長室、職員室、事務室に分たれ生徒は五百六十五人を定員とす、別に三千九百坪の運動場ありて校舎の後方に接續せり

○廣島高等女學校 同校は小町にあり私立學校なれど萬事整頓せりといふ、校地六百三坪にして寄宿舎の設けあり現今生徒三百數十名を養へり

○白神社 小町に鎮座す祭神は岐玖理毘賣命、伊邪那岐命、伊邪那美命にして創立の年代は詳かざるも往古は此地一帶の蒼海にて此處に大巖石より成れる一小島あり往來の船舶常に險難ありしかば巖上に小祠を建て白神と唱へて崇め祭り傍ら暗礁の標識と爲したるを濫觴とす、

降つて天正の頃毛利氏大に社殿を起し廣島總産土神と定め爾來代々の國主崇敬し貢獻するところ厚かりし由今は郷社に列せらる境内總て五百十餘坪あり

◎國泰寺(非豐國神社)

白神社の東隣にある巨剎を國泰寺といふ曹洞宗

にして豐太閤と深き縁故あり古くより名を知られし寺院なり、茲に聊か當寺の事歴を記さんに今を去ること三百餘年の昔文祿三申午歲僧の惠瓊西堂朝鮮木を用ゐて建立せしに糊まり時の宗旨は臨濟宗にて安國寺と號したりしあり、而して惠瓊が俠々の才豐氏の遺孤に心を寄せ關ヶ原の役に關與し事破れて慶長五年十月徳川氏のために誅に伏せし事は史の記せるが如くにして寺門の西一橋を架せるもの名くるに西塔橋といへるの蓋惠瓊西堂が住座せしに因みたるものなりと、西堂の没後慶長六年國守福島正則の請聘に應じて敕特賜天眼普照國當寺に座し臨濟より曹洞に改め且始めて國泰寺と稱したるものあるがこれ全く豐太閤の法名「國泰寺殿前太閤雲山俊龍大居士」の名に因み且豐公を以て開基とせしに依るなり

而してこの普照國師の俗姓福島實に正則の實弟にして尾州白坂雲興寺十二世蓬山和尚の高足なれば因縁甚だ深く豐公の遺髪をば正則手づから境内に埋めて塔を建てたりと現に境内老楠の下豐公遺髪の塚あるものはありこの外惠瓊西堂の墓あり、又之と同時に豐公の像を祀り祠を門側に建て祭禮嚴肅に修せられたる由この祠宇與廢ありしも今表門の内側にありて豐國神社と題するものこれなり、明治三十一年京都阿彌陀峯、豐國廟の大祭典あるやこの地にても亦この祠宇を修理し祭典を行ひぬ、今人の多く當社あるを知りしもの此舉興りて力ありしと云へり
昔への當寺の規模甚だ宏大にして西の今の大手町に至り東の今の中町に擴がり南北亦これに稱ひ且この邊り楠木村の稱ありしなり、今墓畔に喬喬たる老楠鬱蒼たるを見るこれ當時の遺物なりと、元和五年淺野長晟封をこの國に移すや宗全和尚あるもの隨行し來り遂に當寺の住職となり是より代々淺野氏の菩提寺とある、其の後火災に罹り堂宇を建替ゆること前後二回にして又明治九年十一月本堂庫裡靈堂開山堂衆寮鐘樓中門等悉

く焼失したれば更めて規模を狭めて十五年五月再建成りぬ、現今の建物即ちこれにてその重なるは本堂八間半に十間半、庫裡四間半に十間、經藏四間半四方等あり、古書畫器物の寶藏中秀頼十一歳の自筆に成れる豊國大明神の扁額を藏せり

淺野家墓所は境内に接續して疆域を別てり塋門袋町より通ず、梅桃李櫻多く花候極めて美事なり境内の墳墓皆莊嚴を極む左の如し

淺野但馬守三品侍從長晟(自得院殿)、松平紀伊守少將光成(玄徳院殿)、淺野但馬守少將宗恒(鶴阜院殿)、同室(永壽院殿)、松平安藝守少將齊賢(天祐院殿)、同舍弟長懋(覺道院殿)、侍從兼安藝守慶熾(大光院殿)

○廣島縣農工銀行 尾道町にあり西塔橋の西詰に當る資本金百万圓にして株式組織たり

○廣島控訴院 國泰寺の東隣にあり建築高大壯重なり、この邊皆國泰寺境内たりしものにて門前に松樹駢立し月夜最も逍遙に適す、この松は惠瓊の植るしものなりと

○師範舊校舍 中町にありて四方概ね壹町に亘る、この所初の文部直轄語學校たりしを明治十年二月廢止となりて中學校に貸與せられ次で十三年師範學校を此構内に移し北部數棟を中學校とし南部數棟を師範校舍に充てたりしが後二十四年中學校は現今の地に移り爾來師範校のみとなりて今日に及び更に近年比治山に移築する事となりしあり

○第一高等小學袋町分校 第一高等小學校袋町分校は袋町櫻川筋にあり廣島市高等小學の女子部たり

○海外渡航株式會社 袋町にあり資本金六万圓にして布哇、米國、濠洲及び浦鹽等海外各地の移民周旋を業とせり

○博愛病院 中町にあり明治十九年の創立にして在廣陸軍を醫診療に従事し又入院治療を許す、この内に日本赤十字社廣島支部看護婦養成所を設く

○日本基督教會堂 博愛病院の南にあり

○妙慶院 は新川場町にあり淨土宗にして海雲山と號す小本寺格を有

し又の名を來迎寺といふ昔時安藝一ヶ國淨土宗三十四箇寺の觸頭を勤めたりしと、當寺は慶長五年の創立にして開山は明智光秀の男増譽快應たり太守福島正則黒印地三百石並に境内地若干を寄せて齋資に充て亡母の位牌を當寺に納む(正則の母諡號を妙慶院殿といふ)後正則退轉するに及び黒地を上地し境内を割かれたりと、伽藍火災にかゝること三回に及び現今のものは明治三年の建築あり、境内に千手觀音堂、愛宕社、天神社あり又當寺の梵鐘は高砂尾上の鐘なりと言ひ傳ふとかや

◎正清院 新川塙字東寺町にありて廣白山淨安寺と號し淨土宗にして淺野家の菩提所たり、徳川家康の女にして淺野長晟の室とあり元和三年八月紀州和歌山に於て逝去せし正清院殿泰譽興安大禪定尼の位牌を安置するため始めて中町の西方に一寺を建立し正清院と呼びたるものにて後寶曆八年四月三日の大火にて堂宇灰燼とまりしより今の地に移せしあり之が開山は甲斐の人乘譽といふものなりと、當寺の邊りは前に竹屋川を控へこの外數箇の寺院相隣りして白壁を連ねたり東寺町の稱ある所以

◎聖光寺 同町の中程にあり曹洞宗にして大本山總持寺の直末たり往古の本山に敕請輪番住職を勤務し居りて小本寺の格を有せしあり、本尊は十一面觀世音菩薩にして之が由緒を尋ぬるに天正勝寶三庚寅年佛師運奎この觀音の像を彫刻し當國豊田郡安宿の山中洞溪に安置せしを天元の頃に至り人皇四十六代聖武帝の末葉上卿某氏あるものこゝに止住して始めて此靈佛あるを知り堂宇を創建し寺領を給し正曆元庚寅年天臺宗の高僧圓岳大師を請じて座主と爲し洞景山松光寺と名けたるが數年を出でずして兵火のため焼失し圓岳遷化の後某氏の女梶木姫發心雉髮して自得の比丘尼とあり飯屋を建立して大悲尊に仕ふ、寛弘七庚戌年比丘尼三八歳にして逝き侍女四人各々尼とありて本尊を守護すること自得尼に亞ぐといふ、斯くて以降足利尊氏將軍たるに及び再興を命じ寺領三百石を附して諸堂伽藍宏壯に聳ね法輪長へに轉せり、其の後貞治四乙巳年四月當國の軍師毛利備中守親茂先考追福のため廢頽せる當寺の伽藍を再興

廣島案内

し教旨を改めて禪と爲し時の守護者二見至尼なるもの（機宇高顯凡慮に過ぐ時人稱して梶木姫の再來ありといへりし由）夢相に基き北國より悦堂禪師を請じて開山たらしめし以來輝元に至るまで數代先格によりて扶護したりしが、慶長十四己酉年諸堂残らず祝融の災に罹り重器諸記録の類を失ひたれば纒に難を免れたる本尊佛と開山の像とを荷ひて廣島城下に出で寺地を給せられん事を願ひ遂にこの地に建立したるありと、開基梶木媛及び二見至尼をはじめ當寺歴仕九代迄の墓は舊跡安宿村にあり又今に傳來せる所の洞景山聖光寺十一面觀世音菩薩起と題するものに當寺の縁記を詳述せり

東寺町を南に下れば道路川流に沿ふて御幸橋の側に達すべくこゝにて大手街道と合し宇品に通ずるあり

◎廣島起業會社 東寺町にあり保田井東合名會社にして網具類の製造所あり

◎廣島魚市合資會社 平田屋町中の棚にあり資本金壹万五千圓にて生

魚問屋を業とせるあり

中島部

〔元安川以西本川以東の間にして北は慈仙寺の鼻に起り南は吉島新開に至る、この一田は川と海とに限りて、恰も一島地を爲せるなり〕

◎元安川 三篠の流れ城西に來りて二派となりその東なるもの即ち元安川にして兩岸は人家を以て満たし瓦葺巨簷相連り白壁高樓清波に映じて最も盛況を極む而して水は深く平時と雖も家礎を隳し船舟常に岸にかかれり

◎元安橋 國道の往還に當る要橋あり長さ二十八間幅四間木橋にして鐵欄あり本川橋と並びに行人雜沓する事諸橋中第一たり、此橋往古毛利元就の男大藏大輔元康とて城南に住しその地を元康通りと稱せし所にありしを今の通りに架替へたるものその名こゝに基き後字を改めたるありと、廣島商業の中心は此橋の前後に當り四時晝夜の別ちなく頗る繁昌を極む

◎相合橋 元安橋の上手に架せり幹流の元安、本川兩派に岐るゝ所に

廣島案内

して東西に二橋相連れり故にこの名あり、橋上に立ちて北面すれば右に廣島城を望み左に佛護寺の大厦を見るべし

◎其他 この河元安の下に新橋あり大手町四丁目より天神町に架せるものにて四丁目新橋と稱す○萬代橋 は大手町七丁目より水主町に通ず縣廳通路に當れるが故に俗に縣廳橋と稱せり長さ五十二間幅二間三尺にして縣道に相當す○明治橋 又その下にある東岸は九丁目にして西岸の水主町とす、この邊りは海江に程遠からず満潮のときの如きは眞帆片帆波に映りて觀望また風趣あり

◎廣島縣廳 水主町にあり地域南北に延びたる長方形を成し総坪數三千九百七十四坪あり、東より通ずるを正門とし北側にあるを通用門とす建物大凡千十五坪あり、境内に樹木多く正門外側には槐樹林然たり明治十一年の創建あり

◎廣島縣會議事堂 廣島縣會議事堂は縣廳の南隣にあり境内五百八十四坪にして建物は総て二百七十七坪餘明治十一年の建設とす

◎中島尋常小學校 縣會議事堂の手前にあり建物新らしく明治三十三年三月竣工式を舉ぐ構内総て千三百七十六坪あり

◎廣島度量衡器造合資會社 水主町縣廳前にあり貳万千圓の資本にて三器の製作販賣を營む三十年二月の設立あり

◎廣島稅務署 縣廳通用門と相對せり

◎廣島市會議事堂 縣廳の北手にあり地は中島新町にして建坪九十六坪、二階造りにて樓上を以て議場とし事務室及び控席は樓下に置かる

◎廣島市役所 議事堂と相並んで建てらる、敷地の廣さ大凡二十七間に十八間あり

◎廣島縣病院 市役所と相對し縣廳の西隣に當る境内二千六百餘坪建物總て千三十餘坪あり母屋の三層樓にして病室も多くあり、近時改築して面目を新にしたり土地高燥にして本川の下流に沿ひ又院後に公園を有して樹木多く頗る適當の場所たり

◎與樂園 一名水主町公園といふ縣病院の背後に當り之が附屬地たり

園門は縣會議事堂の前より通ず往時淺野家の別邸たりしものにて中央に巨大の池を穿ち中に島嶼を築き池を遶りて小丘を設け曲折致趣を引く、池畔に崎石巽岩多く中に一の大なるもの臥牛の如きあり碧色にして光澤あり藩主之を移すに千石を費したりとて千石石の名あり、園の左右は樹木生茂り老松矮樹皆愛すべく又園内梅林あり胡枝花あり花候共に賞観するに足る、此園平時は門を閉じて人の入るを禁じ日曜日并に大祭祝日を以て庶人の觀覽を許す境内の廣さ殆んど四千坪に近し

◎住吉神社(彌市ヶ島) 水主町の西岸河水斗入して陸地を限れるのどころ老松枝を垂れて長への翠水波に映するの間に祠堂あり住吉の神を祭る、この地與樂園の地續きにして南の海島を望み西に神崎の景勝と對し雪朝月夕殊に愛すべし岸に渡船場あり神崎に渡る、この松原を彌市ヶ島と呼ぶ(彌市とて船番人の居りし故名く)古へより望海の景に富めるを賞したる由

◎廣島監獄署 水主町の下吉島村新開にあり河を隔て、江波村と相對

す構内の廣さ二万八千九百餘坪あり繞らすに高壁を以てす遠く之を望めば恰も一城廓の如し、構内に拘留監、既決監、及び諸工場、農業園等あり結構殆んど關西に冠すと稱せらる

◎廣島板紙製造合資會社 は吉島村にあり明治三十年の創立にて資本金八万圓、板紙の製造販賣を業とす

◎廣島製荳株式會社 水主町にあり二十六年を以て起り花荳の製織を營む資本金は參万圓たり

◎後藤内科病院 水主町縣廳前にあり院主は醫學士後藤武彦にして外に數名の醫員藥局員あり内科を以て専門とし病室を有して入療を許す

◎齋藤病院 東本川にあり院主は醫學士齋藤爲信たり全科を診療す是また病室の設けあり

◎天満宮 天神町に鎮座の天満宮の正殿に菅大神を祀り和殿に人丸神白太夫を祀る、當社ははじめ高田郡吉田の庄にありて毛利元就郡山に城くや殿かに社殿を造營して鎮守神と名し崇敬したりしを後輝元廣島に移

るに及び遷座してこゝに七十間四方の社地を定め町内を所屬とし且三百石の社領を給したりと、慶長の頃上下船町と稱したりしを天満宮を鎮祭して名を改めたるあり後淺野氏の代にも尊信淺からず毎歲一回當社に於て連歌興行の式例ありしと云ふ

○誓願寺 材木町にある巨刹なり浄土宗西山派准檀林にして紫雲山と稱す當寺の開基は惠空上人とて三河國松平某の出るるが天正年間毛利輝元の歸依により當國に下りて地をこゝに相す、その頃この地一面淺洲にて蘆芽生茂り居りしを扁舟に棹して細張を爲し東西八十間南北六十間を限りて境内と定め土を盛り地を固めて伽藍を建立せしまりと、而して功竣るの日京都本山誓願寺傳來の天智天皇御宸筆ある誓願寺三字の敕額を賜り本山別院とあり後陽成天皇の勅願寺と定められけり、當寺は建物宏壯境域廣潤なるの故を以て舊時ハ藩主の公用寺として其の外護を受け別段の寺格を有したりしと表大門は桁五間梁三間にして安政元年の建築なるがこの門の廣大なるハ人口の最も膾炙するところ又國泰寺佛護寺

と並稱して廣島の三大伽藍と稱す、境内に鐘樓高く聳へ又鎮守堂あり伊都伎島姫尊を祀る祠前に池泉あり形 瓢の如く海潮の干満に依りて水増減す、寶物の中天智帝の勅額、惠信僧都の筆曼陀羅掛物、唐筆の涅槃會掛物等最も著名のものありと

○住友銀行廣島支店 ハ中島本町にあり洋館造りにして結構の堅牢壯麗あること第一たり

○廣島銀行 中島新町本川筋にあり二十九年の創立にして資本貳拾万圓、株式組織たり

○廣島貯蓄銀行 同町にあり六万圓の資本にて二十八年の設立あり

西 部

(本川以西天満川以東の間をこゝに挿む)

○本川 又一に猫屋川ともいふ太田川六派の幹流なるが故に本川といふあり、水深く楫舟に便あること元安川に異ならず下流河原町の河岸に船舶常に繫泊して帆檣林立せり

○本川橋 中島本町より塚本町に通ずる橋あり鐵橋にして長さ四十間

廣島案内

幅四間明治廿九年九月工を起し翌年十一月二日竣工を擧ぐ、之が工費総額四万三千五百七拾餘圓を要したりと云ふ、橋の西塚本町、堺町等には大夏簷を接し概ね巨商たり又西本川堤防筋にハ米穀問屋最も多し、この橋亦一に猫屋橋と稱す廣島開基の始めは此所に橋を築く今の國道筋より北に往還あり之に架して楠橋と呼びしを天正年間改めて塚本町へ架換へしものにて當時猫屋九郎右衛門兼鎮といへるもの自力以て造り十二子(或は曰く男女各六人)を携へて渡初をなしけるより橋の名とされるありと

◎新大橋 本川橋の下流に當り中島新町(東本川)より西地方町(西本川)に渡せる橋あり是亦行人雜踏せり

◎廣島商業銀行 塚本町西本川筋の角にあり株式にして二十萬圓の資本たり

◎本川尋常小學校 鍛冶屋町にあり廣さ六百七十五坪あり、校側より相合橋に通ず

廣島案内

◎廣島度量衡器株式會社 は鍛冶屋町にあり度量衡三器の製作修葺販賣を業とす三十年三月の設立にて三萬圓の資本たり

◎空鞘神社 空鞘町にある村社にして宇迦之御魂神、宇氣母智神、和具産毘神の三柱を祭る又相殿に天津日高日子穗々手見命其外四神を祀れり、本殿は二間に二間半、祝詞殿方二間、幣殿三間三尺に二間半、神樂殿二間に五間、拜殿二間に五間あり、當社は毛利氏築城以前より此地大小二社あり大社を空鞘明神と唱へ小社を彦三之神社といひたりし由、寶物の中大盃一個あり漆器にして能登國輪島木地屋八兵衛の作ありと而して嚴島神社、白神社に各一個宛あり合せて一組とあるありと云へり

◎光道館 眞宗圓教部の設立にかゝる私立小學校にして猫屋町にあり

◎寺町 國道筋の堺町二丁目より別に北に向ふて通せる道路あり縣道にして出雲大社道たり、之を進みて商家櫛比の境を過ぐれば西側に寺院白壁を聯ぬるを見るこれを寺町とす寺院の數總て十三箇寺いづれも眞宗たり就中有名なるを佛護寺とす

◎佛護寺 寺町の東北端にあり真宗西本願寺派に屬し市内第一の大伽藍たり勅許院家の格を有す、元は天台宗にして長祿年中の創立にかゝり開山を僧の正信とす、正信は甲斐國武田氏の一族にして俗名を原田豊五郎政信といひしが嘉吉の頃雉髪して僧となり甲斐の山中に草庵を結び佛護庵と名く、後長祿元年西遊して安藝の守護武田刑部少輔五郎義信の銀山城に錫を寄せしに義信の正信と從兄弟の間柄なるを以て遂に止めて一字を銀山の麓龍原に建立し始めて佛護寺と名けしめたるなり時に同三年ありき、斯くて二世を圓誓（武田刑部大輔信守の男源二郎胤康とて正信の甥あり）とす甲斐より來りて跡を繼ぎ蓮如上人に歸依して真宗に改めぬ、後毛利氏廣島を開きしに及び當寺を小河内町（今の三篠村の内）に移す時に當寺五世の住康順の代ありしが毛利氏長防に移り福島氏入國するに及び慶長十四年城市北方の要害として地を今の所に給し再び徙したるなり寺域三千二百五十二坪あり堂宇頗る莊嚴を極む、又寺内に芥川貞佐の墓あり貞佐は人爲り卓犖不羈にして奇才あり狂歌を能くして門人千人に

及ぶ傍ら妙劑を調合して之を人に施し一切謝儀を求めず安永八年八十一歳にして死亡したりと、辭世に曰く

死んで行くところは可笑し佛護寺の

犬の小便する垣の元

◎廣瀨神社 村社廣瀨神社の廣瀨村に鎮座す正殿市杵比賣命、多岐理比賣命、多岐津比賣命を祭り相殿に天照皇大神、須佐之男尊、神日本磐禮彥尊を祭る、當社は安藝國一の宮嚴島神社の配祀にして最も古き勸請なりと云へど其の年代詳みらず、天正年間毛利輝元之を尊宗し社領五拾石を附したりと、其の頃廣瀨市杵島大明神と唱へしを享保の頃廣瀨大明神と改め後又明治六年今の名に改めたるあり、往昔正徳年間當社は尾長東照宮の御旅所となり爾來明和文化の間此例を存し大祭の節毎に當社の修復銀納の事ありし由、境内地六百六十六坪老樹深鬱たり

◎洞春寺河原 廣瀨神社堤外の砂原を洞春寺河原といふ、洞春寺は元毛利輝元吉田在城の頃先考洞春公（元就の諡號）菩提のため建立せしもの

にて筑前聖福寺湖心禪師の弟子嘯岳(諱を虎といふ)之が開基たり、後廣島移城の時この寺をも移し來りて今の廣瀬神社の近傍に建てたりしを毛利氏防長に遷るに及び寺も又移されたるなり、今の字蓮池といへる所は元寺内にて東西十間南北十七間許の蓮池ありし地ありと云へり

◎廣島織物株式會社 廣瀬村にあり參万圓の資本にて三十年一月に起業したるもの綿布を織りて販賣するを業とせり

◎廣島合資ミルク會社 同村にあり五千圓の資本にて牛乳搾取販賣を爲せるあり

◎瀨良鐵工所 同村にあり堺町瀨良嘉助の所有にして鍋釜その他盛んに鐵工に従事すといふ

◎横川橋 佛護寺の上に架す川は三篠川より分岐し西流して天満、川添の二派に分る、橋の長さ三十四間幅二間五尺あり之を渡らば即ち安佐郡三篠村たり、例によりて筆を少しく郡部に進めんこの邊りは人家軒を駢べて商家多く殊に旅人の雲石二州をはじめ縣下の北方より來るもの

皆道をこの街道に取るが故に往來常に雜踏せり

新秋遊横川途中作

坂井虎山

午熱炎々不可行 早興欲及曉風清 雲遮天水迷前渡 雨擁金山是古城 幾樹槿花分曙色 千家梧葉送秋聲 來遊亦識長途苦 與在歸舟一片輕

◎横川停車場 山鐵横川驛は横川橋の北凡そ三町にして達す構内総て五千七十二坪ありと、明治三十年九月廿五日を以て開驛したるなり廣島四驛の一にして荷客の集散また常に多し

◎佛教中學校 三篠村字大芝にあり安藝國眞宗崇徳教社の管するものにて僧侶を養ふを目的とし進徳教校と稱したりしを本年を以て普通學をも授くる事とし名を改めて佛教中學校と稱しぬ

◎廣島倉庫株式會社 は三篠村字楠木にあり資本金拾貳万圓三十年十二月の創立にかゝり倉庫業及び運送業を營む

◎三篠村尋常小學校 縣道筋を少しく東に距たりしところあり

◎黒王神社 横川驛の北一町にして縣道の西に鎮座す大國主神、大歳

神、猿田彦神を祭り村社たり

◎淺野家墓所 三篠村字新庄に淺野家の別邸あり山は高からざるも極めて風光に富み園庭瀟洒たり、山中に同家の墳墓あり舊はこゝに神應院とて寺あり庶人詣ることを得たるも今は然らで平時は閉して入るを許されず

◎三瀧 同村大字新庄小字三瀧に瀑布あり勢ひ大らざるも水質頗る清し、深淵に觀音堂、天神社あり山色幽邃閑雅にして夏時避暑に適し杖を曳くもの多し、新庄山は谿深く樹木繁茂せり廣島名産の一たる松茸はこの山の産を稱美す

◎宗固松 新庄山の頂上に大樹あり宗固松と呼ぶ昔し藩老上田主水入道宗固利休の流を汲み流風自ら樂む、遠見の景色にとてこの松を植ゑその近傍の小松を伐拂ひたりと

古への風雅にのこる宗固松
優し姿によそへ見るかゝる

(讀人しらす)

◎武田山 一に銀山といふ縣道の西方山木村字東山本に笠ゆ、武田信光五世の孫信武足利將軍に従ひ當國の守護となりて此山に城き傳へて三子氏信に至る、氏信の孫信榮若狹を加封し其の弟信賢繼ぎ二子元綱亦治せし所たり、山左程に高からざれど谿深く險峻あり頂きや、平坦なるも今城墟として存するものあり、昔は地を掘りて刃屑鐵片武具を見ること往々ありしと云へり此南に茶臼山笠ゆ

銀山之歌 銀山武田光利所據、高坂井虎山

君不見銀山南對高松峯、古壘摧殘蔚杉松、兩山爭秀不相下、憶昔酣戰武興熊、熊郎兄弟皆梟勇、千秋不墜乃祖風、武郎二十力無敵、金戈鐵馬氣如虹、横川一敗恨未盡、吾怪于今風雨雄、可惜當時無遠畧、兩虎相爭有何功、徒令江公坐收利、十州忽已落掌中、爲君遙起鶴蚌嘆、江上漁歌夕陽紅

◎八木の梅林 當郡八木村に梅林あり廣島を距る凡そ三里許、道に祇園村を過ぐ戸數二百戸ばかり連繋の街あり、こゝに祇園神社、農事試験

場山陽支場等あり、八木の梅林は麥隴の畦畔にありて又米溪の稱あり、
黃鵬春を告ぐるや溪風馥郁を送り樹枝槎枒として清姿賞すべし、花下蓆
を設けて村釀野肴を嚮く凄涼却つて俗をみらず雅人遊ぶもの多し
八木村に大山横はる阿生山といひ絶頂まで三十六町、群雄割據の時代香
川氏この山に據りしなり俗に八木の大山といふ、この麓を過ぎ一里なら
ずして可部町に達す

過漢辨漢辨者
可部也

頼杏坪

二安會判安岐郡中古分安岐
爲安南安北

形勝豐饒冠一州

官鐵開鑪鑄農器

野蠶成繭織山紬

落花溪步春風馬

短棹輕劃暮雨舟

來往幾回過

郡部はこれにて止め更に市内に戻りて國道以南に移らんに堺町筋の南は
西地方町、小網町、舟入村等にて花柳の街なり、西遊廓こゝにあり廓の
近傍は概ね料理商多く歌舞音曲の賑ひ常に絶わざるあり
◎六十六銀行廣島支店 株式會社六十六銀行廣島支店は西本川にあ

り之が本店は備後尾道市にありて百万圓の資本あり

◎廣島綿絲紡績株式會社 河原町にありて貳拾万圓の資本たり、明治
十四年の設立にして今工場は佐伯郡小深村にあり綿絲製紡販賣を業
とす

◎矯衛貸地株式會社 小網町にあり西遊廓の地主營業にして八千七百
圓の資本あり廿八年三月の創設とす

◎神崎 河原町の南、江波村に差掛る邊りを神崎と稱す本川の水將に
海に注がんとするの涯りにして若それ三春天 切かあるの日杖をこの邊
に曳かば翠柳岸邊に搖き麥隴波紋を生じて景愛すべし古人また神崎の夜
雨を賞したりき

◎江波村 神崎を下れば江波村に達す河流水海に注ぐのころ海に沿ふ
て聚落を成す村の東南に聳ねたる一脚角を丸子山といふ（不動堂あり丸子の
不動と呼ぶ）西岸は山を以て囲めりこれを江波山と名す戸數凡そ三百餘戸
民概ね水産業に従ひ農を以て副業と爲すなり、廣島名産の海苔并に牡蛎

は多くこの村より出せり、故人詩ありその數句を抄録す

藝南江村竹枝(抄出)

頼 杏 坪

白髮爺々勉夜漁 五更携返滿藍魚 妻兒頭上輕於笠 戴去城東第一墟
 青裙一隊戴盤行 盤重翻知歩々輕 商界得錢多少數 妻兒頭上足權衡
 爺但知漁他不知 婦妻專任小生涯 去時魚蟹來時米 戶々青裙好支度
 江上編篋各里餘 一箕自勝百管漁 潮來潮去是誰力 一日兩回收萬魚
 春潮退後日猶長 村婦携兒撈蛤螃 兒收細碎班文殼 盛着乾枯大蟹筐
 種蠔田疇糞是潮 晨昏引灌自豐饒 經秋多作驢蹄大 誰信蒔時豆株苗
 豈識種蠔優種稻 江民尺地動爭田 漁租如紙蠔如玉 一入京華直萬錢
 織籬河水海潮隈 亂髮青黏籬上苔 香味何須待深柴 新脯日製幾千枚
 この地古へより雅人墨土の杖を曳くもの少みからず頼山陽花朝月夕常に
 よくこゝに遊びたりといふ、旗亭山文といふあり山陽醉餘戯れに書した
 りとへる看板を藏す尺餘の木片「白魚有り」と記されたるを見る
 ◎衣羽神社 江波村大字下山に鎮守の村社なり創立年代詳かからざ
 るも一千年以前の勸請請あること古書を參巧して知る事を得といへり、

祭神は多祀理毘賣命、多岐津毘賣命、市岐島毘賣命にして又相殿に大倭
 多津見命外諸神を祀れり、古へは衣羽明神、江波明神、長門島大明神と
 稱し國應の祭社三位たりしと、當社山頭の平頂に相撲場并に大鼓松と稱
 する古跡あり昔時祭社の際此松に太鼓を吊して相撲を興行せしなりと、
 社邊は樹木森々として幽趣あり山上は眺極めて富嶺にして東北は遙に
 城市屋瓦の鱗次を隔て、遠く安藝安佐の崇嶺高峯を望むべく西南は海に
 面し蕪灣の大島小嶼相接して綿亘起伏し淡瀾の間防州の山亦望むべし、
 又嚴島の翠巒は只指呼の前にあり斯かる眺めあるが故に春秋の候散策す
 るもの少からず、境内の廣さ二百七十四坪末社に須佐神社、住吉神社、
 惠美須神社を合せるもの及び天満宮あり
 ◎江波尋常小學校 本川尋常小學校の分教室ありしが三十三年四月
 一日より改めて獨立の一校とせしむるなり
 ◎陸軍射的場 當村にあり此邊り紫雲英多く咲けるが故に「げんげ座」
 と稱し春日市人の遊行するもの多し

◎廣島製油株式會社 舟入村にあり資本金六万圓にして種油、白搾等の製造販賣を業とす

最西 部 (天満川以西の地を茲に出す)

◎天満橋 天満川に架せる橋にて堺町四丁目より天満町に通ず長さ三十二間五尺幅四間、橋西より道路漸く狹隘なり町の南を觀音村とす一望田圃の西南端に一聚落を爲せり、觀音堂あり沖の觀音と稱す秋夕觀月に佳きところあり

◎天満町尋常小學校 天満町の北裏にあり構内九百七十九坪あり

◎天満宮 天満町國道筋の北側に天満宮を鎮祭せり、此町昔時小屋町といひしとき火災度々あるより水に因みて轉馬(舟の名)町と改めしを天満と書く様にあり次で菅大神の靈を祀りしものなりと

◎向西館 天満町の北裏に當る地は安佐郡三篠村字打越に属し火葬場たり茶毘の煙座ろに人生の無常を感せしむ

◎廣島觀榮合資會社 觀音村にあり資本金四千圓の會社あり

◎川添橋 天満橋より川添村に渡るの橋なり長さ七十二間幅三間一尺川を川添川と名く幅廣げれども平時は水少く河身常に現はる、これを渡れば松原あり

◎大師河原 村の北方字小河内に大師堂ありこの邊りを大師河原と名く弘法大師の縁日頗る雜沓するを以て聞ゆ

◎己斐橋 川添村より通ず橋の西は則ち佐伯郡己斐村たり、川を山手川と稱す源を安佐郡伴村より發し太田川の支流と合して南流するあり平時は水少く楫舟の便るきこと天満、川添と同じ橋の長さ四十間巾三間二尺あり

◎百花園 橋を渡り二町ならずして達す一小丘にして桃李梅櫻を栽植し眺望甚だ富めるが故に四時登るもの鮮みならず、春陽の候最も遊ぶべく又雪の朝の眺め佳なり

◎茶臼山 百花園の後山を茶臼山といふ元龜天正の頃己斐利右衛門貞員こゝに居城し平原城と名けたり山上平坦、廣瀾にして寒栗の趾今に顯

然たり、築傍に小祠堂あり天満宮を祭りしところにて平原天神と稱したりし由、傳へいふ貞員の妻女は新里又右衛門の娘にて大力無雙ありしが七十五人かゝりて動かぬ石を両手以て輕々と指上げ谷底に投じたりけるに貞員却つて其の怪力を疎んじ是より夫妻疎隔を生じたりとるん、又この北に武田山と相隔て、岩原城址あり己斐豊後守直之とて強勇の武將ここに居りしものありと俗に之を大茶臼といふ

◎己斐停車場 國道の北にあり此の邊古松駢立林を成せり己斐の松原といふ、山陽鐵道の己斐驛こゝにあり構内の廣さ三千七百五十二坪、横川驛を距る一哩半の西なり

◎己斐の瀧 己斐橋より茶臼山の麓を廻り北に入る約二十町にして瀧あり觀音を安置す夏候遊ぶものまた多し

◎源範頼の墓 浦の御曹司範頼の墓ありと稱するもの古田村大字古江小字岡山といふ所にあり範頼は五日市三宅村にて卒せしに遺言に備前岡山へ葬れど有りけるを誤りてこの岡山に葬りしなりと傳ふ

◎草津の梅林 佐伯郡草津村は廣島を距る二里半山鐵の五日市驛に下車せば跡戻りすること一里に滿たず、梅林あり南面せる丘上樹概ね雅くして老幹槎枒たるもの少なしと雖も淡江濃白衣袂に薰じ殊に丘下は直に一眸の海洋にして穩波鏡面の如く漁舟泛々鷗の遊べるが如きその景眞に賞すべし、山上料亭あり梅山亭と號す平時山を開かず花候到りて始めて人の觀るに任すあり、近傍に草津の大石餅とて名物あり

碧海氣溢万頃風 春光早已入梅叢 漁舟橫在柳邊岸

人睡暗香千斛中 武井淡山

◎樽ヶ鼻 この村梅邊に樽ヶ鼻とて少し崎を爲せる所あり、往古神功皇后三韓征伐の砌りこの所に船もやひして將士を犒はれたるに因ると、又或る記録に源判官義經平家を追ふや此所に於て軍兵に酒を侑めしが故ありとも見たり

◎井口の海濱 草津を過ぐれば井口村にして海濱の景佳絶なり岸近く海中に小島あり岩上に小祠を安す井の口古久伊の明神と呼ぶ、昔時この

村より南は峻悪なる山路にて行人甚だ難澁せしを維新後海岸に沿ふて新路を開きたるものあり、依つて碑を建てその功績を後世に傳ふ
宇良安く行かふ道をつくりしと

濱の眞さこの盡きぬいさをや 伯爵 千家 尊福

◎北條氏直の墓 古田村字古江の方箭山海藏寺に北條左京太夫氏直の

墓といふあり昔毛利氏吉田に治せし際氏直過失あり祖父氏政怒りて毛利氏に預けゝるに逗留中抱瘡を患ひ天正十九年十一月終に没したるありと(論號を白翁宗靈天居士といふ)時に海藏寺は毛利氏の管するところにて庵室たりしと云へり

◎陶晴賢の首塚 觀音村字佐方の洞雲寺に陶尾張守晴賢入道全蓋の首塚あり毛利元就彼れを嚴島に戮し首級を此寺に葬りて冥福を修したるあり、又同寺にはこの外櫻尾城主毛利治部少輔四郎元清(慶長二年)并同室

の墓、柱能登守大江元澄の墓(永祿二年)あり、金岡水、鷲の森等の古跡名所また境内にあり當寺は二十日市驛を距る北方僅に數町のみ

◎廿日市天神社 同町字篠尾山にあり往古源實朝嚴島明神を尊信し高倉院の別當齋院の次官親能の男周防前司親實を下して神職たらしむるに當り親實櫻尾山に在城し管神を篠尾山に鎮祭して主護神と爲せしにはじまると云ふ、境内觀望極めて曠漠一勝地たるを以てこの地に遊ぶもの必ず登るを例とすといふ

◎極樂寺の觀音 廿日市の北一里にあり山を極樂寺山(一に觀音山)とい

ひ直立二千一百尺の峻山にして眞言宗極樂寺に千手觀世音を安置すこれが山緒を尋ぬるに天平九年行基、人皇四十六代聖武天皇に奏請して七堂伽藍を建立し天皇勅して永く聖朝寶祚の御祈願所と定め玉ふこれを當山の開始とす、後空海登山して伽藍を修理し供養するところあり、文治三年本尊の由緒天聽に達し後鳥羽天皇深く御崇敬あり勅詔ありて國家鎮護の道場とあり同時に上不見山淨土院の扁額を賜ふ、又勅して西郷法師を登山せしめらる此時諸堂伽藍の御再建あり法師咏ずらく

駿河なる富士をば安藝にひきかへて

土見ぬ鷲の山のたふごき

其の後天文の頃陶尾張守晴賢二に籠城して諸雄と對峙し干戈を交ゆること數年同き十年四月遂に兵火にかゝりて山門を殘すの外悉く灰燼に歸したるを永祿五年又再建し毛利氏深く信仰せしよし、天正年中御室宮一品仁助法親王嚴島御止住中屢々御參籠ありて三密瑜珈の秘法を修せられ又其の御願により二月朔日觀世音供養を營ませらる今に及び毎歲舊曆同日の縁日に遠近男女嶮を冒して登山するもの多きは蓋源を法親王に取るといふ、境内の地上不見山と稱し七千二百坪あり、縁起一卷(天正年間山主若然の筆)後鳥羽帝震筆の扁額及び異空上人筆の觀音名號を寶物として藏せり

◎地御前神社 地御前村字南町に鎮座す祭神の

田心姫命、國常立尊、天穗日命、活津彦根命、市杵島姫命、天照大御神(以上正殿)、正哉吾勝々速日天忍穗耳尊、湍津姫命、素盞鳴命、天津彦根命、熊野樟日命(以上相殿)

にして當社は推古天皇の元年嚴島神社と同時に營まれ嚴島の外宮たり、寶曆五年火災に罹り殿宇悉く烏有に屬したりしを翌年五月本社大宮及び客人社を再建し同じき八年藩主淺野家の寄附にて拜殿を造營せられたりと、往昔仁安の頃は殿宇樓堂總て十九宇あり木造檜皮葺にて壯觀を極めたりしものあるが災後次第に殿堂を滅縮し維新の後嚴島神社に合併の沙汰ありしを村民の請により同村に下附せられ舊跡を保たる、事ごありしあり、境内の地四百七十九坪、地勢平坦にして北方は山脈を背ひ南面して海岸國道に沿へる浪打つ際にあり古へは風致秀抜にして郡國の美觀たりしと云へり

己斐驛より五日市、廿日市の二驛を経ば宮島驛とす、大野村字赤崎にして嚴島神社のこの對岸あり、赤崎にの棧橋の設けあり瀛船の航海七分時にして達すと云ふ

◎宇品港

は近年築調したるものにして元來廣島の地は所謂三菱洲よ

港 灣 部 (宇品港井近傍の島地を總てこゝに収む)

り成立したるものなれば既に成立の後と雖も太田川の土砂歳々流出して南方次第に埋れその海に注ぐところ淺沙縦横して潮水乾くときは舟路ために絶わ瀛船の定期海上に來るあるや遠く舩舟を出して貨客を迎へ會ま干潮に際する時は舩舟沙上に膏じて潮水の満つるを待ち始めて河川に入るを得るに過ぎず又瀛船に乗らんとするものも潮の干満に依りて時機に後るゝ事あり志ある者以て憾みとみせしが時の令尹千田貞曉大にこゝに着目し有志者と謀りて此大工事を計策し經營慘憺蹉跌を重ねたる末今日を致せるものにて實に明治十七年九月始めて工を起し同二十二年十一月竣工せしものあり、其の間人夫を役すること百餘萬人、資を投ずること實に三十四萬圓、沿岸の延長凡そ二千九百二十五間、地面は畑地宅地堤塘を合せて六十二萬坪(内譯市街宅地四万六千七百五十坪新開地五十一万三千三百餘坪道路堤防六万八千坪)あり竣工式の時には御名代小松宮殿下御臨場ありて親しくその式を擧げさせらる

港内水深く干潮のときと雖も尙十間を測るべく石を疊みて波止場を築き

廣島名所

以て風波を防ぐ、岸上には商店軒を連ね行旅の客往來常に絶わす、市街を分ちて海岸通一丁目乃至五丁目、中通一丁目二丁目、北通一丁目乃至五丁目、御幸通一丁目乃至十七丁目并に大河通り、西堤防通り等とす

◎御幸松 海岸通り三丁目にあり明治十八年の車駕臨幸を紀するため栽植せしものあり、又卅二年東宮殿下の行啓を紀するため更に一本を植ゑたり之を第二御幸松と稱す

◎廣島水上警察署 は海岸通五丁目にあり構内廣さ凡そ四百五十坪にして建物八十八坪餘あり○宇品税關監視署構内に設けらる

◎陸軍補給廠宇品支廠 元の海岸通り六丁目以東海岸線に沿ひて陸軍用地たりこの構内に臺灣補給廠宇品支廠并糧秣廠、患者集合所、軍用宿舍、軍用棧橋等あり

◎宇品停車場 陸軍用地の北方にあり宇品廣島間の鐵道は初め明治廿七年八月軍用のため布設せせられしを後、三十年五月山陽鐵道會社拂下げを受けしものあり構内の廣さ五千四百五十坪

廣島名所

◎宇品郵便電信局 北通四丁目にあり明治二十七年の開設にして三等局たり

◎廣島棧橋株式會社 海岸通三丁目にあり明治廿二年一月の創設にて通行料徴収を營業とす總資本五万圓たり

◎宇品魚市株式會社 海岸通二丁目にあり資本金壹万圓にして生魚類の賣買を營業とす

◎鐵工場 三ヶ所あり向宇品にあるを黒川鐵工所とし北通二丁目にあるを清田鐵工所といふ共に船舶の修葺その他鐵工の業盛んまりといへり又古賀鐵工所は御幸通六丁目にありて鑄物を主とすと

◎神田神社 御幸通の東手水面に築出したる陸地に祠宇あり神田神社といふ、足仲津彦命、品陀別命、息長帶姬命を祭り又相殿に天照皇大神その他諸神を祭る、舊安藝郡牛田村宇神田に鎮座せしを明治二十二年ここに遷座して宇品町の産土社と爲したるあり

◎宇品尋常小學校 神田神社と隣接せり

◎宇品島 宇品港の西に横はる島あり宇品町西堤防より通ず周閉凡そ二十七町山低はれど樹木茂密せり、島の表に觀音堂あり遠近の眺瀾に富む、石川丈山嘗て此島に遊びし詩あり曰く

巒々絶島 屹々遠山 蟬噪樹上 鷗睡波間 風月無邊塵外境 晚來江上喚舟還

夏時島の南端に海水浴場を設く、觀音堂は臨濟宗妙心寺派に属し十一面觀世音を安置す大同年間坂上田村麿の作にて堂宇も亦同將軍の造る所なりと傳ふ、明治十二年院號公稱を許され補陀洛山觀音院と號せり、境内の坪數二百八十一坪この邊り眺望佳にして前には宇品灣を控えて大船巨艦來去の景、阜頭貨客雜沓の狀目睫の間にあり又背後には江波沖探貝釣魚の椽樹間に隱見すべく眞に畫圖の如し、堂前題すらく

きく人は迷ひの夢もさめぬらん
ふたらく山の松風の音

◎似の島 宇品島の南凡そ一里にあり安藝の小富士といふものこれ

あり、この島の東岸に陸軍検疫所の建物あり、藝備國郡志に古は二の島と稱す後世島の形富士山に似たるを以て字を改めて似の島と號す二と似と倭語相同じきが故なり一説に島の形箕を倒まにせしに似たるの故に箕島と號すと云々

◎津久根島 宇品より嚴島に航するの途中草津の沖合に椀を伏せたるが如き一小島あり津久根ヶ島といふ山上に石碑あり、傳へいふ古へ佐伯郡の海濱に一旦温泉湧出でしかば此處を號して湯蓋と稱す、この近隣に豪巖あり道空といひて時に嚴島の客人社積年頽廢し雨漏り露濕へりしを資を捐て、改修せし由、茲を以て道空の死後嚴島の人碑をこの小島に建て以て祭りしなりと道空没して後温泉もまた枯涸したりと云へり

廣島の四季

◎一月 元旦、門松注連飾を爲し若水を汲み雑煮を炊き上下貴賤とも新年を祝して年始の廻禮を爲せば帽光劍影相映し綾羅錦繡春風に翻

りて車馬織るが如く市中の雜沓名狀すべからず、宮中にては四方拜の御式あり官署學校るど皆先拜賀式を擧ぐ○二日には各商家の賣初めあり未明より若風呂を呼ばふ聲々勇まじし、試筆、謠初め、彈初めるど各家何事も手はじめを爲す○三日は元始祭あり、御慶の客の往來ふこの三日が間を最とす○四日は御用始めにて諸官衙何れも開廳す○五日は新年宴會にて宮中にては皇族大臣以下百官に酒饌を賜ふの例あり、官人ども一堂に會して宴を開くが多し○松の内は七日までにて此日を以て門松、五七三飾を除くあり○八日に陸軍始めの事とて師團の觀兵式あり練兵場賑ふ○十四日は左義長とて松の内の飾物を囃し立て、河原に持行きて焼くあり「日の本やたうとこしはやす左義長哉」(秀吟)○三十日は孝明天皇祭あり未だ寒の中なれば肌寒けれと休日なるが故に郊外に寒梅を賞するものもあるなり○此地方公けの事の外五節句諸祭例るど大方は陰曆を用ゆるの例にて舊の正月には町家ども三日が間業を休みて子女は戯れ遊び嬉の聲長閑げなり

◎二月 節分立春の前夜即ち節分には家々炒豆を撒き柁、鰯の頭を戸外に挿み魔を防ぎ福を招く、此日恵方詣りをするもあり花柳社會にては老いたるは若き者の、弱きは年長けたる者の擬扮をして祝儀に廻はる慣例あり、夜分は殊の外噪めきわたる。貫之が立春の歌に「袖ひちて結びし水の氷れるを春立つけふの風や解ぐらむ」○十一日は紀元節あり氣候やう／＼暖くありて梅の花真盛りの頃なれば郊外漸く賑ふ一梅一輪一りんづ、の暖かさ(嵐雪)○六日年越は舊曆正月の六日あり嚴島神社に年越祭ありて遠近の参詣者數万を以て數ふ、此夜社頭に於て其の年穀物の豫想相場を立つるの例あり、廣島市にては節分の夜に白神社、廣瀬神社の社頭にて之を行ふ○初寅舊正月初めの寅の日をいふ各地毘沙門天王へ参り福德を祈るあり、當地よりは安佐郡緑井村窟の毘沙門へ未明より詣づるもの多く沿道雑沓す(市内より北方三里を隔て雲石街道祇園より左手に入る)○舊曆十日は十日戎あり當地にては胡町の蛭子社を最とす○舊曆十五、十六日は數入りにて閻魔の賽日あり今日ばかりは餓鬼の首も緩りるとい

ひて小僧やおさんに里歸りを許すの俗あり、淺野家にては此日小町國泰寺舊境内、新川場町正清院舊境内、牛田村日通寺山、三篠村新庄山の墓に諸人の参詣を許す、又新川場町の戒善寺には大幅の六道圖を掛けて諸人に見せしむ所謂地獄極樂の繪あり○梅は草津、八木、海田市の片山等に賞すべく水主町公園、二葉山公園内にもあり、又少し遠路あれど西野の梅林とて三原驛の西北里餘にあり西に嵐山の稱あり道を鐵車に取らば一日にして往復すべし

◎三月 野も山も崩出づるやうありて今日この頃春の野の遊び最いと愛でらるゝあり○舊曆二月の初午には各所の稻荷社賑ふ就中淺野家の泉邸縦覧を許され満都の子女詣でざるはなし、尾長の稻荷社及び稻荷町のも雑沓するが例なり○涅槃は舊二月十五日あり諸所の寺々涅槃會を修す○應匠町の清住寺、中島本町の慈仙寺、堀川町の般舟寺等には大幅の涅槃圖を庭前に掲ぐ近在よりも参詣する者多し○此月十八日より彼岸に入る廿一日の春季皇靈祭に五丁目の神宮にて皇靈遙拜式并に祖靈祭を行

ふ、此日彼岸の中日あれば各寺院は殊に賑合ひ近在よりの人出も澤山あり信心家の六阿彌陀廻りとして比治山の長性院、金屋町の淨念寺、堀川町の般舟寺、下流川町の常林寺、新川場町の正清寺、鷹匠町の清住寺に詣づるあり「彼岸前寒さ一昨夜二夜かゝる」(路通)○舊廿五日は天神忌として菅公薨去の忌辰あれば天神廻りといひて廿五箇所の菅祠を巡拜するものあり五月并に九月の三度とす○中旬ごろ諸々の種物を播くあり○花はまだ少し早けれど摘み草には適すべし尾長、牛田邊りよく又諸新開の堤防に到るべし、狩獵には最も好適の頃にて山にても海にても獵場は多くあるあり

◎四月 三日は神武天皇祭にて府中の瑛宮(皇祖御駐蹕の靈跡)に詣づるもの殊に多し、時恰も櫻花爛熳の頃あれば何れの地にも帽影傘姿を認めざるあり○舊曆二月三日は上巳を祝ひて女の子ある家には雛壇を飾るあり「石女の雛かしづくや哀れある」(嵐雪)この前後は老幼貴賤の差別なく浮かれ咲きて内も外も頗る花かやまり○十日十一日は饒津神社の、十四日

十五日は白神社、鶴羽根神社、比治山神社、空鞘神社、碓神社、廣瀬神社、衣羽神社等市内各氏神に春季例祭あり○嚴島桃花祭舊三月十四、五、六の三日間嚴島神社に桃花祭を行ひ舞樂神能あり渡島するもの多し○大師の縁日舊三月廿一日の弘法大師入寂の日に當れば眞言宗各寺はいふも更なり大師像を安置せる寺院堂庵にては夫々佛事を執行ふ、此日遊山がてらの參詣人多く大師廻りと稱して市内附近にて廿一箇所さては又四國に擬へて定めたる八十八箇所の大師を巡拜するあり、世俗この日を花見じまいと爲す例あれば殊の外人多し、大師の中にては三篠村宇打越小河内のもの最も賑ふ○櫻の嚴島を第一とし市内近傍にては二葉の里、比治山墓地、向字品、府中の長福寺等とす大抵四月初より中旬までが季節あり○大長とて豊田郡御手洗島の内に桃の名所あり満山皆花海水一帯ために紅帛を洒すに似たり海上十三里、花候に際せば宇品より臨時に漁船を航海せしむるが故に一日にして遊ぶべきあり○月の末頃よりの野畑に紫雲英花咲く就中江波村、觀音村及び比治山の裏手と殊に美事あり○

廣島案内

汐干狩は舊三月の中潮を最とし同月末及び四月初め頃最も適候とす江波沖、國泰寺新開沖、淵崎等に行くべし

◎五月 舊曆四月八日は釋尊の誕生日として所々の寺院に甘茶を煮る、就中下柳町の廣教寺、西地方町藥師小路の養徳院及び安佐郡深川の藥師堂參詣するもの最も多し「灌佛や目出たきことに寺まゐり」(支考) ○此頃より市中の夜涼賑ひそむ運動がてら散歩するもの漸く多く墓院師の夜より中島邊りに出だせる花卉百草の植木店最も繁昌す ○舊曆五日は端午節句にて粽團子を作り祝ふ湯屋にハ菖蒲湯をたつ男の子を擧げたる家々にては四月中旬より美々しく鯉幟を樹て、祝ひさゝめくを例とせり ○此月に入りてより魚類野菜ものなご多く出づる様にありて膳頭に美味上るめり、節句前後は麥刈にて農家は多忙なり ○躑躅は泉邸、春和園、萬花園(西遊廓三号地)等に多く又淵崎の西福寺には皁月花美しく咲きてはも賞すべし ○藤の花は二葉の里を第一とし百花園にもあり、又社若花園鶴羽根神社の池にあるもの甚だよし ○踊り初め端午節句の日に三川町最

廣島案内

隆寺境内の稻荷社例祭を行ふこの夜を以て盆踊をはじむこれより漸く夏景色とはなる

◎六月 一日頃より單衣を着る、上旬より梅雨とある ○牡丹、芍薬花開く萬花園に多し、螢は此近傍にては古へより安の螢とて安佐郡伴村字安のあたりに大なるがあり螢狩りはこゝを第一とす、水鶏も戸を叩けば杜鵑も鳴き渡るめり ○農家は田植時にて忙はし、遠近に大田植とて美々しく牛馬を飾り鳴物囃し立て、田植の式を行ふものあるハ此頃あり一老いつゝも早乙女くるふ御田かゝる(景道) ○八十八夜より十月末頃まで釣魚の候なり川魚はこゝにこの頃がよし ○一日には倉守さんの縁日とて材木町の妙法寺に參詣するもの多し ○舊曆五月十五日は妙見さんの縁日にて左官町の本覺寺賑ふ ○同じく廿三日は東魚屋町(中の畑)の稻荷社祭日にて晝夜とも焚香を極む ○同廿八日は細工町西遊寺の不動明王の縁日あり

◎七月 梅雨霽るハ頃より漸やう熱くある、涼納場各所に開け夜を夜る盆踊りあり又勸工場、遊廓るご人の行集ふ地には高臺を架して氷、ラ

廣島案内

ム子るご商ふさま中々に熾んまり○土用に入れば諸所に海水浴始まる向
 宇品にもあり殿島にもあり倉橋島にもあり、その他適宜の海岸に避暑し
 て海水に浴するに場所少しとせず○瀑布の新庄の三瀧、己斐の瀧、温品
 の瀧、不動院の瀧等あり少し遠けれご廣の二級の瀧(賀茂郡廣村)は縣下に
 著名あり、又吳の奥にも二河の瀧といふが有り皆避暑に適す○舊曆六月
 十日は琴平神社の祭日にして市内にこの社多きが中に七丁目及平塚町の
 同社最も雑沓す三月十日、十月十日にも祭禮あるなり○同十五日は水主
 町の住吉神社の祭日なり河上に涼舟多く出づ○殿島祭は舊六月十七日に
 て本市にては橋本町明神濱の殿島神社及び誓願寺境内の同社最も般賑を
 極む、又御供船と稱して尾形を作りて幔幕を張り旗幟提燈るご華麗に
 飾立てたるを川々に浮ぶるの例あり、昔時の殿島における管絃船に隨ふ
 ため前夜川口を出で、渡航するの例ありしが今の彼島にの行かて河を上
 下して囃立つるあり、京橋町、堀川町、平田屋町、元安組、塚本町、猫
 屋町、堺町等の各町より之を出すの例にて互に華美を競へり、この他大

廣島案内

小の遊舟今日を晴れと漕出するもの殆ど河を埋めんばかり、尙河上には或
 は篝火を焚き電光を照し或は煙花を打上ぐるもの兩岸の燈火と相映じこ
 の夜一とよは火の廣島かと疑はるゝあり○舊六月二十四日は白島妙風寺
 内の清正公の祭日にて詣づるもの多し「これでこそ命もつゝけ夕涼」
 (下養)

◎八月 舊曆七月七日の七夕あり維新後暫し廢絶の姿なりしも近來再
 び笹をたて短冊を結びて二星を祭る家少からず、市中の夜景極めて妙な
 り「いろく」に染るす絲のねがひかる(越人)○同十日は四万六千日とて
 観音の賽日なれば諸所の觀世音に參詣の男女多し就中新川場の妙慶院、
 六丁目の普門寺賑へり○干蘭盆會は舊曆七月十三日よりなれば魂棚飾物
 の品賣る聲戶外に聞こゆる寺々の門前には籠燈、線香、立花るごの店列を
 爲すなり、十五日まで各家精靈祭を修し墓詣でを爲す、十六日の簀入と
 て奉公人るご里入りを爲すこと其の他正月十六日に同じ「魂祭り門のこ
 じぎの親問はん」(其角)○舊七月廿三日法華宗の各寺院に鬼子母神の祭

廣島案内

りを行ふ○同廿四日は地藏尊の縁日にて川場の地藏堂、小町楠木の地藏堂、河原町の地藏堂及び臺屋町源光院の地藏堂等最も殷盛を呈し盆踊り盛んに行はる○同廿六日は所謂廿六夜待ちなり此夜は月三躰の姿にて昇ると稱べ家々月の出づるを待つ、古へより九丁目鷹野橋が見どころなりとてこゝに出で立つもの多く橋側に踊り場を開き夜を徹するを例とす○蓮の花咲き又牽牛花賞すべし、蓮は廣島城壕にあるもの最も佳なり未曉起きて涼風に浴し杖を池畔に曳く爽快いふべくもあらず

◎九月 十五日と十六日は廿七八年戦役の大濶轉進并に平壤陥落の大記念日なれば當地の官民業を休みて祝意を表するあり、又十五日には廣島招魂祭を舉行すその祭式の嚴肅莊重にして餘興の殷盛なること一歳の中これに過ぐるはあらず故に遠近來り集るもの萬を以て數へ滿都大に振ふ○二十日より彼岸に入る廿三日は秋季皇靈祭にて彼岸の中日なり、何ごとも春のと同様なり二百姓の嫁のいで立つ彼岸かき(許上)○暑さも寒さも彼岸まで、窓前の梧桐一葉落ちて銀風漸く動きそめ秋色愛すべき

廣島案内

頃はるるめり○舊曆八月朔日は八朔とて農家地神を祀る、女兒ある家にては頼母といひて紙人形など飾るなり各家頼母團子を製して食ふ、此日比治山の下皆寶新開にある堅盤神社の祭を行ひ盆踊りありこれを踊りの最終とす○同十五日は觀月あり古來九重の雲の上には月卿雲客を召して觀月の御宴に風懷騷情を叙べしめ玉ひ詩人文士も思ひ〜に月を賞して夜の更くるを知らず、賤情なき民の家にも明月様とて御酒團子を捧げて祭る、月見の場所は淵崎を第一とし百花園、江波、向宇品又は長橋あたりよし○萩の二葉の里最も多く水主町公園にもあり又平塚町興禪寺境内のものも佳なり○菊は己斐村に多く栽培せらる、別に名たる園庭はあらぬと近頃大に流行し朝顔と同じく各家植ゆるもの少からず

◎十月 此月中旬より十一月にかけては小春日和とて草木に返花を着け春暖に似たる好時候なれば野外に遊歩するもの多し○舊曆九月九日は重陽の節句なり菊を賞して酒宴を爲す栗の飯を炊ぐの例なれば又栗節句ともいふ、この頃より裕衣を着る○同十三日は後の明月とて月を賞する

廣島案内

あり枝豆、芋等を食ふ俗に豆明月といふ、一菊の外更に花をしの月(支考)○同十五日は饒津神社の大祭あり都人殆ど参詣せざるなく晝夜ともに殷賑を極む(○同十九日中の九日といひて産土神の祭例日あるが市内にては廣瀬神社、神田神社に大祭を行ふ○同廿九日は乙九日として同様に土神の大祭日あり白神社、鶴羽根神社、比治山神社、碓神社、空鞘神社、衣羽神社等に各氏子より俵揉みの奉納を爲すもの勇ましく全市殆ど振ふ○同二十日は蛭子講として昔より商家の慣例あり胡町の蛭子神社最も盛んあり○釣魚の好時季とあり鮎は牛田、戸坂に多く沙魚、チヌ、鰈などは淵崎、草津、江波沖等に釣るべくその他宇品灣より海田灣の間各所に釣魚の場所ありて魚族亦多し

○十一月 三日は天長節なれば官術學校には拜賀の式あり各家各町國旗を掲げ提燈を聯ね松竹を植ゑて 陛下の萬歳を祝し奉る、市中には色色の作物を爲し或はシキギリを出し或は物真似、にわかるご演じて晝夜ともに練歩くこと九月の紀念日と同じく市民狂せんばかりなり○六日は

廣島案内

廣島招魂祭を二葉山公園の社頭に行ふ相撲あり撃劍あり十二神祇舞等あり○舊曆十月の亥の日に猪子祭として各町之を祭るこの頃より各家爐開きを爲す○紅葉はこの月に入りて甚だ美事なり本市にては泉邸の楓林最もよろしく有名なる嚴島の紅葉は云はずもが遠近來るもの織るが如し、紅葉時を過ぎるば世はやう／＼淋うまりて夜景を以て誇る中島遊りも人影疎とありぬべし○農家は十月中旬より稻の収穫に最も多忙を極むるあり

○十二月 中旬より年の市各所に起り各働工場はじめ町々の商家何れも景品の籤引を行ひ客を引く、迎年の用意にて衣類、履物、小間物、飾装品、進物品、注連飾、門松、庖厨の雜器等の店最も繁昌す○舊曆十一月八日の吹子祭として鍛冶職の家に祝祭を爲す○年の内には雪は降らぬが例なれどさて雪見の場所は己斐の百花園、二葉の里、宇品などが好かるべし、若夫曉起瀛車の便によりて嚴島に渡らば最も妙ならざらぬや

勸工場

廣島に於ける勸工場の基因を繹ぬれば随分謂れまじとせず、且その今日に至るまでには沿革を有し一々之を調ぶるはまた無用の事にはあらざれど、今は強て古きを温ねず現在のものに就きて記する所あらんす

◎中島集産場 中島本町にありて境域総て千三百坪、明治十五年の創設あり、現今は場内に四十許の商店を有し概ね袋物商又は小間物商たり、場は同町の後藤田三十郎の所有にして又境内に胡子座、大黒座といへる二箇の寄席あり、その近傍に空地ありて時に掛小屋を營みて興業ものを爲しあり、又晩春の候より晩秋に至るの間は毎夜植木店を出すを以て場内殊に雑沓せり

◎中島勸商場 同町慈仙寺鼻の入口にありて南北殆んど相對す、こゝは明治二十五年の開設にして今商店十七戸あり賣店は他と大差あらず、場内の廣さ二百五十坪播磨屋町濱田治兵衛の所有にかゝる、又傍らに鶴の廣あり

◎廣島商工俱樂部 西横町を正門とす其他一丁目、細工町、猿樂町等總て五ヶ所より通すべし、明治二十二年の創業にして翌年四月開業式を行へり、敷地最も廣く商店は百二十戸あり和洋雜貨店半數に垂んとす、六十人の資本金より成り參千圓を要したるものなるも今は貳萬五千圓の價額を有すといへり、これ亦年中賑盛を呈せり

◎堺町勸商場 堺町二丁目にあり通り抜ければ西新町に出づるあり、三十二年三月の創業にて同き六月開業式を擧ぐ、現在の店舗六十余戸あり小間物店半ばを占め其の他時計、陶器、書籍等の店あり、貳萬四千圓の資本にて松尾藤兵衛松尾半助河邊平助三名の開く處たり、場内に寄席あり榮座と名く

◎廣島中央勸商場 堀川町にあり是も境域廣く堀川町三川町下流川町等總て四方に通達せり、廣島商業の旺盛は兎角西に偏し東部は常に不振の傾きあるより、東部商業振興の一策として去る三十年頃より橋本與兵衛森川芳造の両名専ら發起して奔走せし結果遂に開設するに至りしも

のあれど、未だ相當の景況を示さず百十五戸の店舗概ね閉戸せるは遺憾
といふべし、併し昨今株式組織に改めて振興を計らんとするやの説あり
遠からず目的を達するに至るあらんか

演 劇 場

吾人をして憚りなくいはしめは廣島に劇場をせよと言はんのみ、然れども
或者はいはん廣島には壽座あり新地座あり明神座あり劇場をせよは如何
と、然り廣島には現時劇場と稱するもの三箇所を有せりされど、吾人は
敢て廣島に劇場をせよと斷言せんと欲するもの換言すれば劇場をせよといふ
の謂に外ならざるなり
劇場のことは姑らく措き廣島の梨園について見よ何ぞ寂寞たるの甚しき
廣島には一の俳優を有せず一の脚本作者を有せず一の劇評家を有せざる
にあらずや、梨園の衰殘正に當然のことのみ劇場らしき劇場なき何ぞ怪
しむを要せん、論者又曰く、廣島に脚本作者なき劇評家なき貴説の如し
されど廣島に俳優をせよとは何を以て云はるゝや現に中村統十郎、尾上蝦

演劇場

三郎、嵐三十郎、中村新十郎其他數十百名の俳優を有すと、然り廣島には
數十百名の俳優——田舎俳優——旅俳優——を有せり、彼等は常に籍を
廣島に置くも雖も春夏秋冬縣下にては廣島市以外の地、吳福山尾道三原
竹原庄原また他縣にありては山口愛媛島根香川其他九州地方に於て興行
することあれど本市に於て興行せしを見受けしことなく、偶々新地座明
神座等にて興行することあれども甚しき不入にて二周日と打續けしこと
なく旅から旅を打廻り居るなり、又彼等社會にてトヤと稱し夏は舊五月
春は新一月中何所よりも買手の來らざる時は、地狂言と稱して各村落に
て催す若者等の素人芝居へ俳優の身として振付師の眞似ををし僅に口糊
を凌ぎ居るなり、土地の俳優が土地の看客にさへも省みられざる統十郎
蝦三郎三十郎一派の俳優、吾人彼等と呼ぶに田舎俳優もしるの決して不
くは旅俳優を以てし、廣島俳優とは呼ばずして廣島に俳優をせよと斷言す
當にあらざるを信す

夫然り劇場なく俳優なく作者なく評家なく、況して之に附屬するところ

演劇場

のチヨボ語り下座(噺方)大道具方小道具方等の不備不完全今更説くまで
 もあられど、茲に廣島に過ぎたるもの一あり、そは本市堺町三丁目の木
 谷演劇衣裳店にて、屋号を木豊と稱す、廣島に於ける一軒店なるのみならず、
 作州津山の灘屋と共に大坂以西に於て所持の衣裳數の多き上中下品
 時代物世話物乃至鏡物に論るく網羅して剩すところなきを以て聞ゆ
 斯の如くなれば廣島演劇不振の病源をたづねてこれを剔抉し内外藥石時
 に攻め時に補ひ、以て其の面目を一掃せんことは切に望ましく思はず痛
 恨のこゝに及べるなり

廣島梨園の振興策、吾人説きなきにあらぬ茲には劇場の現況を説くに過
 ざれば、今は之を説くの要なし。さて廣島に劇場としては前記の如く壽
 座新地座明神座の三あり

◎壽座 についていはんに舊名笹置座と稱す其創設は遠く明治八年に
 あり、佐々木源藏と云へる人地を本市立町に卜し建築に取かゝり棟上を
 るさんとする際警察署より工事差留取拂移轉を命せられたり、是本縣令

を以て劇場建設區域を西は壘屋町(今は小網町)廣瀬村の二ヶ所、東は猿
 猴川以東と限られたる制規に違ふといふにあれば是非なく建物を取崩し
 て今の小網町に移せしなりこれを笹置座の創始とす其の後源藏死し男
 久治郎座主となり明治二十五年に至る迄二回改築をなし、漸次舞臺其他
 の構造を改良したりき然るに全年佐々木に於て全座を維持し能はざる事
 情起り本市中町の西本清兵衛へ譲渡しそれよりして仕打高德が借受けて
 四季絶へず興行し昨三十二年西本の手にて更に劇場規則に照し改築をな
 し同時に座号を壽座と改め以て今日に至れるなり

同座の大きさ及構造を示せば総坪數七百二十坪間口十八間奥行四十間餘
 にして前後左右に空地二間を有し定員千五百三十八人を容るゝに足る内
 外共に本造るれども廣島にありては比較的規模宏壯のものたり、舞臺廣
 濶にして屋内晴やかに空氣の流通宜しく、殊に樓上小家の三方に幅二間
 の運動場を設けあるは用意周到と云ふべし、序にいふ今若之に商品を陳
 列し飲食物を商ひ腰掛るご所々に置き、観客に隨意休憩をなさしむるの

設備を施したらんには一属便利なりしならんにさりとては惜しむべし
 ◎新地座 は元猫屋町にあり本市十日市町の木万と云る者座主たりしが明治八年劇場區域を制定せられたるの結果、今の廣瀬村に移したるにて其後木万を始め十日市西引御堂町邊の者數名の合資組織(會社にあらず)とあり、一昨三十一年より昨三十二年春にかけて全部を改築し以て今日に及べり、内外共に木造るれども劇場規則に適合するやう設計を立てたるものあれば制規の上に於て間然するところなきは勿論なるべし、舞臺廻り総坪數等に於ては稍壽座に及ばざるならんも猶定員千三百六十五人を容るゝに足る

◎明神座 は元猿猴川の東大須賀村松原の邊にあり、その頃座名何といひたりけん詳かに記憶せざれど後明治十四年現今の京橋明神濱の下に移したりしが、これより先明治八年警察上の規定により區域を猿猴川の東に限られある爲め、公然劇場といふ事能はず明神社祭具入場と稱して建築をなし暫らくは許可を得るに至らざりしを時の縣令千田貞曉、前規

則猿猴川以東とあるを變更して柳町筋以東とせしかば、直に出願して許可を得明神座と名けたるあり、其後十七年に至り松岡忠助明藤次郎菅野甚七等三名三友舎るものを組成し全座を改築して共有と爲し後一昨三十一年更に増築し内外部の構造を改め今日に達せり、其の大きさは間口十三間奥行二十間、定員千五百余人を容るといふ、次に

◎観劇の順序 を記して観劇家の便とすべし

△強ち劇場の月旦をなさんとするにはあらねど東京大阪の俳優等法外の給金を要求するにも拘らず普く名優を聘して好劇家を唸らせし今の壽座元の笹置座にて同座の仕打高德のみはせものを入れしこととあり、また劇通より信用を博し大芝居と云へば必ず壘屋町に限るもの、如く斯いふ編者も爾思惟し居たるに昨年改築後は大坂東京の俳優の増長甚だしく一人に万金を投せざれば乗込を應せざるにもよるべけれど一向上等俳優を聘せず岡山其他の旅俳優中比較的技藝優れたるものゝみにて興行し却て新地座こそ昨春は市川市十郎(近來名聲揚らざれど兎も角も大阪

内案島廣

俳優) 全秋には市川荒五郎市川市藏を聘したるも大芝居の興行をなすやうにあり明神座に至りては絶へず旅俳優を以て興行すされば観客の種類も三座各々異り壽座は場所柄遊廓地を控へ近邊に藝妓置屋などの多き爲め藝妓舞妓等其の半を占め市中にても紳士紳商も稱するもの大抵同座に赴くを常とし三座の内にて客種最も良し新地座は市内中部西部にて中流以下の者多く大抵は職人を以て充たさる様あり明神座は東部の人多く客種は新地座と伯仲の間にあらんか、斯の如く劇場によりて各観客の種類を異にするは位置の差によりてさもあるべけれど俗に類を以て集るといふが如く身分によりては曠々しき場所を厭ふ人のあるにも因ることあるべし

△開場は通例正午十二時若くは十二時を以てし午後十一時又は十二時閉場すされど大坂東京の名俳優込み大芝居を興行する時には午前七八時の頃より開場し午後七八時に閉場することもあるあり

△各劇場に座附茶屋各一戸あり観客之に就けば周施の勞を執る又飲食の

内案島廣

仕出をもろし折辨當の用意なき人には至極便利あり東京大坂にては棧敷一桝の人数の多少により五拾錢多きは一圓茶屋の雇人に二三十錢の茶代周施料を與ふる習慣あれども當地にては必ずしも之を要せず與ふるも可與へざるも可あり

△茶屋につかず折辨當を携帯して木戸口より直に入場せば茶屋の手敷を煩はさるだけ簡易に觀劇し得らるゝなり併し又折辨當を携帯せざるも劇場内には鮮辨當の賣子あれば此者に命じなば何にても調ふと知るべし

△木戸錢棧敷料割込代等は出勤俳優の良否によりて時々差違あれども木戸錢は通例一人四五錢棧敷一間(廣島にては五錢)棧敷は京坂の棧敷と異り京坂にて云ふ平土間を棧敷と稱せり廣島人は熟知し居れど旅の人の爲に注意し置くなり而して廣島にては眞の棧敷といふものなし)四十錢より六十錢乃至七八十錢割込の一人五錢より拾錢位迄あり

△棧敷を求めし人は京都の水場大坂のコミを要せず毛布一枚の損料十錢(借る借らぬは随意)座布団一枚につき二錢火鉢一個三錢(炭又は火を入

替へるは其毎度一錢) 茶二錢菓子十錢を仕拂へば可なり尤も買はねばならぬにあらす不用なればそれ迄なり

△割込に座る人も毛布座布團火鉢茶菓子を要する時は前項の通りなり

△下駄預りの下足料はいづれにても五厘の定め但し雨降りには傘の預り料別に一錢を要す

寄 席

寄席は夜の娛樂場所あり、演劇を見んと欲する人も觀劇は一日を費さるべからざると、費用の嵩むを以て簡易に娛樂を買ふこと能はず、之に反して寄席は人が晝間の業務を終りて後、即ち夜間あれば心置るく娛樂を買ふことを得るなり、木戸錢は安きは三錢より上等五六錢別に割代三錢より八錢迄を要する外、茶火鉢煙草盆座布團代を高く見積りて十錢を奢れば、異例の上客なり時によりて棧敷代を要することあれば減多にあり又本市にては兵士の駐屯多ければ、日曜日祭日には休暇を當込み晝間興行する事もあり此時は晝の部夜の部を仕切りて二回興行をなす

寄席にて演ずるものは落語、講談、男女義太夫、うかれ節、祭文、新内源氏節、身振人形、手品、手踊、音曲、二輪加其他雜藝にして頗る變化に富めり、就中廣島にてはうかれ節源氏節最も受け、新内、身振人形之に次ぎ、女義太夫又之に次ぐ、落語講談最も受けず、総じて卑近なるものを好み優美高尚(?)なるもの賣れ好からぬ様見受けらる、以て寄席の客種何れの邊にあるやを推知するに難からず

廣島の寄席にて良好なる木材を撰び構造最も善美を盡したるは西遊廓黒門前の旭の席あれど、寄席として其位置西部に過ぎ足場よろしからざる爲め興行毎に遺憾あるもの、如し、之に引替へ中島集産場内の胡子座、大黒座、全勸商場の鶴の席等は毎興行大入を占め居れり、さて市内寄席の所在及び座名を記せば左の如し

- | | | | |
|--------|-------|----------|-------|
| 下柳町柳橋詰 | 朝 日 座 | 下柳町東遊廓 | 柳 座 |
| 中島集産場内 | 胡 子 座 | 中島勸商場内 | 鶴 の 席 |
| 全 | 大 黒 座 | 小網町西遊廓北手 | 神 明 座 |

西遊廓黒門前 旭の席

堺町勸商場

榮座

藝妓社會

藝妓と云へば單に宴席に侍りて其の技藝を見するが本職なりしも、今や藝妓の風大に亂れて三味線箱に枕を容れて往來するものあるに至れり、然れども藝妓の流行は眞に盛大を極め宴會にも小集にも必ず藝妓あり、冠婚祭葬にもまた藝妓あり、紳士と稱せらるゝもの妓を提げて白晝大道を往來す又盛なりと言ふべきか

藝妓は素市の目貫とも稱すべき中央部大手町二三四丁目邊に憚りも無く群り居りしが、明治二十六年本川以西に集窟を移すべく嚴達せられ今は西地方町に住居せり、而して一時間四拾錢(紋日四十五錢)の花代を投じて聘辭をかくるものあれば會席にも出づべく、料理屋にも出づべく、宿屋鰻屋、青樓、蕎麥屋、飲食店等客の招くところに應ず

藝妓の券番は東遊廓券番、東西兩券番の三ありて東遊廓券番は一名柳

券とも云ひ讀む下字の如く、東券番とは地方町島津、藤見、篠原の三置屋の総稱西券番とは西遊廓内の廣仲、竹内、柴田、木市の四置屋四軒を指せしものなれ、近頃の廓内の外に西地方町へ出店を構へ居れば東西券番の區別曖昧となりたり、されど其の券番毎に多少藝妓の風俗も異り客筋をも異にせり、現今藝妓の類を區別すれば東券を第一とし西券之に次ぎ柳券又之に次ぐ、東券中島津店には藝妓舞妓併せて三十七人(抱人もあり自前と稱して家持もあり以下皆同じ)藤見店には二十四人、篠原店には二十九人を置き、多く紳士と呼ばるゝもの官吏會社員を定客とし衣装華麗、容貌の艶美あるもの多しと稱せらる、西券中廣仲店には四十二人、木市店には二十人、竹内店には十三人、柴田店には三十七人を置き容貌衣装は東券に一籌を輸すれども、市内の商人に多く關係筋を有し居れば収得却て多かるべし、又柳券には十三人の藝妓舞妓あり、常に米綿市場の商人に愛顧を受くるが故に、さのみ衣裳に重きを置かず際立ちて飾りたてざるも氣象の變りしもの多しとかや、又技藝の点に於ては

三券番大差るきもの、如く次に送迎の男衆を用ゐず人力車にてあするり、尙此他に町藝妓あるもの市内松川町、下柳町、新川場町、鉄砲屋町、中町、空鞆町、廣瀬村、天満町等その界限に屋形を有し居りて其の総數殆ど四十名、元一時間貳拾五錢の花代を、近頃諸物價騰貴税金増賦等の影響にて參拾三錢に直上げしたり、大方は町家の婚禮年賀其の他の慶事に招かれ此際は時間の定めをなさず詰め壹圓四拾錢の定めありとかや、町藝妓と云へば下卑らしう聞ゆれど衣裳も餘りには張らず勤も氣樂にて實際も左程に派手ならず、萬事に入費のかゝること少なければ、本場藝妓には身分不相應の前借をなして窮し居るものあるに反し、却て町藝妓に銀行へ預金ををし借家の少じも有して左團扇に暮し居るものありといへば一概には断定難しと知るべし

遊廓

廣島に遊廓二あり西遊廓、東遊廓といふ、西遊廓は小網町舟入村に跨

り上等筋中等筋下等筋及二号地に區別せられ、総面積一万五千五百九十坪貸座敷總數六十五戸、娼妓總數三百七十八人あり、元花街は左官町并疊屋町の二ヶ所に分たれ居りしを、明治二十五年今の地を區劃して移轉を嚴命せられ茲に初めて遊廓あるもの起り舟入遊廓と稱せらる、されど其の當時は遊客極めて少く青樓維持困難にて破産せしもの少からざりしに、彼の二十七八年の戦役に就て大に繁昌し、次で矯衛貸地株式會社は二十八年三月八千七百圓の資本を以て、舟入貸地合資會社は全年十二月壹万貳千圓の資本を以て、第二舟入貸地合資會社は二十九年十二月貳万百五拾圓の資本を以て起り大夏高樓軒を並へ廓内取締所を設け、茲に基礎全く成り盛に營業するに至りしあり、東遊廓は下柳町藥研堀平塚の三町に誇り廿八年戦地より歸還の兵士人夫御用商人軍属等の入込むもの多きより西廓に擬して起り、全年九月東榮株式會社は六万圓の資本を投じ貸地貸屋の目的を以て設立せられ、其の當時の繁昌の筆紙のよく盡すところにあらずしが今日となりての思案の外ある色の巷にしあれど其の

割合には繁昌せず、面積は五千三十七坪、貸座敷総數四十六戸娼妓総數百數十人ありと云ふ

旅宿及料理業

大凡この地方にては宿屋と料理商とを兼業するもの多き例にては土地の状況上自然の數あるが如し、就中宿屋の大なるものに至りては料理商を兼營せざるもの殆ど稀なりとす、今昨明治三十二年末現存の市内當業者數を取調ぶるに宿屋二百十五戸、料理屋七十二戸、下宿屋百〇五戸あり又外に木賃宿百〇八あり、左に宿屋料理屋の最も多き場所又はその重なるものを記さんに

◎宿屋 是先づ廣島停車場附近にて長沼支店、晚翠館、東洋館、加川支店、村上支店、鶴水館、松廣館等は停車場構内にあり吉川支店は松原通りあり、夫より西に進むに堀川町に荒木、宮本相隣りし胡町、三川

町等にも宿屋下宿屋共に少からず、大手町筋は旅館の最も多き地にて三丁目の吉川、長沼を頭とし中野、坪井、潤身館等同町にあり又村上、大柿、高野、光照、高岡は四丁目に工藤、大政、時永等は五丁目であり鳥屋町にも舊くより該業者多く溝口、可部勘、泉周等名を知らる、鐵砲屋町には山金、永井、松方あり中町に平野、村山あり並屋町に有田ありこれらの町には尾道町と共に下宿亦甚だ多し、又紙屋町に永崎、川友あり猿樂町に永井、山崎等ありてこの邊りの郡部よりの定宿多き所とす夫より元安川を越ゆれば天神町筋に明暉樓あり津森、太田、天城、山本みご皆この町にての宿屋なり、元柳町、東本川にも亦あり佐々木、〇〇、佐々木等にて又加川本店は本川橋の側にあり橋を渡りては猫屋町十日市町筋等に宿屋最も多くこの邊も北方筋よりの定宿多きが如し、その他己斐停車場外には山陽館あり、又宇品町は市街の大半殆ど旅宿并に回漕店を以て充たされ市内に於て盛んに營業するもの概ねこゝに支店を有せざるはなし

内案島廣

◎料理商 に至りても亦種類并階級雑多なれば之を類別すること難き所あるが眞菰の春和園は舊藩執政今中大學の別墅たりしものにて矮松蟠蜒して池畔を繞り樹梢翠に薜芝青く四時景を變せず就中躑躅、霧島最も多く花候賞すべし楯問春和園と題せるもの頼春水の書ありと、萬春園の河原町の下にあり舊藩老上田家の有するものにて邸内廣く老松深々として風趣多し近來借愛けて料理を營めるあり、大觀樓は二葉山の上にあること前に出せしが如く遠近達觀すべし、二葉館の二葉の里鶴羽根神社の東鄰にあり建物の風致ある庭園の瀟洒ある共に數奇を盡くせり、丸喜樓(元洗心樓と名く)は河原町にあり三階造りにて座席甚だ廣濶あり門前河を隔て、水主町公園と相對す、明障樓は天神町にありて元安川に臨み夏の夜の眺め佳あり、以上はいづれも建物廣大にして衆人を容るゝが故に集會所として最も適合せり、之に亞ぎたる料理屋は烏屋町の山文(牡蠣、白魚) 大手町四丁目の榮亭及び山友、天神町の新月樓及び田中、中島慈仙寺鼻の水明樓(鮎)、水月樓(あわ豆豆腐)、堺町二丁目の丸喜樓、寺裏の榮助樓

内案島廣

(鮎)、堀川町の梅月樓(よし久)、新川場の眞盛樓(魚久)、立町の熊孝、魚の棚の米松、山口町の山万及び二葉の里の濱安等あるべく花柳街の附近にありては西地方町に遊樂亭、小倉亭、だるま亭、開心亭、長吉樓等あり小網町に高德、岩長あり西廓内に友福、宇田川樓、太田樓、荷葉樓、紙平又かしわ料理に浮世樓、蛇の目樓あり、柳の遊廓にては山万樓、熊孝支店、孟霞樓等とす、蕎麥を以て有名なるは大手町一丁目に田毎庵あり又天神町にも田毎庵あり、淀川鮎といふは烏屋町にありて古くより名を知らる、當地にハ又別に檣船を河上に浮べて料理を營むあり之を稱してウマ茶といふ、其の重なるものは元安川の山文、備前屋、本川の駒井、川龜魚松等とす夏季最も遊ぶもの多し、西洋料理は立町に岡本樓といふあり烏屋町の溝口にも之を營めり

右の外宿屋、料理屋とも之を一々せば到底枚擧に遑あらずこゝには只其の目立ちたるを掲げしのみなれど猶遺漏るきを保し難し

廣島案内終

嚴
島
案
內

宮嶋驛嚴嶋町間五十渡津汽船往復

毎日午前六時三十分ヨリ瀛車着驛ノ都度發船シ鐵道

ト聯絡ヲ爲テ午後七時二十五分ヲ終航海トス

時宜ニ依リ臨時航海ヲ爲スベシ

賃錢

片道	大人 金八錢	往復	大人 金拾四錢
	小人 金四錢		小人 金八錢

但宮島譯 嚴嶋町 兩棧橋錢いらす

當瀛船賃ハ神事祭典其他季節ニ依リ時々大割引ヲ舉行スベシ



嚴嶋渡津合資會社

元祖名物 宮島まんぢう

一家傳製造のまんぢうは品質純良風味佳美なるを以て夙に江湖の好評を博し日に月に賣額を増加し益々隆盛を來し候段弊店の幸福之に過ぎず深謝に堪へざる處に候然るに近頃宮島各町に於て元祖とか本家とか稱へ大提燈又は屋根看板等を掲て此のまんぢうの似せものを販賣する者不尠候も弊店に於ては支店及他店へ卸賣等は一切不仕弊店の元祖たる事の旅館及市中に於て御開合被下候得の明瞭なり特に弊店製造のまんぢうには玉霜堂の印焼判商標有之候得者其有無を篤斗御見定めあらんとを希上候此まんぢうは玉子にて煉りたる滋養物にして御茶菓子ビール口取りには至極適當品とす尙又御病人の食慾不進等のときは熱湯又は茶に入れて御食用あれば特色の功あり且この品は嚴暑と雖も百餘日間を経過するも風味腐敗の患ひなきは是迄の實驗にて弊店の保証する所候尙御注文の節の早速郵便小包汽車流船にて御送附仕候間多少に不限御注文被仰付度奉願上候

安藝國宮島停車場前

(元宮島御垣ヶ原ニ於テ營業センモノ)

發明元祖

瀬川玉

霜

堂

御料理

(宿御并) 一白うを 一かしわ 一うなき
 一牡蠣御料理 一衛生御料理
 宮島 塔の岡光明院下
 みはらし手前館

見はらし手前館は塔の岡の東に當り、前は海水を隔て、佐伯の諸山の香に酔ふ、西に千疊閣五重塔の景色を控む、春は欄に枕して櫻の香に酔ふ、夏は涼風肌を拂ふて清く、秋は衣を着たる山々の景色に酔ふ、冬は朝の白妙の衣を着たる山々の景色に酔ふ、常の御料理は種々に精撰して、花より園子と思召さば、四時をり、眺むる所にこれあり、況して、右から左へと立處に、山の珍味を調へて、参らすを、至のて、柳か店の極め、御客に致し、の微意に候へば、永當々を御入來の程偏に奉獻上候、敬白

嚴 島 案 内

●嚴島の地理 ● 嚴島は佐伯郡の海中にあり同郡大野村を距る近きは七町に過ぎず島の周圍七里三十二町東西二里六町南北一里巍然として海中に峙立し樹木鬱蒼山勢秀拔るり山を御山といふ、市街は峯の北麓海濱に横はりて東西十町南北二町あり市坊を分ちて小浦町、濱の町、海岸通三丁目、二丁目、一丁目、幸町、中の町、北の町、伊勢町、後町、薬師町、塔の岡、大町、南町、中江町、瀧町、中西町、大西町の十八とし戸數六百八十四戸、人口三千百四十八人を有す、海岸通の前面は嚴島灣にして東に棧橋あり東波止場、西波止場亦灣内にありて大小の船舶皆こゝに繋留す、島の北並に西は佐伯郡廿日市、地御前、大野の諸村を望み其間僅に一葦帯水指呼の間のみ、又島の南方は近くは似島、能美島、那沙美、黒神、阿多々、甲島の諸島と對し遠くは煙波漂渺として伊豫の諸山を望むべし、本島に交通するの便海陸二あり陸よりするものは山陽鐵道の各驛よりして大野村字赤崎の宮山驛に下り棧橋より船に乗るに海上僅に

宮島の地理

一

御 旅 館

嚴 島 も み ち 谷

弊店儀四方御客様方の御蔭を蒙り繁榮に相向ひ申候段只管感謝罷在候次第に有之、今回改築仕候 **新館** 先般全く落成致候に就て一向後一層 **誠實** と **丁寧** を主と致し益々勉強可仕候間、舊に倍し不相變幾久しく御引立を蒙り申度とたび此の書物の出版致され候を幸ひ紙上を以て大方御客様に平素の御挨拶を申上げ併せて新築落成の御披露申上候頓首再拜

明治三十三年春日

枕 流 亭 幸 々 吉

瀧 戸 政 吉

嚴島案内

◎嚴島の地理 嚴島は佐伯郡の海中にあり同郡大野村を距る近きは七町に過ぎず島の周圍七里三十二町東西二里六町南北一里巍然として海中に峙立し樹木鬱蒼山勢秀拔るり山を御山といふ、市街は峯の北麓海濱に横はりて東西十町南北二町あり市坊を分ちて小浦町、濱の町、海岸通三丁目、二丁目、一丁目、幸町、中の町、北の町、伊勢町、後町、薬師町、塔の岡、大町、南町、中江町、瀧町、中西町、大西町の十八とし戸數六百八十四戸、人口三千百四十八人を有す、海岸通の前面は嚴島灣にして東に棧橋あり東波止場、西波止場亦灣内にありて大小の船舶皆こゝに繋留す、島の北並に西は佐伯郡廿日市、地御前、大野の諸村を望み其間僅に一葦帯水指呼の間のみ、又島の南方は近くは似島、能美島、那沙美、黒神、阿多々、甲島の諸島と對し遠くは煙波漂渺として伊豫の諸山を望むべし、本島に交通するの便海陸二あり陸よりするものは山陽鐵道の各驛よりして大野村字赤崎の宮山驛に下り棧橋より船に乗るに海上僅に

宮島の地理

二十余町十分を出でずして達すべし、又海よりするものは中國通ひの定期汽船常に寄港し此外廣島市よりは番船の通ふものあるなり

○官公署學校 本島に於ける官公署并學校は左の如し

△嚴島町役場 は塔の岡にあり町長助役収入役以下吏員六名を置き自治

行政の任に當らしむ、又町會議員は十二名にして概ね商家の主たり一歳の經費は大凡三千圓、全町の地價八千五百九十八圓あり

△警察署 廿日市警察署嚴島分署は海岸通り二丁目にあり署長一名巡查部長一名巡查三名を定員とす、参考のため同署に於ける最近の統計に基き一ヶ年間の艦船出入、旅客往來等を列記せんに

汽船の寄港するもの毎日中國通ひ上り下りにて平均八艘に當り宮島赤崎間を通ふものは壹艘にして間斷なし但し祭日に際しては四艘乃至七艘を出す又臨時に各種小汽船の寄港するもの一ヶ年平均百八十艘に相當せり而して是等汽船より上陸せしもの合計八万九千八百二十五人、又番船の通ふ者は四間船にして七艘あり平常は毎日交代にて二艘づつ廣島

本川口と本島との間を往復す是等番船の上陸者は一万六百人を數へたり又對岸との間に渡船の通へるもの五拾九艘、乗客一万二千四百六十人止宿人員は廣島縣人三万三千三百九十一人、他府縣人一万六百七十二人、外國人二百三十六人にして尙外國人の往來せし數は一ヶ年五百四十七人ありき、右の外舊六月の大祭日を首とし一年五回の季節に於ける臨時船の寄港、上陸旅客の數を擧ぐれば左の如くあり

舊六月大祭日 汽船臨時寄港數三十七艘（此上陸人員二万四千八百人）
和船來泊數二千七百十八艘、（此上陸人員十二万五千餘人）（以上六月大祭）
○五季節來島者（第一）舊六月大祭十三万人以上（第二）舊六月日年越祭三万人以上（第三）櫻時并能狂言舊三月一週間二万五千人以上（第四）楓樹紅葉の季節舊九月一週間一万人以上（第五）延年祭舊七月三日二千人以上

右の統計は何れも明治三十一年四月より三十二年三月に至る滿一ヶ年間の實際を擧げたるものなるが概ね以て此例あり

官公署學校

四

△殿島郵便電信局 北の町にあり現行一日の集配度數三回あり、参考のため明治三十一年度に於ける郵便物并電信取扱數及び爲替、貯金の収支を表示せんに左の如くあり

郵信	取集	九、五九	電信	發信	三、八七
配達		八七、六〇〇	着信		三、四八

爲替	振出	一七、二六、七〇	貯金	預入	五、二四、三五
	拂戻	一九、七五、二四		拂戻	三、〇五、七三

△殿島小學校 は中の町にあり尋常高等兩科併置にして生徒概ね三百數十名尋常科を四學級に高等科を二學級に分つ、校長以下六名の教師ありて教鞭を執れり、當校には一の特殊なる學科あり即ち尋常高等兩科とも彫刻を授くる事はあり、元彫刻の事たる本島固有の技といふべきものにて生徒にこれを課する事とありしは明治二十年四月に始まり爾來繼續進歩するところあり、嘗て明治二十三年第三回内國勸業博覽會の節生徒手文品を出して総裁宮殿下(大勳位貞愛親王)より褒狀を賜りし事あり、

欠

MISSING

銛、以上五品僧の空海の將來する所ありと△平家納經寫時繪唐櫃 一合
 △梅唐草時繪文臺硯箱 一組 大内義隆の奉納ありと△紺紙金泥法華經
 入蓮花時繪經函 一箇△小櫻絨の甲冑 一領△紺絲絨の甲冑 一領 平
 重盛の奉納するところ△紺草絨胴丸の甲冑 一領 源義光の用ゐしもの
 のありと△藍草肩赤の甲冑 一領 大内義隆の奉納△木地塗螺鈿劔太刀
 一口△黒塗螺鈿劔太刀 二口△鍍金兵庫鎖太刀 五口△鍍金長敷輪太
 刀 二口△錦包藤卷太刀 一口 堅田兵部少輔の寄附ありと傳ふ△梨地
 赤銅筒金入短刀 一口 足利尊氏の用ゐしものありと△紙本黒書扇 一
 柄 地紙白骨は竹の黒塗要は銀、傳にいふ高倉天皇の御物ありしと△松
 喰鶴時繪小唐櫃 二合、時繪は黒塗にして鶴は鍍金は銀金足は螺鈿研出
 しあり、安徳天皇御産衣唐櫃ありと云ふ△木製彩色樂器 爰斐、兆鼓、
 此の二品も假面と同時に御寄附ありしものと傳ふ△七絃琴 一面、平重
 衡の用ゐしものにて表裏とも斷文あり唐の雷家の作ありと傳稱す△小形
 調度類 半臂一、石帶一、劔太刀一、平胡絲一、矢十一、槍扇三、笏一

神社案内

△木造飾馬 一軀、黄楊の駒と稱す前の調度類と併せて安徳天皇の御翫具ありしと云ふ△木製銅字扁額 二面、昔時大華表に掲げありしものにて後奈良天皇の震筆あり△紙本黒書御判物帖 二帖△金銅箱入紺紙金泥平家納経 法華経七卷、観普賢經一卷 平清盛同頼盛の筆あり

◎年中行事 一歳の中殿島神社に於て修行する諸祭式并に本島慣例の行事をば一括して本欄に収録し以て讀者の参考に資せんとす

殿島神社の年中祭禮に二あり一は國幣中社たるの社格に依り官より定められたるものに係り、一は舊例古式に倣ひ之を行ふものあり

△月並祭 官祭にては一月一日を始めとし以下連月一日之を行ふ神供音樂あり△元始祭 一月三日式禮を擧ぐ△孝明天皇祭 一月三十日△祈年祭 幣帛神饌音樂の奉供あり期日は豫め定り居らざれど二月四日宮内省式部職に於て班幣あり幣帛地方廳に到着したる上奉幣使吉日を卜して祭日を定め參向して奉幣の式を行ふ△紀元節 二月十一日祝式の禮あり△例祭 六月十七日を以て之を行ふ此日奉幣使來りて式を擧ぐることを祈

年祭に同じ△ノ稜 六月三十日無水月稜の古式あり△神嘗祭 十月十七日執行伊勢大神宮の遙拜式を擧ぐ△新嘗祭 十一月廿三日なり此の日亦奉幣の式あり△御大稜 十二月三十日又この事あり六月末日の大稜と同儀あり△除夜祭 十二月三十一日神饌音樂を奉供す

以上十一を官祭とす是即ち維新の後本社國幣中社宣下以來規定せられたる祭式あり、以下記述するを私祭とす

△神衣祭 一月一日午前第一時子の上刻より始む、先神衣を内陣に奉り次で神酒を奉る終りて神官一同大床に於て神酒を頂き參詣の貴賤男女一同階下に進み同じく神酒を頂戴するを得るなり△御新年祭 一月一日舞樂振鉦(三節)を擧行す此の日を一の祭とし二日を二の祭とす神饌を供し舞樂に萬歳樂、延喜樂を行ふ、又三日を三の祭とす前日同様にて舞樂には大平樂、狛鉦、御德樂、陵王、納曾利を行ふ△楊枝献上祭 二月四日楊枝を奉る、楊枝の古來當島第一の産物とせるを以て之を奉るの例ありるなり△斧始祭 同日之を行ふ△地久祭 一月五日御寶祈長久の祈禱

を修行す、此の日の舞臺に振鉾(三節)甘州、林哥、抜頭、還城樂、長慶子(退出)あり△月並祭 私祭にての十七日を定日とし毎月これを行ふ供物を献し音楽を吹奏す△年越祭 陰曆正月六日之を行ふ嚴島の六日年越とて古來遠近に有名なり、この日祠前に賽すれば一歳の幸福ありとて参詣するもの夥多しく京坂神より三備防長地方は固より讚豫豐筑等の商工業者萬を以て數ふべきなり、晝間本社に於て御神事あり薄暮の頃より参詣者中の商者數知れず社頭に群集して當年出來秋の米麥其他穀物の豫想相場を立つるの古例あり概ね暗合するを常とすと云へり、當日彼の龍燈を拜するに最も適せりとて特に前夜より渡島する者多きなり△初申祭 陰曆二月初の申の日の祭禮あり往昔は年中の大祭として 勅使参向ありしなり△推古天皇祭 四月十八日あり此日の舞樂に振鉾、萬歲樂、延喜樂、陵王、納曾利を行ふ△桃花祭 陰曆三月十五日薄暮より祭式をはじむ音楽を奏し桃花を献じ舞樂に振舞(三節)、一曲、曾利古、桃李花、萬歲樂、延喜樂、散手、貴徳、陵王、納曾利、長慶子(退出)等あり△講社安

全靈神祭 五月十四日神饌舞樂あり講中の信徒幣殿に詣で、拜禮を爲す△教會講中靈神祭 五月十五日を以て之を行ふ△講社島巡り 前に同じ△管絃祭 本社一歳の中第一の般賑を極むるはこの管絃祭の外はあらず古來關西に冠として其の名我國に著るしきところたり、扱これを行ふの日は陰曆六月十七日にして此の祭の繁昌は唯に本島のみ利益に止まらず實に廣島の商業界に大影響を及ぼすものにしてその一班の前掲の警察署統計表に見るも想察することを得るるべく古來關西無比の盛賑と稱するもの敢て溢美にはあらざるなり、左にこれが祭儀の梗概を掲ぐ

神輿を乗せ参らする船を管絃船と稱す、新造の船三艘を三列に組合せこれに屋形を設らへ幔幕を張り艦の方に神鏡を懸け又舳の左右に寶劔玉鉾を建て紅の提燈夥多を掲げて裝飾せし中央に神輿を安置するなり、而して神官左右に列座し管絃を吹奏し水主十二人いづれも烏帽子素袍を衣て左右に篝火を焚く、この船をば又御船といふ、外に引船二艘を懸して御船を曳かしむ、別に御供船といふものありて御船に擬

へたる装飾を爲し御船の後へに従ふ、祭式は薄暮潮の満ち来るを待ちて始む、豫て儀装したる御船の玉の御池ある火焼前を漕出して大鳥居を潜り、夫より順次沖に出で、對岸なる外宮地御前神社（同郡地御前村の海邊にあり）の廣前に渡りて神事あり、終りて長濱神社に還幸の上管絃あり、夫より又西の方大元神社に漕ぎ行き管絃を奏し、再び本社に向ひ大鳥居に入り、客神社の廣前にて神事あり、次で玉の御池に入りて神興の船を回すこと三度す、最後に本社廣前に於て又神事あり終りて還幸とる此の祭式は満潮より子の刻退潮の時に至りて終るものとす

△延年祭 陰曆七月十四日之を行ふ延年祭玉取りと稱す此の式は天正年間仁和寺御門主任助法親王當島に留鐸の時故ありて始まりしものにてこの夜御本社拜殿に於て社僧これを行ふ其の式は福神の像を造りて盤上に安置し四方に松梅櫻さごの作り花を立て之を拜殿に鈎上げ社僧祈念す俗に御正氣入と稱す、而して其の盤を下くるや否や衆人裸躰にて福神の御

首を採合ひ海中に投ず斯くの如くにして最後にこれを奪ひ得たるもの直に町役所出張所に告げたるを以て式の畢りと爲す、これを得たる者は其の年の幸福を受くること悦び祝ふの舊式あり、此の日これを見んとて近國近郷より來集る男女數を知るべからず又御首を奪ひ得たる者に就き金若干を出して讓與せん事を乞ふ者も少からず頗る知名の祭儀ありしが維新後神佛分離の際一旦此の式を廢したりしを其の後に至り玉取りと稱し玉を寶珠形に造りこれを三寶に置きて盤上に乗せ懸て奪取らしむる事古例の如くす、斯くて奪ひ得たるもの其の旨を報ずれば本社には別に新彫したる神像を神前に於て祈念し授與する事とせしが爾來或は行ひ或の行はざりしもこの數年に至り再び盛んに執行せられ毎歲舊觀に復したるもの、如し△講社安全祭 十月十四日講中の禮拜あること五月に同じ此の日靈神祭をも行ふなり△講社島巡 此は十月十五日を以て行ふを例とす△菊花祭 陰曆九月十五日なり其の式は桃花祭の如く薄暮より音楽を奏し菊花を奉り舞樂には振鉦（三節）、曾利古、二曲、賀殿、萬歲樂、

内 案 島 殿

延喜樂、散手、貴徳、陵王、納曾利、(退出)長慶子を舉行す△天長節
 十一月三日の天長節には振鉾、萬歳樂、延喜樂、陵王、納曾利等の舞樂
 を奏し神事を行ふを例とす△御鎮座祭、陰曆十一月上の申の日之行ふ
 舊時は奉幣使の代拜ありしを維新後に至り唯供物を献し音楽を奏するの
 みとせり△神衣裁縫 十二月二十六日より二十九日に至り神衣裁縫の
 ことあり△御煤拂ひ 十二月三十一日之行ふ△鎮火祭 十二月三十一
 日薄暮松明の式ありこれ亦重き式例たり
 以上は神社に於ける年中の祭式なるが此の外民間に於ける年中行事は五
 節句、盂蘭盆等にして諸取引の如きも概ね舊慣を用ゆるより従つてこれ
 らの行事も舊暦に依りて行へり、就中盆會の期には老幼子女島内の住民
 概ね出で、宮島踊を催はすの例あり毎夜日暮る、より初更に追ふ頃まで
 盛んに行はる、又春夏二期に市といふ事あり春は桃花祭の前後にて舊三
 月十五日より十七日に至る神樂あり之を三月市といふ櫻花爛熳として人
 皆春神に酔ふるの好季節たり、夏は大祭前後にて舊六月十日より廿五日

内 案 島 殿

に及ぶ之を六月市と云ふ
 序に記す、一歳の中本島に遊ぶに最も好適なるは新曆の四月并に十一月
 にして此期間大凡二周日が間、山陽鐵道并に中國通の汽船等賃錢割引を
 爲して盛んに客を送迎するの例あり、本島宿屋業物産組合にも亦之に準
 じて割引を行ふを例とせり
 ◎演劇場 殿島の演劇場は昔時神事芝居と唱へ毎年六月の市に際し、
 その期間中興行し居りしものにて藩主より資金を借入れ毎歳新しき木材
 を用ひて劇場を構成し來りたりしを、中途(年代不詳)費用に堪へ兼ね度
 毎に新にする事難くなりたるより、組立ての出來得る様構造し置き興行
 毎に組立つる事としたるが後又終に定小屋となり、明治二十八年寶物館
 を建築するに當り、從來の定小屋を解拂ひてこゝに敷地を取る事となり
 て、宮田文輔といふ者元の小屋を引受け翌廿九年六月現今の地に移築し
 たるものにて今北町にあり明神座と稱す、尙右一個人の有となりし以前
 には殿島町の共有たりしものにて、且藩制時代には城下に於て演劇を禁

宮島市の外これあらざりしを以て、宮島芝居といへば遠近にその名高く頗る盛んなりしものなりと云ふ

◎物産 本島には一步の田畑無く市人率ね旅客の祠に賽し船舶の海岸に泊するを待ちて生計の資を得るあり、故るに旅館飲食店最も多く従つて産物を出すこと多種ならず、唯誇るべきは彼の世人にその名を知られたる宮島細工にして各種の竹木器、飾置品、玩弄物等を造出し市中簞を連ねて店頭之を商ふあり、其の製作彫刻の疎るものは價極めて廉るれども高價ある品に至りては彫刻の技大に見るべきものあり、製作品の外にはミル貝、エタラ貝、石割貝及び雪花漬等を名物とす

◎旅人宿并料理屋 本島には料理屋を以て専業とするものはあらず何れも旅人宿を本業とし料理商を兼ねるあり、料理の趣向等に至りては殊更記すべきところあらざれども土地海濱あるが故に魚貝の新鮮にして濃潤たるもの常に膳頭に上り四季折々の調理趣向を好くし且衛生に適せしめん事に留意すと云へり、旅籠料の物價の趨勢に依り時に變動ある事な

れど目今組合規約に定めあるものは左の如くあり

一 旅籠料 (一泊二食)

壹等 壹圓五拾錢 壹圓 七拾錢

貳等 五拾八錢 四拾八錢 三拾八錢 三拾四錢

一 飯賄料 (一食)

壹等 五拾錢 四拾錢 三拾錢

貳等 貳拾五錢 貳拾錢 拾五錢 拾參錢

宿屋料理屋には組合の設けあり規約を結びて料金を貪り又は旅客に不待遇するが如き不都合なからしめん事を期せり、而して又旅客の上陸所に組合の監督者ありて叮嚀懇切に旅客に接する事とし萬一にも不都合の行爲あるを發見せんか相當の制裁に照して處分するの例あり、又物産商にも組合の設けあり規約を履行する事宿屋業者に異らざるあり

尙因に記す、近來社會の著しく進歩せると共に鐵路大に開通するや日本三景の首位を占むる此の景勝に抵る者益々多きを加ふるより宿屋料理

屋等本島の商業家は従つて時勢の趨向に傾意する所あり漸次舊來の弊習を除却し進歩の域に向ひつゝあり、近くは又諸外國との條約改正せられ雜居の今日とありてよりは一層その必要を感じ大方旅客の便に適せしめんとするの意ありて客舎第宅を改築するもの多く輓近工匠の業盛んに起れり、本島に旅人宿多きが中にその重立たる者を擧ぐれば海岸通りの龜福、長田、宮本、内山、研ぎ屋、大根屋、山本、塔の岡の松岡、みはらし、紅葉、鷗の瀧戸、當川、伊藤、岩惣井に大元の白雲洞等あり(東より順路による)

◎附記

左にかゝぐるは宮島踊りの明文句あり

△殿島入景の歌 われは筑紫のものゐるぞ、ことし始めて宮島へ、山の景色を見わたせば、聞きしに勝る殿しま、されば參詣申すべし、前の潮で垢離をとり、た前に參る身とあれば、心静かに伏拜み、また立寄りて眺むれば、まことに多き繪馬の數、目を驚かすばかりにて、舞樂の前の火燒先きに、みち來る潮の有様は、異國もしらす吾が國に、斯かる靈地はよもあらじ、神の威をます玉垣の、湯立神樂に巫子の鈴、きねが鼓に

大般若、その音響のありがたや、百八の燈籠が水にうつろへば、澤の螢か秋の夜の、ほしの光りもこれならで、其の名も高き經堂の、五重の塔の九輪まで、心ことばに及ばれず、左ればこれより島廻り、鳥居の洲より船に乗り、纜ときて押出し、櫓拍子揃へて、はやる小歌でたもしろや、春は梅に鶯、夏の卯の花飛ぶはたる、秋は楓に鹿のこゑ、小浦をさきに有の浦、いその松風長濱の、蛭子の宮を伏し拜み、呑めや歌へやざんざと、聖崎をも杉の浦、はるの鼓か浦なれば、鷹の巢すぎて申すなら、浪腰細や青のりの、沖に小さきあまを舟、釣垂れあそぶおもしろや、浪もしづかに宮人の、た鴉招く笛の音に、養父崎見ればありがたや、供へたいたる祭をば、二つ連れたる御鴉が、さも嬉しげにかいはみて、彌山をさして飛び行けば、願主舟子に至るまで、諸願成就と祝きて、船をはやめて押すはごに、革籠崎をも押廻り、山城濱もすぎゆきて、これより須屋へ程遠し、間で慰みたまへやと、名所古跡を語るまに、ひらねを過ぎて須やの浦、まげうつ餅の謂れをば、御床にありし古への、由來を聞

けばありがたや、内子岩をも過行きて、これより直に大元の、大明神と
伏拜む、もはや下向も致すべし、

△小三金五郎の歌 うたて浮名を立てまじよか、禿小三がこひ男、その
こひ小三金五郎、中を譬へて申すなら、かの堀々の二ツ井の、何方を見
ても深ければ、客のさわりと親方が、邊り近ふよせつけず、其れでまほ
しも思ひ草、初めの頃は町方の、客と連立ち割間となりて、それに附添
ひ入込みけれど、後にや親かた其手は喰はぬ、今は詮方みだの種よ、
雨の降る夜も風立つ夜も、甲頭巾で顔たしかくし、傘屋町筋せんたび
も、戻りつ行きの幾度びも、阪田當十郎、杉山勘三、さては玉川半大夫
杯が、聲を似せつゝ合圖でしらす、小三のハツと心に答へ、客の隙間に
格子に出で、見れば悲しや降る雪の、闇にしよんぼり立つ姿、

嚴島案内終

繁 昌 記 附 録

中島本町 同 上 (百方圓) 住友銀行 廣島支店
 蟹屋村 綿絲 紡績 (六十方圓) 中國紡績株式會社
 河原町 同 上 (三十方圓) 廣島綿絲紡績株式會社
 段原村 電力電燈供給 (廿五方圓) 廣島水力電氣株式會社
 大手町七 電燈 供給 (九方圓) 廣島電燈株式會社
 舟入村 製 油 業 (六方圓) 廣島製油株式會社
 東松原 運 送 業 () 內國通運株式會社 廣島支店
 袋 町 移民 取扱 (六方圓) 海外渡航株式會社
 宇品町 通行料徵收 (四方圓) 廣島棧橋株式會社
 鍛冶屋町 度量衡製賣 (三方圓) 廣島度量衡器株式會社
 廣瀨村 綿布 製賣 (三方圓) 廣島織物株式會社
 吉島村 花莖 製織 (三方圓) 廣島製莖株式會社
 宇品町 生魚 販賣 (一万圓) 宇品魚市株式會社

國泰寺村 煉瓦 製造 (三万圓) 廣島煉瓦製造株式會社
 平塚町 貸地 貸家 (六万圓) 廣島東榮株式會社
 西新町 貸地 營業 (八千七百圓) 矯衛貸地株式會社
 天神町 印 刷 業 (一万圓) 廣島印刷株式會社
 中島本町 物品 競賣 () 廣島競商株式會社
 水主町 製造 販賣 (二万千圓) 廣島度量衡器製造株式會社
 三川町 燐寸 製賣 (二万圓) 合資廣島油明會社
 平田屋町 生魚 販賣 (二万五千圓) 廣島魚市合資會社
 大手町七 石版 印刷 (二万五千圓) 廣島石版印刷合資會社
 堀川町 石鹼 製造 (六千圓) 山陽石鹼合資會社
 廣瀨村 牛乳 販賣 (五千圓) 廣島合資ミルク會社
 吉島村 板紙 製賣 (八万圓) 廣島板紙製造合資會社
 山口町 醬油 製賣 (一万圓) 合資廣島醬油製造會社

京橋町	金穀貸付	(二万五千圓)	廣島殖益合資會社
觀音村		(四千圓)	廣島觀榮合資會社
西新町	貸地營業	(二万三千圓)	舟入貸地合資會社
同	同上	(三万五千圓)	第二舟入貸地合資會社
江波村	硝子製賣	(五千圓)	廣島硝子製造合資會社
中島本町	殺蟲液販賣	(五千圓)	殖產合資會社
新川場町	綱具製造	(四千八百圓)	保田合名廣島起業會社
段原村	燐寸製造販賣	()	廣島高坂燐寸部工場
久保町	尾道市銀行營業	(以下資本金一萬圓未滿の會社は省く)	株式會社六十六銀行
同	同上	(五万圓)	同尾道米鹽肥料取引所
同	同上	(五万圓)	同尾道米鹽肥料取引所
十四日町	銀行營業	(三万千圓)	西原銀行
久保町	電燈業	(五万圓)	尾道電燈株式會社

同	銀行及會社業	(三十万圓)	尾道諸品株式會社
土堂町	青物業	(二万圓)	尾道青物株式會社
久保町	貸付業	(三万圓)	尾道勸商株式會社
土堂町	藍仲買	(二万圓)	尾道合資藍會社
十四日町	仲買業	(二万圓)	尾道蘭草合資會社
土堂町	魚鹽仲買	(二万圓)	食鹽商會
同	銀行業		住友銀行尾道出張店
安佐郡			
祇園村	商	(一万圓)	沼田蘭蓆合資會社
可部町北	銀行業	(三万圓)	可部貯蓄銀行
安藝郡			
和庄町	銀行業	(三万圓)	株式會社吳貯蓄銀行
同	同上		大本銀行
同	同上	(十萬圓)	株式會社吳商業銀行
同	同上		住友銀行吳出張店

